

国立国語研究所学術情報リポジトリ

全国方言談話データベース 日本のふるさとことば
集成：第6巻 東京・神奈川

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15084/00002246 |

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第6巻 東京・神奈川

国立国語研究所資料集 13-6

国立国語研究所

2002

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成14年12月

国立国語研究所長 甲斐睦朗

利用にあたって

1. 内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

| | 冊子 | CD-ROM | CD |
|---------|----|--------|----|
| 刊行のことば | ○ | ○ | |
| 利用にあたって | ○ | ○ | |
| 目次 | ○ | ○ | |

東京都台東区1980

| | | | |
|-------------------------------|---|---|---|
| 地図 | ○ | ○ | |
| 話者・担当者 | ○ | ○ | |
| 解説 | ○ | ○ | |
| 凡例 | ○ | ○ | |
| 談話 | ○ | ○ | |
| 【年末年始，初午，ほおずき市】 | | | |
| 文字化・共通語訳 | ○ | | |
| 文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位） | | ○ | |
| 文字化・共通語訳検索 FileMaker | | ○ | |
| 文字化 text（談話全体） | | ○ | |
| 共通語訳 text（談話全体） | | ○ | |
| 方言音声（談話全体） | | | ○ |
| 注記 | ○ | ○ | |

神奈川県小田原市1983

| | | | |
|--------|---|---|--|
| 地図 | ○ | ○ | |
| 話者・担当者 | ○ | ○ | |
| 解説 | ○ | ○ | |
| 凡例 | ○ | ○ | |
| 談話 | ○ | ○ | |

| 【年中行事】 | | | |
|--------------------------------|---|---|---|
| 文字化・共通語訳 | ○ | | |
| 文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位) | | ○ | |
| 文字化・共通語訳検索 FileMaker | | ○ | |
| 文字化 text (談話全体) | | ○ | |
| 共通語訳 text (談話全体) | | ○ | |
| 方言音声 (談話全体) | | | ○ |
| 注記 | ○ | ○ | |

作成・公開の経緯

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| 「各地方言収集緊急調査」について | ○ | | |
| 「各地方言収集緊急調査」地点一覧 | ○ | | |
| 「各地方言収集緊急調査」地点地図 | ○ | | |
| 各地方言収集緊急調査補助全体計画 | ○ | | |
| 各地方言収集緊急調査費国庫補助要項 | ○ | | |
| 各地方言収集緊急調査実施要領 | ○ | | |
| 各地方言収集緊急調査の実施について | ○ | | |
| 調査実施上の留意事項について | ○ | | |
| 「全国方言談話データベース」について | ○ | | |

| | | | |
|----------------------|--|---|--|
| Adobe Acrobat Reader | | ○ | |
|----------------------|--|---|--|

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
waveファイル，ステレオ

CD-ROM は、CD プレイヤーで再生しないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては、個人のプライバシー等に配慮しました。談話データの中には、現在では、その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが、学術的・歴史的資料の保存という観点から、そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ、お使いください。

2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータは、どのような目的においても、また、どのような媒体（紙、電子メディア、インターネットを含む）によっても、他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータは、非営利の教育・研究目的に限り、自由に利用できます。ただし、上記(2)は守ってください。
- (4) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は、
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように、明記してください。
あわせて、成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。
- (5) 以上の利用条件に合致しない場合、あるいは、利用について不明な点がある場合は、国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒115-8620

東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：03-3906-3530

4. 付記

データの電子化、CD-ROM、CDの作成については、平成9(1997)～14(2002)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所 13-6

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第6巻 東京・神奈川

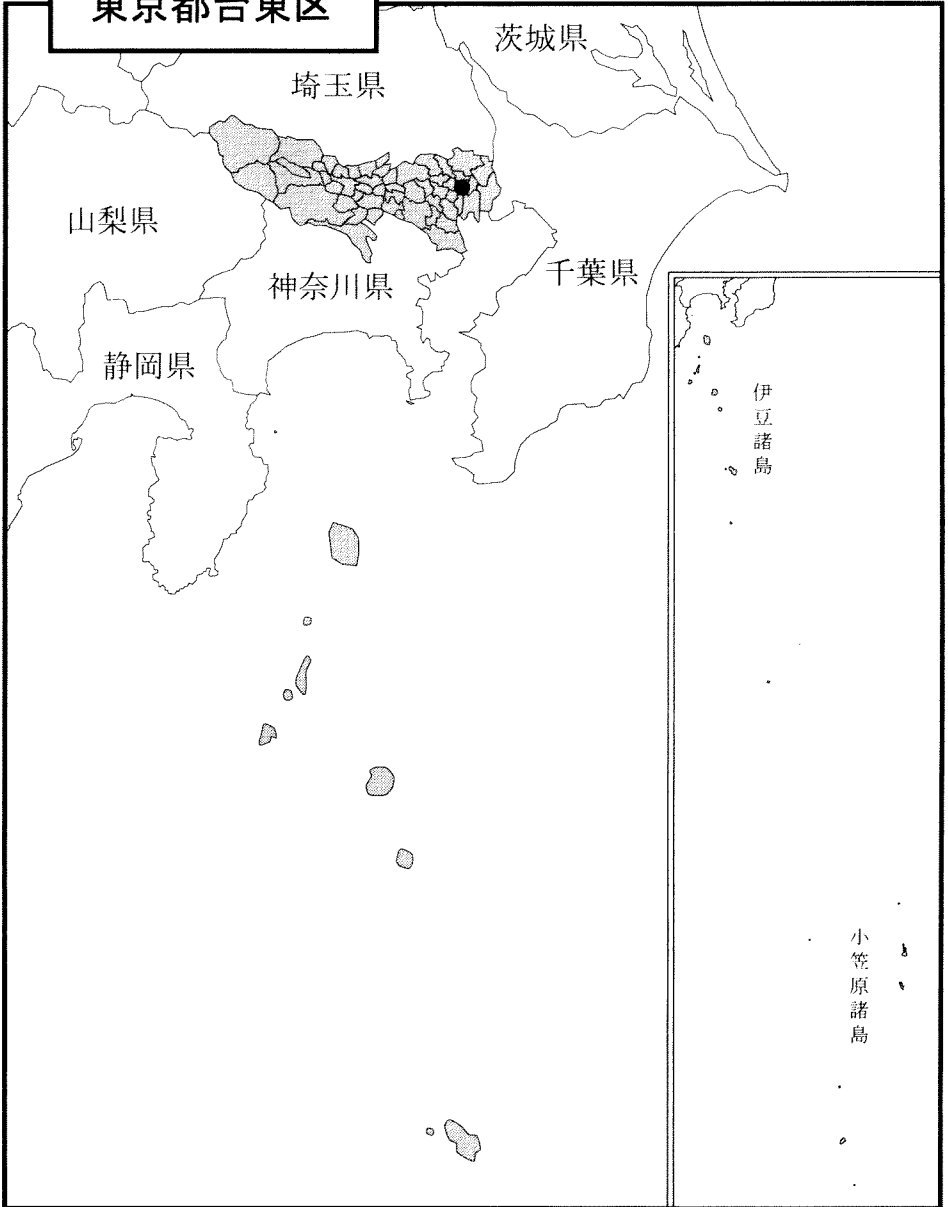
目次

| | |
|-------------------|-----|
| 刊行のことば | 3 |
| 利用にあたって | 5 |
| | |
| I. 東京都台東区1980 | 11 |
| 地図 | 12 |
| 話者・担当者 | 13 |
| 解説 | 14 |
| 凡例 | 20 |
| 談話 | 25 |
| 【年中行事, 初午, ほおずき市】 | 26 |
| 注記 | 104 |
| | |
| II. 神奈川県小田原市1983 | 107 |
| 地図 | 108 |
| 話者・担当者 | 109 |
| 解説 | 110 |
| 凡例 | 113 |
| 談話 | 118 |
| 【年中行事】 | 119 |
| 注記 | 187 |
| | |
| 作成・公開の経緯 | 189 |
| 「各地方言収集緊急調査」について | 191 |
| 「各地方言収集緊急調査」地点一覧 | 195 |

| | |
|--------------------|-----|
| 「各地方言収集緊急調査」地点地図 | 200 |
| 各地方言収集緊急調査補助全体計画 | 201 |
| 各地方言収集緊急調査費国庫補助要項 | 202 |
| 各地方言収集緊急調査実施要領 | 203 |
| 各地方言収集緊急調査の実施について | 206 |
| 調査実施上の留意事項について | 208 |
| 「全国方言談話データベース」について | 214 |

I . 東京都台東区
1980

東京都台東区



茨城県

埼玉県

山梨県

神奈川県

千葉県

静岡県

伊豆諸島

小笠原諸島

東京都台東区1980話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

| | |
|---------|----------------|
| 話者 | 喜多川 周之 松本 君 |
| 収録担当者 | 稲垣 滋子 |
| 文字化担当者 | 稲垣 滋子 |
| 共通語訳担当者 | 稲垣 滋子 |
| 解説担当者 | 稲垣 滋子 |

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

| | |
|-------|---------------------------------|
| 編集担当者 | 佐藤 亮一 江川 清 田原 広史 井上 文子 |
| 編集協力者 | 佐藤 祐希子 鳥谷 善史 熊谷 康雄 |

東京都台東区1980解説

収録地点名 東京都台東区

収録地点の概観

位置

東京都全体の中では東端に近く、23区の中では中心よりやや東に位置する。

交通

非常に発達している。一日の乗降客17万人を数える上野駅は、北海道・東北・上信越・北関東方面への長距離列車の発着駅である。区内を走るのはその他、山手線、京浜東北線、総武線などの国電、私鉄の東武、京成各線、地下鉄銀座線、日比谷線である。

地勢

西側の台地部分と東側の平地部分とに分かれる。国電はその境目の崖下を南北に走っている。区の東に隅田川、南に神田川があり、それぞれ他区との境をなす。台地部分は、上野公園と、寺社の集中している谷中とで占められ、商住地は平地部分に発達している。

行政区画

徳川幕府直轄の時代を経て、1868(慶応4)年、江戸は東京府と変わった。

1878(明治11)年、下谷区、浅草区が成立。はじめは東京府、1888(明治22)年から東京府東京市、1943(昭和18)年から東京都に所属。1947(昭和22)年、下谷区、浅草区が合併して、台東区が生まれた。

戸数・人口

1979(昭和54)年4月1日現在、世帯数72,726戸、人口190,869人。台東区の人口は、1957(昭和32)年の303,399人を最高として毎年減少している。

産業

台東区を代表する産業は、靴、履物を中心とする皮革製造業である。伝統産業としては、みこし、太鼓、神仏具の製造・卸売が盛んである。玩具の卸売業も多い。また、寺社という観光資源と関連して、飲食店、みやげ物、その他の商店が多い。

方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

関東方言の中の東京方言。収録地点の方言は、東京方言の中でもいわゆる「下町ことば」に属する。「山の手ことば」との違いは、「ない」が「ネー」になること。「昼」が「シル」になること、ラ行の巻き舌音があることなどで、「ネー」は東京都の三多摩方言や関東方言の特色と一致する。三多摩方言や関東方言に存在する「ペー」は、台東区にはない。アクセントは区画上は東京アクセントである。

音韻

(1) 無声子音にはさまれた母音 [i], [u] は無声化する。無声化は [i̥], [u̥] のように表す。

| | | |
|-----|-----------|-------|
| ツキ | [tsu̥ki] | (月) |
| スキ | [su̥ki] | (好き) |
| フクロ | [ɸu̥kuro] | (袋) |
| アキチ | [akit̚i] | (空き地) |
| チカラ | [t̚ikara] | (力) |
| ヒクイ | [çikui] | (低い) |

また、語末の母音 [i], [u] が無声子音につき、その拍がアクセントの低に当たる時、その母音は無声化することが多い。

| | | |
|------|------------|--------|
| マツ | [matsu̥] | (松) |
| イキマス | [ikimasu̥] | (行きます) |
| オカシ | [okḁi] | (お菓子) |
| カチ | [kat̚i] | (価値) |

(2) 語頭以外のガ行音は鼻音化する。ただし、複合語の後部要素のはじめは鼻音化しないことが多い。

| | | |
|-------------------|-----------|-------|
| ナカ ^o イ | [nagai] | (長い) |
| ムキ ^o | [mũŋi] | (麦) |
| カク ^o | [kaŋu] | (家具) |
| アケ ^o ル | [aŋeru] | (上げる) |
| ツコ ^o ー | [tsũŋoː] | (都合) |

オンカ[°]クガッコー [onnakugakko:] (音楽学校)

- (3) 巻き舌音が男性にみられる。急いで話すときに顕著に現れる。

アルンダ [arunda] (あるのだ)

ブレーキ [bure:ki] (ブレーキ)

ダカラ [dakara] (だから)

オレ [ore] (おれ)

- (4) 促音が挿入されることがある。

～ラシクッテ [raʃikʊtte] (～らしくて)

ムカイッカワ [mukaikkawa] (向かい側)

促音化して、後に続く子音を変えることもある。

マッチロ [mattʃiro] (真っ白)

マッツク[°] [mattʃʊkʊ] (まっすぐ)

- (5) 男女とも、「ヒ」が「シ」に発音されることがある。個人差がみられる。

シル [ʃiru] (昼)

シロイ [ʃiroi] (広い)

シ [ʃi] (日)

シジョーニ [ʃidʒo:ni] (非常に)

- (6) 「シュ」が「シ」に、「ジュ」が「ジ」に発音される。特に地名に多い。

センジ [sendʒi] (千住)

シンジク [ʃindʒikʊ] (新宿)

ゲシク [geʃikʊ] (下宿)

シジツ [ʃidʒitsʊ] (手術)

- (7) ラ行音が別の音になるか、脱落することがある。

タマンネー [tamanne:] (たまらない)

ソイカラ [soikara] (それから)

ナッテクント [nattekunto] (なってくると)

ナッテクット [nattekutto] (なってくると)

アンダヨ [andajo] (あるんだよ)

- (8) [w] が脱落することがある。

マール [ma:ru] (回る)

カマーネー [kama:ne:] (かまわない)

(9) 連母音の融合がみられる。

イカネー [ikane:] (行かない)

タケー [take:] (高い)

オセール [ose:ru] (教える)

メーネー [me:ne:] (見えない)

ケール [ke:ru] (帰る)

サミー [sami:] (寒い)

(10) 語形の縮約が見られる。

アリャー [arja:] (あれは)

ソリャー [sorja] (それは)

コリャー [korja:] (これは)

アラー [ara:] (あれは)

ソラー [sora:] (それは)

コラー [kora:] (これは)

アラ [ara] (あれは)

ソラ [sora] (それは)

コラ [kora] (これは)

コンダ [konda] (今度は)

モナー [mona:] (ものは)

アスカー [asuka:] (あすこは [=あそこは])

トケー [toke:] (どこへ [=所へ])

(11) 語頭の「ウ」は [m] に続く時、「ン」と発音される。個人差がある。

ンマ [mma] (馬)

ンメ [mme] (梅)

ンマク [mmaku] (うまく)

(12) 語末が長音化することがある。

ジョーチョーダネー [dʒo:tʃo:dane:] (情緒だねえ)

カゾクセードーモ [kadzokuse:do:mo] (家族制度も)

- (13) だいたい東京アクセントである。時に、古い型、例えば、オ¹イナリサン、新しい型、例えば、ショ¹ージキ（正直）、タベ¹モノ（食べ物）、タノジ¹ミ（楽しみ）などが現れる。また形容詞では、ホゾ¹ク（細く）、シロ¹クテ（白くて）のような、新しい型がかなり顕著である。

文法

- (1) 終助詞、間投助詞を非常に多く使う。男女とも。「ネ」、「サ」が多い。
- (2) 動詞に「ヤカ¹ル」をつけることがある。男性のみ。親しみを表す。
オヨイデヤカ¹ル（泳いでいやがる）
シラネ¹ーッテヤカ¹ンダ（知らないと言いやがるんだ）
早口で言う時は「ヤン」になる。
ミテヤン¹ノ（見ていやがる）
- (3) 「です」の「で」を脱落させることがある。男性が早口で話す時。
ナイス¹ヨ（ないですよ）
シラナカッタス¹モノ（知らなかったですもの）
- (4) 助詞を脱落させる時、脱落した長さ分、長音で言うことがある。
エーカ¹ニ ミニイク（映画を見に行く）
シコト¹ニ スル（仕事をする）
- (5) 「になる」の「に」が「ン」になることがある。
リップ¹ン ナル（立派になる）
キレー¹ン ナル（きれいになる）
- (6) 連体修飾を「ナ」で表すことがある。
～ト ユーノカ¹ シュミナ¹ ヒト（～というのが趣味の人）
ハバ ニケンク¹ライナ¹ ドブカ¹ワ（幅2間くらいの溝川）
- (7) 可能動詞を用いずに、「五段活用動詞+レル」で言うことがある。
ヨバレ¹ル（呼べる）
ヨバレナイ（呼べない）
カカレ¹ル（書ける）
カカレナイ（書けない）
- (8) 丁寧語「オ」、「ゴ」を、男女ともさかんに使う。

(9) 「～てしまう」を、「～チマウ」「～チャウ」と言うことがある。

イツチマウ (行ってしまう)

イツチャウ (行ってしまう)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿、および、『東京都のことば』(東京都教育委員会, 1983年), 『東京都言語地図』(東京都教育委員会, 1986年)によるものである。)

東京都台東区1980凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROM には、ページ単位で切った方言談話音声を、CD には、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

/// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

////// 「文字」なんですね。

[] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ
みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー
今 いう [=今話題にあがった]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して|

{ } 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある 再生 の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「東京01-1」は CD トラック番号が01で、その1ページ目ということである。「東京01-1」「東京01-2」……「東京02-6/03-1」……「東京17-6」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑01, 01↑02, …… 16↑17, 17↑ のように表示される。

第6巻のCD(69分34秒)には、東京都台東区の談話、【年末年始、初午、ほおずき市】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

| トラックNo. | 開始ページ・行 | 終了ページ・行 | 時間:分:秒 |
|---------|-----------|------------|---------|
| 01 | p.26・0.1 | p.29・0.19 | 0:01:49 |
| 02 | p.30・0.1 | p.35・0.11 | 0:02:11 |
| 03 | p.35・0.13 | p.39・0.15 | 0:02:08 |
| 04 | p.39・0.17 | p.44・0.19 | 0:02:03 |
| 05 | p.45・0.1 | p.49・0.19 | 0:02:05 |
| 06 | p.49・0.19 | p.54・0.7 | 0:02:11 |
| 07 | p.54・0.9 | p.57・0.19 | 0:01:59 |
| 08 | p.57・0.19 | p.62・0.3 | 0:01:52 |
| 09 | p.62・0.5 | p.66・0.9 | 0:01:58 |
| 10 | p.66・0.11 | p.71・0.7 | 0:02:14 |
| 11 | p.71・0.7 | p.75・0.7 | 0:01:51 |
| 12 | p.75・0.7 | p.79・0.5 | 0:02:03 |
| 13 | p.79・0.7 | p.84・0.3 | 0:02:07 |
| 14 | p.84・0.3 | p.89・0.7 | 0:02:02 |
| 15 | p.89・0.9 | p.93・0.17 | 0:01:55 |
| 16 | p.93・0.19 | p.98・0.17 | 0:02:13 |
| 17 | p.98・0.17 | p.103・0.19 | 0:02:10 |
| 計 | | | 0:34:51 |

東京都台東区1980談話

収録地点 東京都台東区

収録日時 1980(昭和55)年3月13日

収録場所 上野公園 東京都美術館 集会室

話題 年末年始, 初午, ほおずき市

話者

| | | | | |
|---|---|--------------|----------|-----|
| A | 男 | 1911(明治44)年生 | (収録時69歳) | 画版業 |
| B | 女 | 1907(明治40)年生 | (収録時73歳) | 無職 |

調査員 女 (収録談話中に発話なし)

収録時間 (CD) 34分51秒

【年末年始，初午，ほおずき市】

話し手

- A 男 明治44年生 (収録時69歳) 画版業
B 女 明治40年生 (収録時73歳) 無職

1 A : ウチンナカデサ (B エー) アノー ススハライ ヤルデショ。
家の中でね (B ええ) あの 煤払い[を] やるでしょう。

↑01

2 B : ヤリマス。
やります。

3 A : ネー。 (B エー) デ コレワ コー ナンテ ユーノカナー
ねえ。 (B ええ) で これは こう なんて 言うのかなあ

(B {咳}) ソレゾレノ ウチデ キマッテ ナインダヨネ
(B {咳}) それぞれの うちで 決まって ないんだよね

ヒワネー。
日はねえ。

4 B : エー シニチワネ。
ええ 日にちはね。

5 A : ネー。 シコトノ ヤリクリ (B アイマニネ) デネー
ねえ。 仕事の やりくり (B 合い間にね) でねえ

(B エー) デモ カナラズ イチネンジューノ コノー
(B ええ) でも 必ず 1年中の この

東京 01-2

ススオ ハラウンダ ッテンデ (B ハラッテサ スッカリ)
煤を 払うのだ というので (B 払ってね すっかり)

コレワ ナカ°ヤデモ ヤッタモンネ。
これは 長屋でも やったものね。

6 B : ドコデモ ヤリマシタネ。
どこでも やりましたね。

7 A : ネ (B エー) ホトンド オーダナー オーダナーデ コー
ね (B ええ) ほとんど 大店 大店で こう

デイリノ オトコシューヤナンカ ヤッテ (B エー) コー
出入りの 男衆やなんか [が] やって (B ええ) こう

バカニ ケーキヨク ヤルケドネー。 (B エー エー)
ばかに 景気よく やるけれどねえ。 (B ええ ええ)

エー ナカ°ヤー ナカ°ヤデー コドモワ コドモノ オー
えー 長屋 [は] 長屋で 子供は 子供の ××

ミブンデ テダスケ シテネ。 (B ソー) エー ケッコー。
身分で 手助け してね (B そう) えー けっこう。

ホントニ ススハライッテ スス デンダネ。
ほんとうに 煤払って 煤 [が] 出るんだね。

8 B : デマスヨ (A ネー) タクサンネー。 (A ネー)
出ますよ (A ねえ) たくさんねえ。 (A ねえ)

東京 01-3

ダッテ モー ドッカラ ドコマデスモノー。
だって もう どこから どこまでですもの。

(A ソーダネー ソイデ)

(A そうだねえ それで)

エンノ エンノシタカラ テンジョーカラネー。 (A ソーナンダヨ)
××× 縁の下から 天井からねえ。 (A そうなんだよ)

トダナノ オクカラ ナニカラ (A ウン) ナニマデデショー。
戸棚の 奥から 何から (A うん) 何まででしょう。

9 A : ソイデ アンナカデー クモノスカ° オーインダカラ
それで あの中で クモの巣が 多いんだから

アンナニ クモカ° イタノカネー。
あんなに クモが いたのかねえ。

10 B : ムカシワ イタンデスヨ。 (A ネー)
昔は いたんですよ。 (A ねえ)

ダッテサー アノ ウラノネ (A ウン)
だってね あの 裏のね (A うん)

ウラカ°サー コー エンカ°ワカ° アッテサー (A ウン)
裏がね こう 縁側が あってね (A うん)

ソノ シタカ° コー トーリン ナッテルデショー。
その 下が こう 通りに なっているでしょう。

東京 01-4

(A ウン ウン ウン ウン)

(A うん うん うん うん)

ジブンノ ウチー ミンナ イロンナ アノー ナスダトカサ {笑}
自分の うち [に] みんな いろんな あの ナスだとかね {笑}

インキ[°]ンダトカ マイトクノヨー。 (A ウン ウン ウン)
インゲンだとか 蒔いておくのよ。 (A うん うん うん)

アサノ オツケノ ミニ ナルヨーニネ。
朝の おみおつけの 実に なるようにね。

(A ソー ソー ソー ソー)

(A そう そう そう そう)

ソーイ トコロノネー ウエノ ホー ミルデショー。
そういう ところのねえ 上の 方 [を] 見るでしょう。

(A ウーン) ト クモノ コンナ オーキーノカ[°] イタワネ。
(A うーん) すると クモの こんな 大きいのが いたわね。

(A イタンダナー) ダカラ ムカシワ クモ イマシタヨ。
(A いたんだなあ) だから 昔は クモが いましたよ。

11A : ソーナンダネー。 ソエデ アレー クモダッテネー
そうなんだねえ。 それで あれ クモだっけねえ

ズイブン シュルイカ[°] チカ[°]ウンダナー。 (B エー)
ずいぶん 種類が 違うんだなあ。 (B ええ)

01 ↑ 02

東京 02-1

ダッテ アノー コー ローカノネ (B エー) エー スミッコ
だつて あの こう 廊下のね (B ええ) えー 隅

エンノシタノ スミッコナゾワ アノ サンカクン ナッテッタ
縁の下の 隅などは あの 三角に なっていた

トコロエ コー クモノス ヤンデショー。 (B エー)
ところへ こう クモの巣 やるんでしょう。 (B ええ)

ソーカト オモート エニ カイタ クモノスミテーナー
そうかと 思うと 絵に 書いた クモの巣みたいなのは

タイカ°イ ノキサキダヨネ。 (B エー) ンー
だいたい 軒先だよ。 (B ええ) んー

ソエデ ソノ ホカニ マタ ダイドコロノ ヨコッパラアタリダト
それで その ほかに また 台所の 横あたりだと

ナンカ シラネー イ アノ アヤトリノ イトカ°
何か 知らない × あの 綾取りの 糸が

コンカ°ラッタヨーナ スーノ。
こんがらかったような 巣の。

12B : ソー。 イロンナ スカ° アンノネ (A アンダヨネー)
そう。 いろいろな 巣が あるのね (A あるんだよねえ)

スニモネ。
巣にもね。

東京 02-2

13A : ウン。 ソエデ クモダッテ オーキーンダノ チーチェーンダノ
うん。 それで クモだって 大きいのだの 小さいのだの

ウー アノー オシリノ デケーンダノ アシノ ナケーンダノネ
うー あのう おしりの 大きいのだの 足の 長いのだのね

(B ソー。 エー) ニンソージャー ネー

(B そう。 ええ) 人相では ない

マー クモソーマデニ イッパイ アラーネー。

まあ クモ相/// いっぱい あるわねえ。

14B : クモダッテ イロイロ シュルイカ° アッテ (A アー)
クモだって いろいろ 種類が あって (A ああ)

イロンナ シロイノト クロイノト (A アー アッテネー)
いろいろな 白いのと 黒いのと (A ああ あってねえ)

マジッテルダノ ムジダノネ (A ウン)
混じっている [の] だの 無地だのね (A うん)

イロイロ イマスヨ。

いろいろ いますよ。

15A : ソンナ ススカ° ミンナ イッペンニ イチネンジャー
そんな 煤が みんな いっぺんに 1年中

デチャウンダモンネー。 (B エー デモ アレ)

出てしまうんだものねえ。 (B ええ でも あれ)

東京 02-3

16B : デモ アレデショー。
でも あれでしょう。

イマワ コノ トーキョーナンテ ユー トコロワ
今は この 東京なんて いう ところは

ソーユー クモナンテ ソー イナインデショ。
そういう クモなんて そう いないんでしょう。

17A : イナイケド アノー ホラ エー ハイトリグ°モ ッテ ユーノ。
いないけれど あの ほら えー ハエ取りグモ っつて いうの。

(B エー) アノ コーユー グアイニ
(B ええ) あの こういう 具合に

アノー ナンテ ユーノカナー アノー
あの 何と いうのかなあ あの

クチバシーミテーナ テー モッテル ヤツカ° (B エー)
くちばしみたいな 手 [を] 持っている ものが (B ええ)

アレ ピョッピョッテ トブンダケドサ。
あれ ピョッピョッと 跳ぶんだけどね。

デ ジッサイニ アノー ンー
それで 実際に あの んー

ハイオ コー ツカマエルンダケドサ (B エー)
ハエを こう つかまえるんだけどね (B ええ)

東京 02-4

ウー ナンカ ツチイロノ クモ アレワ イルネ
うー 何か 土色の クモ あれは いるね

カンダアタリデモ。
神田あたりでも。

18B：アー ソーデスカー。
ああ そうですか。

19A：アー。 ソレト マー ジブンノ トコカラ
ああ。 それと まあ 自分の ところから

ホラ スルカ°ダイノ ガケカ° アルカラネ (B アー)
ほら 駿河台の 崖が あるからね (B ああ)

イマダニ ヤモリカ° イルンダヨ。 (B アー ヤモリカ°ネー)
いまだに ヤモリが いるんだよ。 (B ああ ヤモリがねえ)

ウン。 ケーコートーノネー コーユウ カバーノ ナカー
うん。 蛍光灯のねえ こういう カバーの 中 [に]

ハイッチャッテ。 コンナ チーチャナ ヤモリ。 (B アラー)
入ってしまって。 こんな 小さな ヤモリ。 (B あらあ)

アラ ナツカシカッタネー。
あれは 懐かしかったねえ。

20B：ホントネ。 イマ アンマリ イナインデスヨ。
ほんとうね。 今 あまり いないんですよ。

東京 02-5

21A : ウン。 イナイノ。 (B エー)
うん。 いないの。 (B ええ)

デー アー コレ ヤッパリ ガケーカ° アル セーカナー ト
で あー これ[は] やはり 崖が ある せいかな と

オモッタケドネー。 (B アー)
思ったけれどねえ。 (B ああ)

22B : ハー。 ムカシワ ヨク イマシタネ。 (A エー イタ)
はあ。 昔は よく いましたね。 (A ええ いた)

カベナンゾエ クツツイチャッテネー。
壁などへ くつついていてねえ。

(A クツツイチャッテネー) オンナシヨーナ イロー
(A くつついてしまってねえ) 同じような 色を

(A アー アー) シチャッテネ。 (A へー)
(A ああ ああ) してね。 (A へー)

23A : ウン。 ウン。 (B エー)
うん。 うん。 (B ええ)

ダカラ ススハライノ トキーヤナンカニサ
だから 煤払いの 時などにね

デ コー オワルト アレ オチャカ°シカ° デンデショー。
で こう 終わると あれ お茶菓子が 出るでしょう。

ンデ (B エー デマス) アレー デル オチャカ°シ ッテーノワ
それで (B ええ 出ます) あれ 出る お茶菓子 というのは

タイカ°イ キマッテンダネ。
だいたい 決まっているんだね。

シオセンベトカ (B ソー) ダンコ°トカ ダイフクトカネ。
塩せんべいとか (B そう) 団子とか 大福とかね。

24B : エー エー エー。 (A ンー) オナカニ タマルヨーナ モノネ。
ええ ええ ええ。 (A んー) おなかに たまるような ものね。

25A : タマルヨーナ。
たまるような。

26B : デルノ。
出るの。

02↑03

27A : ソーナノネー。 デ オワリヤー コンド ミソカソバダ
そうなのねえ。 で 終われば 今度 [は] 晦日そばだ

オーミソカニネ。 (B エー)
大晦日にね。 (B ええ)

イマ ミソカソバ ヤラナイデショ。
今 晦日そば やらないでしょう。

28B : ウチデワネー (A エー) ヤッテマスヨ。
うちではねえ (A ええ) やっていますよ。

東京 03-2

29A : アー コナイダネー {笑} キョネンノ クレカ。 (B {笑})
ああ この間ねえ {笑} 去年の 暮れか。 (B {笑})

クヤクショノ カエリニ アノ マエニ オキナヤ ッテ ユーノ
区役所の 帰りに あの 前に 翁屋 と いうの[が]

アンダヨネ。 (B エー オソバヤサン)
あるんだよね。 (B ええ おそば屋さん)

アスコ フルインダヨネ。 ウン。
あそこ [は] 古いんだよね。 うん。

ソシタラネ トシコシソバノ オリイレカ° アッタヨ。
そうしたらね 年越しそばの 折入れが あったよ。

30B : アー アー アー。 アノ ソーユーノ アリマスネ。
ああ ああ ああ。 あの そういうの [が] ありますね。

31A : ウン。 ホイカラネー オカシーノ。
うん。 それからねえ おかしいの。

ソエデ ソバヤー ホカノ ソバヤー イクトネ (B エー)
それで そば屋 [へ] ほかの そば屋 [へ] 行くとね (B ええ)

エー トシコシソバー ロクジマデニ オモーシコミクダサイ
えー 年越しそば [は] 6時まででに お申し込みください

エー ナンジニ ハイタツ シマス ッテ。
えー 何時に 配達 します って。

東京 03-3

32B : ア ミンナ ヨヤクナンデスヨ。 (A ネー)
あ みんな 予約なんですよ。 (A ねえ)

エー。 オソバモネー コムデショー。
ええ。 おそばもねえ 込むでしょう。

ダカラ ミンナ ヨヤクン ナッチャッテンノ。
だから みんな 予約に なってしまっているの。

33A : アレー ダカラサ ダカラ アレ ドーユーンダローネー。
あれ [は] だからね だから あれ [は] どういうんだらうねえ。

モー ジカンデー トシコシカ° キメラレチャーндヨネー。
もう 時間で 年越しが 決められてしまうんだよねえ。

34B : キメラレチャーノ。 ダカラネ (A アー)
決められてしまうの。 だからね (A ああ)

ソンナニ ハヤクネー (A アー)
そんなに 早くねえ (A ああ)

アレ シタッテサー アー コマルヨー。 (A コマルヨネー)
あれ したってね あー 困るよ。 (A 困るよねえ)

モットネー オソクネー {笑} タベンデショー。 (A ウン)
もっとねえ 遅くね {笑} 食べるんでしょう。 (A うん)

オナカカ° (A ソイデ ソー) スカラサー。
おなかか (A それで そう) すくからね。

東京 03-4

ソレダノニネー アンタ ロクジマデダナンテ ユワレタンジャネー。
それなのにねえ あなた 6時まででなんて 言われたのではね。

35A : ネー チョット コマル。 (B コマルワ)
ねえ ちょっと 困る。 (B 困るわ)

ソエデ コノコ°ロ ソノ オーミソカーノ ニ ススハライ
それで このごろ その 大晦日× に 煤払い [を]

ヤッチャウヨーナ ダンダン (B エー) オセオセミテーニ。
やってしまうような だんだん (B ええ) 押せ押せみたいに。

(B オセオセン ナッチャウ)
(B 押せ押せに なってしまう)

エデ ダカラ アレー カザリモンダッテ アレジャー ナイノカナ
それで だから あれ 飾り物だっ て あれでは ないのかな

ソーネー ニジュー アレ ニジューニサンチコ°ロカナー クレノ。
そうねえ ×××× あれ 22、3日ごろかなあ 暮れの。

36B : カザッチャウンデスカ。
飾ってしまうんですか。

37A : アー アー。 モー スコシ オクレテータカナ。
ああ ああ。 もう 少し 遅れていたかな。

マチ ジブンチデ ヤンノワネー (B エー)
×× 自分のうちで やるのはねえ (B ええ)

アレ マチデ アノー マチノ ホラ アノー カシラヤ ナンカカ°
あれ 街で あの 街の ほら あの 頭や なにかが

オーライデ ウルデショー。 (B エー)
往来で 売るでしょう。 (B ええ)

アントキーワ モー ニジューゴロクンチコ°ロダヨネー。
あの時は もう 25、6日ごろだよねえ。

38B : エー。 アレワネー (A ウン) オクレテ シマスヨ。 (A ネー)
ええ。 あれはねえ (A うん) 遅れて しますよ。 (A ねえ)

エー ダカラネー アノー (A ウン アレワ)
ええ だからねえ あのう (A うん あれは)

ウチジャネー (A ウン)
うちではねえ (A うん)

ワリアイニネー アノー ノンビリ シテタデショ。 (A アー)
わりあいねえ あのう のんびり していたでしょう。 (A ああ)

ダカラネー ソーカト ユッテサー
だからねえ そうかと 言ってね

03↑04

アノ サンジューイチンチデワ ダメナノヨ。
あの 31日では だめなのよ。

39A : アッ イチャカザリワ ダメナンダ。 ウン アリヤ ダメナンダ。
あ、 一夜飾りは だめなんだ。 うん あれは だめなんだ。

東京 04-2

シー

んー

40B：イチャカザリワ ダメダカラ。
一夜飾りは だめだから。

ニジューネー (A シー) ハチンチニネ (A ハチンチコロダ)
20ねえ (A んー) 8日にね (A 8日ごろだ)

カッチャーノ。 (A アー ナルホドネ シー)
買ってしまうの。 (A ああ なるほどね んー)

ソンドネ (A アー) アノー カザッチャウノ。 (A アー)
それでね (A ああ) あの 飾ってしまうの。 (A ああ)

ゼンブ モー。 (A アー)
全部 もう。 (A ああ)

アノ ソー シナイトサー モー ナカナカネー
あの そう しないとね もう なかなかねえ

カザル ツッタッテ タイヘンデスモノネ。
飾る といっても たいへんですものね。

41A：タイヘンダヨネー。
たいへんだよねえ。

42B：デ イマワネー エー (A エー) ダイジンク° [1] サマモ
で 今はねえ えー (A ええ) 大神宮様も

東京 04-3

コージン [2] ク°サマモ ナクナッチャッタカラサ
荒神×様も なくなってしまったからね

(A ナクナッチャッタカラネ) キラクナ モンデスケドネ
(A なくなってしまったからね) 気楽な ものですけれどね

ムカシャー アナタ (A アッ ソレワ タイヘンダネー)
昔は あなた (A あ それは たいへんだねえ)

タイヘンナンデスヨネー。
たいへんなんですよねえ。

43A : エー ソコエ ミンナ チーチャナ アレー オソナエカラ ナンカラ
えー そこへ みんな 小さな あれ お供えから 何から

ヤッテ。
やって。

44B : ソー。
そう。

45A : ゼンプナー エコヒーキノ ネーヨーニ アツカーネート
全部なあ えこひいきの ないように 扱わないと

バチカ° アタッチャーカラナー。
罰が 当たってしまうからな。

46B : ナイヨーニネ。 バチカ° アタッチャー。 (A ウーン)
ないようにね。 罰が 当たってしまう。 (A うーん)

東京 04-4

モー オサカキダッテ コーネ (A ソー ソー ソー ソー)
もう お柵だっテ こうね (A そう そう そう そう)

イクツモネ。
いくつもね。

47A : ウン デ アレ マタ アノー ミカ°イタリナンカ アレ
うん で あれ また あのう 磨いたりなんか あれ

タイヘンナンダヨネー。 (B タイヘンナンデスヨ)
たいへんなんだよねえ。 (B たいへんなんですよ)

イチンチシコ°トダヨ アリヤー。
一日仕事だよ あれは。

48B : ホントニネー。 ソンデ ユズリハカ° ドーダ
ほんとうにねえ。 それで ユズリハが どうだ

(A ウン ウン ウン) ヤレ ナンダッテネー
(A うん うん うん) やれ 何だっテねえ

イロイロ モーサー アレカ° アリマシタデシヨ。
いろいろ もうね あれが ありましたでしょう。

49A : アッタ。 ダッテ アノー スイドーノ センニマデ
あった。 だっテ あのう 水道の 栓にまで

ヤルンダモノネ。 (B ウン ソーヨ)
やるんだものね。 (B うん そうよ)

東京 04-5

アー ダカラ アレダネ スイドーノ セン ソレカラ (B {笑})
あー だから あれだね 水道の 栓 それから (B {笑})

ベンジョノ トブクロカラネー (B ソーヨ) モー ナンカ
便所の 戸袋からねえ (B そうよ) もう なんか。

50B : イリク°チ ッテ ユー トコエワネ
入口 と いう ところへはね

(A イリ ゼンブ ヤンダネ) ミンナ コーネ。

(A ×× 全部 やるんだね) みんな こうね。

51A : アレー アノ チーチャナ ヤツデ。 ウン ヤッテ
あれ あの 小さな もので。 うん やって

52B : ワニ シテネ アレオ コー ヤッタモンナノ。 (A アー)
輪に してね あれを こう やったものなの。 (A ああ)

イマナンテ ズイブン アッサリ シテマスネ。
今なんて ずいぶん あっさり していますね。

53A : ウン ナンカネー アー カミナンダヨネー。
うん なにかねえ あー 紙なんだよねえ。

キンカ°シンネンナンテ カイテネ。

謹賀新年なんて 書いてね。

54B : モー カイテ アンノヨネ。
もう 書いて あるのよね。

東京 04-6

55A : オー アレ ハットクンダヨネ。 (B エー)
おー あれ [を] 貼っておくんだよね。 (B ええ)

デ チョーカイカラ クバッテクツダヨネ。 (B エー)
で 町会から 配ってくるんだよね。 (B ええ)

デ ソレ ダカラ チューゴクノ アノ ショーカツノ
で それ だから 中国の あの 正月の

アレトモ マタ チカ°ウナー。 (B チカ°イマス)
あれとも また 違うなあ。 (B 違います)

アリヤー ニホンドクトクダネー。 (B エー) ウーン。
あれは 日本独特だねえ。 (B ええ) うーん。

ソエデー ナーンカ ソレカ° ハッテアリヤーネ エー
それで 何か それが 貼ってあればね えー

イーダケドネー ナーンカ ヘンダネー。 (B ヘンデスネー)
いいんだけどねえ 何か 変だねえ。 (B 変ですねえ)

ピツタリ コナイネー。
ぴったり 来ないねえ。

ソエデ アレー ダイタイ マツダンナンカ ヤルトネー
それで あれ だいたい 松壇なんか やるとねえ

ハー オーミソカノ バンナンテネー アタシラー
はー 大晦日の 晩なんてねえ あたしら [は]

04↑05

東京 05-1

ネナカッ ネチャー イケネーモンダ ッテ ユー。
×××× 寝ては いけないものだ って いう。

56B : エー ネナイノヨ。 ウチモネ (A ウーン)
ええ 寝ないのよ。 うちもね (A うーん)

アノー ショーバイ シテル トキワネ ネズ。 (A ウーン)
あのう 商売 [を] している 時はね 寝ず。 (A うーん)

ホラ オカンジョー モッテクッデショー。
ほら お勘定 [を] 持ってくるでしょう。

(A ウーン ウン ウン ウーン)
(A うーん うん うん うーん)

ダカラネ ワリーカラネー (A ウーン) ネナイデネー
だからね 悪いからねえ (A うーん) 寝ないでねえ

チョーチン ツケテネー {笑} (A アー ヨク ダカラネー)
堤燈 [を] つけてねえ {笑} (A ああ よく だからねえ)

タカハリ [3], ミタイナ (A ウーン ウン) チョーチン
高張みたいな (A うーん うん) 堤燈

コンナノ ツケテ ソンデネー モー マッテンノヨ。
こんなの [を] つけて それでねえ もう 待っているのよ。

ンデ クルト オサケ ダシテヤッテネ
それで 来ると お酒 [を] 出してやってね

東京 05-2

(A アー アー ソーダネ) ノマシテ カエスノ。

(A ああ ああ そうだね) 飲ませて 帰すの。

(A アー ソー ソー ソー ソー)

(A ああ そう そう そう そう)

オカンジョー モツテクルカラ。 ソーユーフーデシタヨネ。

お勘定 [を] 持ってくるから。 そういうふうでしたよね。

57A : シ ソー。 ソエデ コー ナンツーノカナー エー

ん そう。 それで こう なんといいのかな えー

オーミソカノ バンニ オカンジョー モツテクットネー (B エー)

大晦日の 晩に お勘定 [を] 持ってくるとねえ (B ええ)

コー ヤリインダネー。 (B ソー)

こう やりいいんだねえ。 (B そう)

ナンカ ウケトル ホーノ カワカ°ネー (B エー)

なんか 受け取る 方の 側がねえ (B ええ)

オダヤカナンダヨ。 (B ソーナノ) エー。

穏やかなんだよ。 (B そうなの) ええ。

ヨク モツテキテ キマ キテクダスツタ ッテナ

よく 持ってきて ×× 来てくださった というような

(B マーネ) キモチダネ。

(B まあね) 気持ちだね。

東京 05-3

58B : ソー。 デ マー サブイカラ イッパイネ
そう。 で まあ 寒いから 1杯ね

(A アー。 イッパイ ヤツテクレ ッテ ユー ワケダネ)

(A ああ。 1杯 やってくれ って いう わけだね)

ノンデ マー コノー アッタカイ モンデモ タベテクレ トカネ
飲んで まあ この 温かい ものでも 食べてくれ とかね

(A アー) ナンカ ユツテ ソンデ マー キオ ツケテ カエレ

(A ああ) 何か 言って それで まあ 気をつけて 帰れ

トカ ツツテ カエスンデスモンネ。

とか と言って 帰すんですものね。

59A : アー。 デ アレカ^oネー ユー ナンテ ユーノ
ああ。 で あれがねえ こう 何と いうの

フダンノ ゲツマツノー シメトワネ チョット チカ^oウンダナー。
ふだんの 月末の 締めとはね ちょっと 違うんだなあ。

60B : ゼンゼン チカ^oウンデスヨ。
全然 違うんですよ。

61A : ダカラ アレー オボンノ トキニネ (B エー)
だから あれ お盆の 時にね (B ええ)

イチネンノ マー ケジメカ^o デキナクテ
1年の まあ けじめが できなくて

東京 05-4

ソエデ マー チョイト テツケキング°タイデモ (B エー)
それで まあ ちょっと 手付金ぐらいでも (B ええ)

オーミソカニ キチント スルト (B ソー)
大晦日に きちんと すると (B そう)

シンヨーカ° ツイテタンダカラ。 (B ツイテタンデス)
信用が ついていたんだから。 (B ついていたんです)

フシキ°ダネ アレー。 ソノ カン アンマリ {笑}
不思議だね あれ [は]。 その 間 あまり {笑}

62B : ヤヤッコシー コト イワナイカラネ。 (A イワネーネー)
ややこしい こと [を] 言わないからね。 (A 言わないねえ)

デ マッテルデショ。
で 待っているでしょう。

63A : タダ オーミソカオ ズラカスト (B ダメナノネ)
ただ 大晦日を ずらす [=はずす] と (B だめなのね)

コラー モー イッペンデ ガタオチダッタネ。 (B エー)
これは もう いっぺんで [信用が] がた落ちだったね。 (B ええ)

アー。 ダカラ
ああ。 だから

64B : ソーユー テンワネ (A マー) ムカシャー マー
そういう 点はね (A まあ) 昔は まあ

キチント シテマシタネー。
きちんと していましたねえ。

65A : キチント シテタネー。 (B エー)
きちんと していたねえ。 (B ええ)

ダカラネー キチント シテイルカラネー
だからねえ きちんと しているからね

アノ オーミソカオ ダイザイニ シタネー
あの 大晦日を 題材に したねえ

ラクコノ オモシロミカ° ワカンダヨ。 (B ア ソーナノヨ)
落語の 面白味が わかるんだよ。 (B あ そうなのよ)

ネ イマー ケジメカ° ナクテネ アー テカ°タカ ナンカデネ
ね 今は けじめが なくてね あー 手形か 何かでね

{笑} エ モー ミツキカラ (B ホント)
{笑} × もう 3か月から (B ほんとう)

マコ°マコ° スリヤー ハントシク°レーノ テカ°タ (B エー)
まごまご すれば 半年くらいの 手形 [を] (B ええ)

キッテ エー ケーエーシャズラ シテンデショ。
切って えー 経営者面 しているんでしょう。

(B ソーナノヨ) ウン。 ソーット ソエデネー
(B そうなのよ) うん。 そうすると それでねえ

05↑06

東京 06-2

アノ ラクコ° キーテネー ワラッテンノ
あの 落語 [を] 聞いてねえ 笑っているの [は]

ナンノ タメニ ワラッテンノ ッテ (B エー ソーナノ)
「何の ために 笑っているの」 って (B ええ そうなの)

ホントニ オマエサン ワカッテンノカイ ッテ キキタイヨ。
ほんとうに 「おまえさん わかっているのかい」 と 聞きたいよ。

(B マッタク) ン。 ンダッテ

(B まったく) うん。 だって

シューシケッサンカ° ムカシト チカ° ッテテネ (B エー)
収支決算が 昔と 違っていてね (B ええ)

アノ ムカシノ シューシケッサンノ ケジメノ ウー
あの 昔の 収支決算の けじめの うー

ダイザイノ ラクコ°ノネー オカシサカ°ネー
題材の 落語のねえ おかしさがね

ワカル ハズ ナイヨ。 (B ホントネ)
わかる はず [が] ないよ。 (B ほんとうね)

アー アリヤー ボカー エー イマダニ フシキ°デ
あー あれは 僕は えー いまだに 不思議で

ショーカ° ネーнда。 (B マッタクネー)

しょうが ないんだ。 (B まったくねえ)

東京 06-3

ンダケド ホントニ オーミソカダケワ モー ホントニ
だけどほんとうに 大晦日だけは もうほんとうに

キチント シテルシ コドモココロニダッテ コー
きちんと しているし 子供心にだって こう

ナニカー ネットチャー ソンダ ッテ。
何か 寝ては 損だ って。

ダカラ アタシラ ヨクー ドナッテ ロジ アルイテ
だから あたしは よく 怒鳴って 路地 [を] 歩いて

オーミソカノ バンニ ネル ヤツァ バカダ ツツタンダヨネ。
大晦日の 晩に 寝る やつは 馬鹿だ って言ったんだよね。

(B エー) エー ソーユー ハヤシゴトバデ
(B ええ) ええ そういう 囃しことばで

ゴロクニン コー ワイワイ ワイワイ ナンカ (B {笑})
5、6人 こう わいわい わいわい 何か (B {笑})

ナンセ アシタ オショーカ°ツナンダカラネ (B エー ソー)
なにせ 明日 [は] お正月なんだからね (B ええ そう)

コレ タイヘンデスヨ。
これ たいへんですよ。

ホエデー カナラズ ネル マエニヤー
それで 必ず 寝る 前には

東京 06-4

アタラシー ゲタト アタラシー シタキ°ト
新しい 下駄と 新しい 下着と

エー ホレカラ アノー エー キモノダトカネー
えー それから あのう えー 着物だとかねえ

エデ オコズカイカ° チャーント モラエルンダカラネ。
それで お小遣いが ちゃんと もらえるんだからね。

ホエダカラ モー ナンタッタッテ エー タイヘンダヨ。
それだから もう 何といっても えー たいへんだよ。

ソノ ハラー モンカ° アルナシニ コツチャー (B {笑})
その 払う ものが あるなしに こっちは (B {笑})

コドモワ モラウ モンバッカリダモンネ。(B ソー {笑})
子供は もらう ものばかりだものね。(B そう {笑})

デ ゼンブ ソレカ° アタラシーンダカラネー。
で 全部 それが 新しいんだからねえ。

コレ ダカラ ポント ショーカ°ツカ° イッシヨニ キタ ッテ
これ だから 盆と 正月が 一緒に 来た と

ユーネ ソーユー ヒョーケ°ンダッテ ツーヨースルンデスヨ。
いうね そういう 表現だって 通用するんですよ。

(B エー ソーデスネー エー) ネ。 ンデ オボンノ トキモ
(B ええ そうですねえ ええ) ね。 それで お盆の 時も

東京 06-5

ヤハリ アタラシー オシキセカ° デンダカラ。 (B エー)
やはり 新しい お仕着せが 出るんだから。 (B ええ)

アー。 ンダカラ オコズカイモ デンノ。
ああ。 だから お小遣いも 出るの。

ダカラ アノー ポント オ ショーカ°ツカ° イッペンニ キタ
だから あのう 盆と × 正月が いっぺんに 来た

ツテ ユー ソノ ヨロコビノ ヒョーケ°ンカ°ネ (B エー)
と いう その 喜びの 表現がね (B ええ)

ウン ジッカンカ° デル ワケヨ。 (B ソーデスヨ)
うん 実感が 出る わけよ。 (B そうですね)

ン。 ンダー イマー ポント ショーカ°ツカ°
ん。 だから 今 盆と 正月が

イッペンニ キタ ッタッテ ワカラネーヨ。
いっぺんに 来た と言ったって わからないよ。

66B : ワカンナイワネ。
わからないわね。

67A : ウーン。 クリスマスト ショーカ°ツー トンチンカンニ
うーん。 クリスマスト 正月を とんちんかんに

ヤッチャッテンダカラネ。 (B {笑} マツタクネ)
やっちゃまっているんだからね。 (B {笑} まったくね)

ンデ モー ドーニモ ナリヤー シナインダヨ。
それで もう どうにも なりは しないんだよ。

ンデ ショーカ° ツーダッテ アレー アタラシー ゲター ハイテ
それで 正月だって あれ 新しい 下駄を 履いて

オレ サイショニ アノー ハイタマンマ オモテー トビダシテ
俺 [は] 最初に あのう 履いたまま 表へ 飛び出して

コーレワ ヤラレタネ。(B アー) アー。
これは やられたね。(B ああ) あー。

06↑07

ソレデネー ヤラレテネー コンド
それでねえ やられてね 今度

オフクロカ°ネー オーバーサンニ イワレテネ。(B エー)
おふくろがねえ おばあさんに 言われてね。(B ええ)

ンー。 パーサンカ° シツケカ° ワルイ ッテ イーダシテネ。
んー。 ばあさんが しつげが 悪い と 言い出してね。

(B エー) ホエデ オレワ アントキニネー
(B ええ) それで 俺は あの時にねえ

モー ホントニ オフクロニ スマネーナ ト オモッタヨネ。
もう ほんとうに おふくろに すまないな と 思ったよね。

(B エー) エー。 ツイネー ハイタママ (B ウレシクッテ)
(B ええ) ええ。 ついねえ 履いたまま (B うれしくて)

東京 07-2

アー トビダシチャッタダヨネ。 (B {笑})

あー 飛び出してしまったんだよね。 (B {笑})

アレワネー ゼツタイニ アノ タタミノ ウエカラ
あれはねえ 絶対に あの 畳の 上から

ゲタ ハイテー クツヌキ^oー オリオセナカッタネ。
下駄 [を] 履いて 靴ぬぎに 下りさせなかったね。

(B エー) *** ダカラ シキー フンダッテ ウルセーヨ。

(B ええ) *** だから 敷居 [を] 踏んだって うるさいよ。

68B : イケナイノヨネー。

いけないのよねえ。

69A : コーレワ タイヘンダヨ。

これは たいへんだよ。

70B : ムカシワネー (A アー) モー ソンナン

昔はねえ (A ああ) もう そんなの [は]

タイヘンデスヨネー。

たいへんですよねえ。

71A : アー モー ソノー シキー フムト オヤジノ アタマー

ああ もう そのう 敷居 [を] 踏むと 親父の 頭を

フンダダト (B アタマオ フンダト オンナジダ ッテ)

踏んだのだと (B 頭を 踏んだと 同じだ って)

東京 07-3

オナジ コトダ ッテンダ。 コレ ショーカ°ネーヨ コレ。
同じ ことだ というんだ。 これ [は] しょうがないよ これ。

ホイデ モー エラク ヒツパカサレルヨ。 (B ソーヨ)
それで もう ひどく ひっぱたかれるよ。 (B そうよ)

トコロカ°ネー キョ オトトシカナー オテーチャン [4] ノ
ところがねえ ×× 一昨年かなあ 「おていちゃん」 の

(B ハイ アー エー) テレビ ヤッテサ
(B はい あー えー) テレビ [を] やってね

ソレデ フーゾクコーショー コッチカ° ウケモッテサー。
それで 風俗考証 [を] こっちが 受け持ってね。

ソーシタラ アレ ハイユーサンカ° シキー
そうしたら あれ 俳優さんが 敷居 [を]

フンジメヤーカ° ッタンダヨ。 (B アー) コマッチャッテサ。
踏んでしまいやがったんだよ。 (B ああ) 困ってしまってね。

ソイデ シンブントーヒョー サレテサー (B ウン)
それで 新聞投書を されてね (B うん)

アンナーナー ナイ ト。 デネー ナルホドナー ト オモッタケド。
あんなのは ない と。 でねえ なるほどなあ と 思ったけれど。

ダケドネー オレモネー コマッタノワネ
だけどねえ 俺もねえ 困ったのはね

ソーユー トコマデー ホレー チューイ シナクツチャー (B {笑})
そういう ところまで ほら 注意 しなくては (B {笑})

ゲキカ° ツクレネーノカナ ッテ ユー ジジツヨネ。
劇が 作れないのかな って いう 事実よね。

(B ホントネー) エー ダケド モー ソーユー
(B ほんとうねえ) ええ だけれど もう そういう

ジダイナンドヨネ。

時代なんだよね。

72B : ソーナノ。 イマ ウルサイノネ。
そうなの。 今 うるさいのね。

73A : アー。 ソレデ ミテル ヒトワ フトクテータスーデ
ああ。 それで 見ている 人は 不特定多数で

イロンナ カタカ° イル。
いろいろな 方が いる。

ソーット マー ヒマニ アカシテ ミテーテネ
そうすると まあ 暇に あかして 見ていてね

ソーユーノカ° シュミナ ヒトモ イルンダヨ。 (B エー)
そういうのが 趣味の 人も いるんだよ。 (B ええ)

タチカ° ワルインダヨナー。 コマツチャウ。
たちが 悪いんだよなあ。 困ってしまう。

07↑08

東京 08-2

ソレカ° ユイツノ イキカ°イダ ッテンダカラ。 (B {笑})
それが 唯一の 生きがいだ というんだから。 (B {笑})

ヤメロトモ イエネーシナ。
やめろとも 言えないしね。

ンデ ソーユーノニ ミツカッタラ タイヘンダヨ。
で そういうのに 見つかったら たいへんだよ。

(B ソーデスネー ウルサイカラネー)

(B そうですねえ うるさいからね)

アー モー ジンワリ ジンワリ イジメラレッチャーヨネ。
ああ もう じんわり じんわり いじめられてしまうよね。

マイツチャッタ コト アツタケドネ。
参ってしまった こと [が] あったけれどね。

ホントニ シキー フム ッテ ユーネ ソーユー ジャー
ほんとうに 敷居 [を] 踏む と いうね そういう では

ソーユー フーシューカ° ドコカラ キテンノカ ト ユート
そういう 風習が どこから 来ているのか と いうと

コレワ マタ ベツナンデスヨ。 (B エー)

これは また 別なんですよ。 (B ええ)

ダケド オソラクネ エド ト ユー トコロデ ドコカ リュ
だけど 恐らくね 江戸 と いう 所で どこか ××

東京 08-3

ニホンノ ロクジューヨシューノ クニク°ニノ
日本の 60余州の 国々の

エー ソノ イーツタエカ° ナンカデ カタチニ
えー その 言い伝えが 何かで 形に

ノコッタンドロー ト オモーンダヨネ。
残ったんだろう と 思うんだよね。

74B : ソーデスネ。 (A アー) アレワ モー チーサイ トキカラ
そうですね。 (A ああ) あれは もう 小さい 時から

ソレワ イワレタワネ。
それは 言われたわね。

75A : ネー イワレルヨネー。 (B モー)
ねえ 言われるよねえ。 (B もう)

シキーオ フンジャー イケナイヨ。 (B エー)
「敷居を 踏んでは いけないよ。」 (B ええ)

シキーオ フンジャー イケナイヨ。 (B ソー)
「敷居を 踏んでは いけないよ。」 (B そう)

デ コンド ナゼ フンジャ イケナイノ ッテ ユー。
で 今度 「なぜ 踏んでは いけないの」と 言う。

ソーット オトーサンノ アタマオ フムノト オンナジダ ッテ。
そうすると 「お父さんの 頭を 踏むのと 同じだ」 って。

東京 08-4

(B オンナジダ ッテ イワレルノネ) ンー

(B 同じだ って 言われるのね) んー

ダカラ ウチンナカニャー ダイコクバシラッテ ダイジナ ハシラト
だから うちの中には 大黒柱という 大事な 柱と

シキーッテ ユー フクセンカ° アル ワケダ。 {笑}

敷居と いう 複線が ある わけだ。 {笑}

(B エー ソー)

(B ええ そう)

ダカラ ソンナカデ コドモワ ソダツンダカラ (B {笑})

だから その中で 子供は 育つんだから (B {笑})

アタマー ハタラカセネート {笑} ハハ コマツチャー ワケダナ。

頭を 働かせないと {笑} はは 困ってしまう わけだな。

ウーン

うーん

76B : トニカク アレネ ムカシノ ヒト ッテノワ

とにかく あれね 昔の 人 っていうのは

ウルサイデシタネ。 (A ウルサイネー)

うるさかったですね。 (A うるさいねえ)

イマナンテ フトン スクンダッテ

今なんて ふとん [を] 敷くのだって

東京 08-5

ツーツ ツーツデショー。(A アーアー)

ツーツ ツーツでしょう。(A あーあー)

フトンノ マーリーネー クルクル クルクル マーッテ スクノ。
ふとんの 周り [を] ねえ くるくる くるくる 回って 敷くの。

(A ソー ソー ソー)

(A そう そう そう)

フトンオ チョイトデモ フンダラネ オコルノ。

ふとんを ちょっとでも 踏んだら 怒るの。

(A ア モー ゼツタイニ) トンデモナイ。

(A あ もう 絶対に) とんでもない。

(A トンデモネー コトン ナルンダカラナー) ダカラネー

(A とんでもない ことに なるんだからなあ) だからね

77A : ソエデ マクラー フンジャー イケネーネ。(B エー)

それで 枕 [を] 踏んでは いけないね。(B ええ)

アー マズ タブーカ° オーインダナー。

あー まず タブーが 多いんだなあ。

78B : ナンダカンダ ッテ モー (A アー) ソーユー コトニ

なんだかんだ って もう (A ああ) そういう ことに

キー ツケルカラ。

気を つけるから。

79A : アー ンデ ソレカ° コンド クレトカネ オショーカ°ツトカ
ああ で それが 今度 暮れとかね お正月とか

ユーネー ソノー ヒトツノ オリメン ナツテ クット
いうねえ そのう 一つの 折り目に なって くと

08↑09

ソレカ° マタ バイカサレルンダヨネ。 (B ソー)
それが また 倍加されるんだよね。 (B そう)

ダカラ ショーカ°ツノ サンカ°ニチーノ ゴミワ
だから 正月の 三が日の ごみは

ステラレネーンドヨネ。
捨てられないんだよね。

80B : エー ステラレナイデサー トットクデショー。
ええ 捨てられないでね とっておくでしょう。

81A : コレワ クロー スルヨー。
これは 苦勞 するよ。

82B : ネー。 (A アー) ショーカ°ナイカラ マトメテサ
ねえ。 (A ああ) しょうがないから まとめてね

(A マトメテオクンダヨ) トットクノ。
(A まとめておくんだよ) とっておくの。

(A アー トットクンダヨネ) ンデ マタ ソレオ
(A ああ とっておくんだよね) で また それを

東京 09-2

イッペンニネ (A ああ) ステル ワケデスケド。 (A アー)
いっぺんにね (A アー) 捨てる わけですけど。 (A ああ)

アレ ナンノ タメナンデショーネー。
あれ [は] 何の ためなんでしょうねえ。

83A : ソーユー。 イヤー ソレデネー ソーユノワ ケッキョク マー
そういう。 いや それでねえ そういうのは 結局 まあ

カイシャクカ°ネ ソレゾレニ アルケドネ ソラー
解釈がね それぞれに あるけれどね それは

ニカ°ツン ナッテ アノー フクワーウチャ オニワーソトノネ
2月に なって あのう 「福は内」や 「鬼は外」のね

(B エー) アノ セーシンニ ツナカ°ルンダヨネ。 (B ハー)
(B ええ) あの 精神に つながるんだよね。 (B はあ)

ショッパナカラ ステタラ イケネー。
初めから 捨てたら いけない。

トニカク ウチノ モノオ ヘラスマイ。 デ
とにかく うちの 物を 減らすまい。 で

ヘラスマイ ッテ ユー コトワネ (B エー)
減らすまい と いう ことはね (B ええ)

ダカラ コー カンカ°イナオシャーネ
だから こう 考え直せばね

東京 09-3

エドカ° ノッパラデ アッタトキニ (B エー)
江戸が 野原で あった時に (B ええ)

イエヤスサンカ° ハイッテキタ トキニ (B エー)
家康さんが 入ってきた 時に (B ええ)

ツイテキタ ヒトタチワ チョード ウー
ついてきた 人達は ちょうど うー

セーブケ°キノ ジョン ウエイント オナジ ヨーナ コトー
西部劇の ジョン ウェインと 同じ ような ことを

ヤッテタロー ト オモーンダヨ。(B ソーデスネー)
やっていたらろう と 思うんだよ。(B そうですねえ)

クイモノモ ナクテ。 オンナモ イナイシ。(B エー)
食べ物も なくて。 女も いないし。(B ええ)

ネ アラクレオトコデ セキカ°ハラノ タタカイカ° オワッテ
ね 荒くれ男で 関ヶ原の 戦いが 終わって

ホエデ ジメジメシタ ムサシノエ キテサ (B ソー)
それで じめじめした 武蔵野へ 来てね (B そう)

ソデ クイモノモ ロクニモ ネットカ。(B エー)
それで 食べ物も ろくに ないとか。(B ええ)

デ ソノ ナカデ エイエイト ヤッテ イケバダネー
で その 中で 営々と やって いけばだねえ

東京 09-4

モノオ ソマツニ デキネーヨネ。 (B デキナイワネー) エー。
物を 粗末に できないよね。 (B できないわねえ) ええ。

ナーンカネー ソンナ ムカシノネ シ フジューナ アレカ°ネー。
なんかねえ そんな 昔のね ん 不自由な あれがね。

デ ソレワ カリニ ロクジューヨシューノ
で それは 仮に 60余州の

ホーポーノ トコロカラ キタ ヒトタチノ ナカデモ (B エー)
方々の 所から 来た 人達の 中でも (B ええ)

ソレゾレノ クニカ°ラデ ヤハリ ソーユー アジワイオ
それぞれの 国柄で やはり そういう 味わいを

シテータンジャ ネーカナ。 (B アー ソーデスネー)
していたんじゃ ないかな。 (B ああ そうですねえ)

シ ダカラ ホントニ オレ ニホンノ ムカシノ ヒトワ
ん だから ほんとうに 俺 [は] 日本の 昔の 人は

イ イチブノ ヒトオ ノゾイタラ ホントニ ボカー
× 一部の 人を 除いたら ほんとうに 僕は

ミジメナ セーカツ シテータンジャ ネーカナ ッテ。
みじめな 生活 [を] していたんじゃ ないかな って。

84B : ソリヤー ミジメナ セーカツダッタンデショー。
それは みじめな 生活だったんでしょう。

85A : エー エー。 (B ネット) デ ソーユー モノカ°
ええ ええ。 (B ね) で そういう ものが

コンドー エドン ナリ メージン ナッテモ
今度 江戸に なり 明治に なっても

ウケツカ°レテツタンジャ (B エー) ナイカナ ッテ
受け継がれていったんじゃ (B ええ) ないかな って

(B エー ソーデショー) オモーンダネ。
(B ええ そうでしょう) 思うんだね。

コノ セツヤクノ キモチッテ (B エー) ユー モノワネ。
この 節約の 気持ちと (B ええ) いう ものはね。

09↑10

ウン。 ホエデ コンド フカコーリョクニ タイスル トキニャ
うん。 それで 今度 不可抗力に 対する 時には

カミダノミー イカ°イニ ナインダカラ (B ナイカラネー)
神頼み 以外に ないんだから (B ないからねえ)

エンキ°オ カツク°ヨーニ ナル ワケヨ。 (B エー)
縁起を かつぐように なる わけよ。 (B ええ)

ンデ ソコニ エー マー シンジナクッテ イー モノマデ
で そこに えー まあ 信じなくて いい ものまで

シンジナクッチャ ナンナイ ヨワサカ° デテクルンジャナイノ。
信じなくては ならない 弱さが 出てくるんじゃないの。

東京 10-2

86B : エー ソーデスネー。
ええ そうですねえ。

87A : ウーン ト オモーヨ。 ウーン ダカラ ソーイノワ モー
うーん と 思うよ。 うーん だから そうというのは もう

ホントニ オシヨーカ°ツンナッテ エジャー
ほんとうに お正月になって それじゃあ

サンカ°ニチノ ゴミワ ステチャー イケナイ ッテ ユーナー
三が日の ごみは 捨てては いけない と いうのは

ナンカ ソーユー トコロニネー (B エー)
なんか そういう ところにねえ (B ええ)

ムカシノ アレカ°ネー ノコッテ
昔の あれがねえ 残って

デ ソレカ° フダンノ ヒワ マモレネーカラ (B エー)
で それが ふだんの 日は 守れないから (B ええ)

イチネンノ ハジメノ ヒニ (B マモル ワケ)
1年の 初めの 日に (B 守る わけ)

モッテキタ ッテ ユー マデニワ ソートーノ ネンケ°ツカ°
もってきた と いう までには 相当の 年月が

タッテル ワケダヨネ。 (B ソーデスヨ)
経っている わけだよ。 (B そうですよ)

東京 10-3

ト オモウンダヨネ。 ッテ ユー コトワ イマ ソレカ°
と 思うんだよね。 と いう ことは 今 それが

ナクナッテル ジジツカ° アルカラ。 (B マッタクネー)
なくなっている 事実が あるから。 (B まったくねえ)

ン。 ン。 ダカラ ソーユーノワ
ん。 ん。 だから そうというのは

スクナクトモ センゼンマデワ アッタ ワケナンダヨ。
少なくとも 戦前までは あった わけなんだよ。

88B : アリマシタネ。 (A エー) デモ マーサ アー
ありましたね。 (A ええ) でも まあね あー

トシヨリノ イル ウチャー エー ヤッテマスヨ。
年寄りの いる うちの ええ やっていますよ。

89A : エー イマダニ マダ (B ネット) ヤッテマスヨ。
ええ いまだに まだ (B ね) やっていますよ。

(B エー) ン。

(B ええ) ん。

90B : デ コンデ イナク ナッチャッタラ
で これで いなく なってしまったら

ヤラナク ナッチャーカモ シレナイワネ。
やらなく なってしまうかも しれないわね。

東京 10-4

91A : マズ ヤラナクー ナツチャウネ。 (B ネ)
まず やらなく なってしまうね。 (B ね)

ヤラナク ナツテモネ イー アンバイニ ゴミヤサンカ°
やらなく なってもね いい あんばいに ごみ屋さんが

コネーカラ チョード イーヤ。
来ないから ちょうど いいや。

92B : {笑} ソーネ。
{笑} そうね。

93A : ウマク デキテルヨ。 (B ソーダワネ)
うまく できているよ。 (B そうだわね)

ダカラ ソノ テンジャー アー トーキョートノ
だから その 点では あー 東京都の

セーソーノ ホーカ° ヨッポド (B {笑})
清掃の 方が よほど (B {笑})

エー ソーユー テンオ (B {笑}) リカイシテネー
えー そういう 点を (B {笑}) 理解してねえ

ゴミヤワサ セーソーシナイ ト ユー トコロニ (B {笑})
ごみ屋はね 清掃しない という ところに (B {笑})

ネンジュージョージノ オンゾンカ° アンノカモ ワカンナイネ。
年中行事の 温存が あるのかも わからないね。

東京10-5

94 B : ソーカモ シレナイワネー。
そうかも しれないわねえ。

95 A : アー アー。 ゴミヤサン チットモ コネーモノ。 (B {笑})
ああ ああ。 ごみ屋さん ちっとも 来ないもの。 (B {笑})

96 B : ゴミヤサンモ タイヘンナ ショーバイダカラ (A アー)
ごみ屋さんも たいへんな 商売だから (A ああ)

ホントニ ヨーイジャ ナイデショー。
ほんとうに 容易では ないでしょう。

97 A : ソーネ。 (B エー) ダケド アレワ イマ ナリテカ°
そうね。 (B ええ) けれど あれは 今 なり手が

オーイケド (B エー) アノー ソレダケ シューヨー
多いけれど (B ええ) あのう それだけ 収容

デキナインダ ッテ。 (B ドシテデスカ)
できないんだ っ。 (B どうしてですか)

アリヤー イチバン ケンゼンナ アー ショーバイダ ッテ。
あれは 一番 健全な あー 商売だ っ。

(B ハー) ンデ ミンナ キボーシャカ° アンダケド
(B はあ) で みんな 希望者が あるのだけれど

(B エー) トテモ ソノ キボーシャオ シューヨー スルダケノ
(B ええ) とても その 希望者を 収容 するだけの

アリヤー ナインダ ッテネ。 (B アー) ウン。
あれは ないんだ ってね。 (B ああ) うん。

ダカラ イチバン イーラシーヨネ (B アー ソーデスカー)
だから 一番 いいらしいよね (B ああ そうですか)

ショクキョート シタラ。 ウン。 ウン。
職業と したら。 うん。 うん。

ダカラ ソレワネー アノー イワユル ゴミヤサーン ッテ ユー
だから それはねえ あのう いわゆる 「ごみ屋さん」と いう

10↑11

アレジャー ナインダヨ モーネ。 (B ソーデスヨネ) エー。
あれでは ないんだよ もう。 (B そうですよね) ええ。

ソレカラ アノ ゴミ ジシンカ°ネ (B エー) ウン
それから あの ごみ 自身がね (B ええ) うん

アノ アタシラー コドモン トキニ デルナー
あの あたしら [が] 子供の 時に 出るのは

ホントノ ゴミナンダヨ。 (B エー)
ほんとうの ごみなんだよ。 (B ええ)

ンー トコロカ° (B イマー チカ°ウデシヨ)
んー ところが (B 今は 違うでしょう)

イマナー ゴミジャー ネーンダー。 ウーン。
今のは ごみでは ないんだ。 うーん

東京 11-2

ゴミノ ナカエ ハイラネーモノ。 ウン。 (B ネー)
ごみの 中に 入らないもの。 うん。 (B ねえ)

キレーダヨ。 ウン。 ダッテ クサラネー モノナンダカラ。
きれいだよ。 うん。 だって 腐らない ものなんだから。

(B ソーデスネー) ウン。 ムカシャー クサッタ モノオ
(B そうですねえ) うん。 昔は 腐った ものを

ステタンダカラ (B エー) ニオイモ アルンダシ。
捨てたんだから (B ええ) 匂いも あるんだし。

ダケド イマワ ホトンド ンー ハラワタク°ライナ モンデショー
だけど 今は ほとんど ンー 内臓ぐらいの ものでしょう。

(B エー) ナマノワネ。 (B ナマワネ) ウン。
(B ええ) 生のはね。 (B 生はね) うん。

デ ソイデ アター クサラナイ ウチニ シマツカ° デキルカラ
で それで あとは 腐らない うちに 始末が できるから

(B エー) ウー ソンナニ ニオイカ° ナイモノ。
(B ええ) うー そんなに 匂いが ないもの。

ダカラ アエデ イマ ニオイオ タテンナー ヨッポド
だから あれで 今 匂いを 立てるのは よほど

オーチャクナ オクサンノ ウチダケダヨ。 (B ソーデショーネ)
横着な 奥さんの うちだけだよ。 (B そうでしょうね)

東京 11-3

ウン。 ダロー ト アタシャー オモウネ。 ウーン。
うん。 だろう と あたしは 思うね。 うーん

ダカラ ムカシノ トージョーサンミテーニ
だから 昔の // // // // // みたいに

ゴミバコ アケテ ミネーデ ワカル ワケダヨ。 (B エー)
ごみ箱 [を] 開けて みないで わかる わけだよ。 (B ええ)

ソコノ ヨースカ°ネー。 ウーン。 ダケド タダー コー
そのの 様子がねえ。 うーん だけど ただ こう

ナンテ ユーノカナマー マー ゴミノ モンダイワ ソレダケダケド
なんて いうのかなあ まあ ごみの 問題は それだけだけれど

イチカ°ツカ° オワッテ ニカ°ツン ナル。
1月が 終わって 2月に なる。

ニカ°ツン ナリヤー サッキノ トーフヤサンカ°
2月に なれば 先の 豆腐屋さんが

ハツンマ [5] ニ ナル。 (B エー)
初午に なる。 (B ええ)

デ コノ ハツンマノ チョーナイイナリカ° イーンダヨネ。
で この 初午の 町内稲荷が いいんだよね。

98B : エー ソーナノ。 モーネ (A エ コレカ° イーヤ ンー)
ええ そうなの。 もうね (A え これが いいや んー)

東京 11-4

ソレカ°ネー トテモ マー ニキ°ヤカニネ。
それがねえ とても まあ にぎやかにね。

99A : ニキ°ヤカダネー。
にぎやかだねえ。

100B : モー イロンナ モノ ツクツテネ。 (A ソー ソー ソー)
もう いろんな もの[を] 作ってね。 (A そう そう そう)

オーゼーニサー コドモタチニ (A クレルンダヨネー)
大勢にね 子供達に (A くれるんだよねえ)

クレルンデスヨ。 (A エー オカシカラ)
くれるんですよ。 (A ええ お菓子から)

デ ソレカ° マタ コドモノ ユイツノ タノシミナノネ。
で それが また 子供の 唯一の 楽しみなのね。

101A : アッ。 モー タノシミダネ。 エー。 デ デキッダツタラ
あっ。 もう 楽しみだね。 ええ。 で できるんだったら

トナリマチノ オイナリサン イキテンダケド
隣町の お稲荷さん [へ] 行きたいんだけど

ドーモ ソカー ナーバリカ° チカ°ーンダヨネ。
どうも そこは 縄張りが 違うんだよね。

102B : エー チカ°ウカラ イカレナイノ。
ええ 違うから 行かれないの。

東京 11-5/12-1

103A : ホット オイナリサン モッテル オダイジンカ°ネ
そうすると お稲荷さん [を] 持っている 資産家がね

トナリマチノ ホーカ° ユーフクダト ウラヤマシクッテ
隣の ほうが 裕福だと うらやましくて

ショーカ°ネンダヨ。 {笑}

しょうがないんだよ。 {笑}

オカシノ リョーカ° マルッキリ チカ°ンダカラ。 アー。
お菓子の 量が まるっきり 違うんだから。 ああ。

11↑12

104B : ダケド アレ オイナリサンテノワ アレデスネー
だけれど あれ お稲荷さんというのは あれですねえ

セーダイニ オカザリ シテル ウチワ イーノネ。
盛大に お飾り している ちは いいのね。

(A イー イー イー)

(A いい いい いい)

ダケドネ (A ンー) カザラナク ナッチャタンデスヨ
だけれどね (A んー) 飾らなく なってしまったんですよ

ウチノ マエノネ アライハリ [6] ヤサンワ
うちの 前のね 洗い張り屋さんは

モノスコ°イネ リッパナ オイナリサンカ° イタノ。 (A ウン)
ものすごくね 立派な お稲荷さんが いたの。 (A うん)

東京 12-2

ソンデ ソコワ モー ユーフクダッタショ。 (A ウン)
それで そこは もう 裕福だったでしょう。 (A うん)

ダカラ モー セーダイナネー アノー オマツリオ シタンデスヨ。
だから もう 盛大なねえ あのう お祭りを したんですよ。

(A ウン) マイトシネ。 (A ウン ウン ウン)
(A うん) 毎年ね。 (A うん うん うん)

ソレカ°ネ ドーシタンダカネ マー デキナク ナッチャットタンダカ
それがね どうしたんだかね まあ できなく なってしまったんだか

シナク ナッタノ。 (A ウンウン)
しなく なったの。 (A うんうん)

タラ イエカ° ツブレチャイマシタヨ。 (A アー)
そうしたら 家が つぶれてしまいましたよ。 (A ああ)

ダカラ オイナリッテノワ オッカナイネ ツタンデスヨ。
だから お稲荷っていうのは こわいね と言ったのですよ。

(A アー アー) デ ミンナ ソーユー コト ユイマスネ。
(A ああ ああ) で みんな そういう こと [を] 言いますね。

105A : ヤ アノー ホントニ ソーナンダヨ。

× あのう ほんとうに そうなんだよ。

106B : オイナリサン テネ (A アー)

お稲荷さん ってね (A ああ)

東京 12-3

モー コワイノ。 (A アー) {笑}

もう 怖い。 (A ああ) {笑}

107A : ダカラネー アレー チョーナイニャーネー
だからねえ あれ 町内にはねえ

アノー ナンテ ユーノカナー アキナイ ウツテル ウチニャー
あのう なんと いうのかなあ 面白い [を] やっている うちには

カナラズ オイナリサン アッタネ。 (B アリマシタ)
必ず お稲荷さん [が] あったね。 (B ありました)

ソレカラ チョット シキチカ° オーキート ヤシキイナリ [7] ネ
それから ちょっと 敷地が 大きいと 屋敷稲荷ね

(B エー ソコノ ヤシキニネ) ノ イチブブンニネ。 (B エー)
(B ええ そのの 屋敷にね) の 一部分にね。 (B ええ)

デ コンド ソノ ヤシキイナリオ オマツリ スル トキニャー
で 今度 その 屋敷稲荷を お祭り する 時には

チョーナイオ ミンナ アレ スル ワケヨネ。 (B ソーナノ)
町内を みんな あれ する わけよね。 (B そうなの)

ダカラ アノー ジク°チアンドン [8] ナゾオ ウー カクンダヨネ。
だから あのう 地口行灯などを うー 描くんだよね。

(B ネー) エー。 ソエデ コレカ° コー ナンテ ユーノカ
(B ねえ) ええ。 それで これが こう なんて いうのか

東京 12-4

チョーチンヤサンデ カクンダケド (B エー)
提燈屋さんで 描くのだけれど (B ええ)

エー コレワネー ジグ°チアンドンノネー エトカネ
ええ これはねえ 地口行灯のねえ 絵とかね

ソエカラ ソノ コトバナナンダヨネ。
それから その ことばなんだよね。

エ コレワ アノー シャレコトバダカラ
え これは あのう しゃれことばだから

イロンナ ヒッカケカ° アル ワケネ。 (B {笑})
いろいろな 引っ掛けが ある わけね。 (B {笑})

エー。 ダカラ タトエバ アー カタッポーニ
ええ。 だから たとえば あー 片方に

アー タイカ°イ エー チョーナイ イー アンゼン トカ
あー だいたい えー 「町内 ×× 安全」 とか

カゾク ハンエー ッテ カイテ アッテネ (B エー エー)
「家族 繁栄」 と 書いて あってね (B ええ ええ)

ソエデ コー ヒトフデカ°キデ カイテアンノ。
それで こう 一筆書きで 書いてあるの。

エデネー エー ジシンデネ エー
それでねえ えー 地震でね えー

レンカ°ケンチクカ° クズレテンノオネ ソノ シター
煉瓦建築が 崩れているのをね その 下を

アタマ カカエテ ニケ°ダス エカ° アンダヨ。 (B エー)
頭 [を] かかえて 逃げ出す 絵が あるんだよ。 (B ええ)

デ テンカ タイヘー ッテ カイテアンノ。
で 「天下 泰平」 と 書いてあるの。

12↑13

デ テンカ タイヘーワ レンカ° タイヘン ナンダヨ。
で 「天下 泰平」は 「煉瓦 たいへん」 なんだよ。

(B アー ソー {笑}) デ コドモニャー ワカラナイ。
(B ああ そう {笑}) で 子供には わからない。

ンダケド ソーユー シャレノ ジク°チアンドン テーノカ°
だけれど そういう しゃれの 地口行灯 というのが

カナラズー ソノー オイナリサンノ オマツリン トキニ
必ず そのう お稲荷さんの お祭りの 時に

ヨル カザラレルンダヨ。
夜 飾られるんだよ。

ダカラ (B ソーナノネー) オトナタチワネ ソノ ナカエ
だから (B そうなのねえ) 大人達はね その 中へ

ヨルン ナツタラ アカリカ° ハイルトネ (B エー)
夜に なったら 明かりが 入るとね (B ええ)

東京 13-2

アノ ローソクノ アカリカ° ユラユラ ユレルトネ (B エー)
あの ローソクの 明かりが ゆらゆら 揺れるとね (B ええ)

ナントモ イエナイ コドモデモ ナンカ タノシンダネー
何とも 言えない 子供でも 何か 楽しいんだねえ

マツリナンダー ッテ ユー カンジネー。
祭りなんだ と いう 感じねえ。

(B ソー。 エー エー)

(B そう。 ええ ええ)

アー ソエデ コー タイコダー タタイテネ
あー それで こう 太鼓だとか たたいてね

キツネノ メン カブツタリナンカ シテ オドツタリネ
狐の 面 [を] かぶったりなんか して 踊ったりね

(B ソー。 エー) ウン。

(B そう。 ええ) うん。

ソエデ ナンシロ オカシカ° モラエルンダナー。
それで 何しろ お菓子が もらえるんだなあ。

108B : インデネ オニシメダトカネ

それで お煮しめだとかね

(A アー ソーナンダ。 セキハンモ アー モラエラ)

(A ああ そうなんだ。 赤飯も ああ もらえら)

東京 13-3

アノ セキハンカ° デルデシヨ。 (A アー)
あの 赤飯が 出るでしょう。 (A ああ)

ソノ ホカニサ オイナリサンノネ (A ソー ソー)
その ほかにね お稲荷さんのね (A そう そう)

オスシダノネー (A ソー オスシネ) モー ネー スコ°イノ。
おすしだのねえ (A そう おすしね) もう ねえ すごい。

109A : スコ°イヨナー。
すごいよなあ。

110B : オカシナンテ ナンシュルイモネ。 (A ア アルネ)
お菓子なんて 何種類もね。 (A あ あるね)

エー ンダカラネ モー ウレシクッテサー。
ええ だからね もう うれしくてね。

111A : ンー ダカラ モー ハツンマノ ヒカ° チカズイテクル ッテ
んー だから もう 初午の 日が 近づいてくる と

ユート モー ユビオリカンジョー (B カンジョー シテネ)
いうと もう 指折り勘定 [を] (B 勘定 [を] してね)

スルモンネ。 ンー
するものね。 んー

112B : デ モー ネー コッチデ ワスレナイ ヨーニ ムコーカラモ
で もう ねえ こっちで 忘れない ように 向こうからも

東京 13-4

イクンチワ ハツンマヨ ッテネー (A ソー ソー ソー ソー)
何日は 初午よ ってねえ (A そう そう そう そう)

オシエテ クレルノ。 (A オシエテ クレルノ ウン)
教えて くれるの。 (A 教えて くれるの うん)

ント モー ミンナデモツテネ (A アー イクネー)
すると もう みんなでもってね (A ああ 行くねえ)

オシカケテツチャウノ。 {笑}

おしかけて行ってしまうの。 {笑}

113A : アー。 アリヤー モー ナントモ イエナイ コー。
ああ。 あれは もう 何とも 言えない こう。

114B : ソーユーノカ° アレ シタマチジョーチョネ。
そういうのが あれ 下町情緒ね。

115A : ウーン ジョーチョーダネー。 (B ネー)
うーん 情緒だねえ。 (B ねえ)

ソエデ ソリヤー オソラク エドノ ムカシカラ
それで それは 恐らく 江戸の 昔から

ツタワッテル コトネ。 (B ソーデスヨ) エー。
伝わっている ことね。 (B そうですよ) ええ。

ソレカ° ヤハリ センゼンマデ アツタンダナー。
それが やはり 戦前まで あったんだなあ。

東京 13-5

116B : アリマシタネ。 (A ウン) ンデサー ソレカラ アノー
ありましたね。 (A うん) でね それから あのう

ホラ ホーズキイチカ° アッタデショー。
ほら ほおずき市が あったでしょう。

(A ウンウン。 ウンウン アー)
(A うんうん。 うんうん ああ)

アレダッテサ イマワ ソンナニ ホーズキナンテ
あれだってね 今は そんなに ほおずきなんて

タカク ナッチャッタカラ (A ウンウン ウンウン)
高く なってしまったから (A うんうん うんうん)

アンマリ カワナク ナッチャッタケド
あまり 買わなく なってしまったけれど

ムカシワ ドコノ ヒトダッテ アノ ホーズキオネー (A ソー)
昔は どの人だって あの ほおずきをねえ (A そう)

カッテネ (A カッテッタネ) イッタ モノネ。
買ってね (A 買っていったね) 行った ものね。

(A ウン ウン) ソーシテ
(A うん うん) そうして

ジブンノ イエノ (A エー) ノキエ チャント コーネ
自分の 家の (A ええ) 軒へ ちゃんと こうね

東京 13-6/14-1

(A ソー ソー ソー カケトクンダヨネ エー) サケ°テ。

(A そう そう そう かけておくんだよね ええ) 下げて。

ネ。 ンデ ソノ トキニサ (A エー)

ね。 で その 時にね (A ええ)

13↑14

マー イロンナ ツリシノブダトカサ (A エー)

まあ いろいろな 釣忍だとかね (A ええ)

フーリングダトカネ (A エー エー)

風鈴だとかね (A ええ ええ)

アンナ モノオネ (A エー) ヤッパリ カッテサー

あんな ものをね (A ええ) やはり 買ってね

(A ソー ソー ソー) モッテッタモンネ。

(A そう そう そう) 持っていったものね。

117A : ウン ウン。 ソレト アレ アリヤー オレ ノマサレタナー。

うん うん。 それと あれ あれは 俺 [は] 飲まされたなあ。

アノー タンバホーズキ [9] エ (B エー)

あのう 丹波ほおずきへ (B ええ)

カンノ クスリダ ッテンデ (B ソー)

痢の 薬だ というので (B そう)

アー アレ イ アノネー アタシラ コドモン トキノ

あー あれ × あのねえ あたしら 子供の 時の

東京 14-2

オブラードワネー アノ ナンテノカナー モナカノ カワミテンデ
オブラートはねえ あの なんというのかな もなかの 皮みたいなので

シロクテネー (B エー シロイノデショー)
白くてねえ (B ええ 白いのでしょうか)

ウン。 (B アノー) デ テショノ ウエ ミズー
うん。 (B あのう) で 小皿の 上 [へ] 水を

(B ミズ イレテ) ヤッテサー (B ンデ コーネ)
(B 水 [を] 入れて) やってね (B で こうね)

ウン。 ヤーラカク ナッタノ
うん。 柔らかく なったの [を]

ヨージデモッテ ツツンデ (B ソー ソー ソー)
楊子で 包んで (B そう そう そう)

ソノ ミズト イッショニ ノムンダヨナ。 {笑}
その 水と 一緒に 飲むんだよな。 {笑}

118B : エー ソーナノ。 アレネ (A アー)
ええ そうなの。 あれね (A ああ)

ナカノ ネットコオネ ノマセタンデショ。
中の 根をね 飲ませたんでしょう。

119A : アー ウン。 ソーナノ。 (B ネ) カンノ クスリダ ッテ。
あー うん。 そうなの。 (B ね) 瘤の 薬だ って。

東京 14-3

120B : カンノ クスリダ ッテ。
 痛の 薬だ って。

121A : ニケ[°]ーングダヨネ。
 苦いんだよね。

122B : ニカ[°]イノヨ。
 苦いのよ。

123A : ウン。 ンデネ オブラードエ ツツンデネー
 うん。 でね オブラートに 包んでねえ

ソエデ ソー ダンダン アノー
 それで そう だんだん あのう

124B : ンデ ソノサー ソトワネ (A ー)
 で そのね 外はね (A んー)

アノー オネーサンデモ ダレデモ (A ソー ソー ソー ソー)
 あのう お姉さんでも だれでも (A そう そう そう そう)

ホーズキニ シテ (A ホーズキニ スルンダ) ナラス ワケ。
 ほおずきに して (A ほおずきに するんだ) 鳴らす わけ。

125A : デ アレネー アノー ナンツ ダカラネ オンナノコデネー
 で あれねえ あのう なんていう だからね 女の子でね

アノ ホーズキノ タネオネ ダスノニ パンク サセルトネ
 あの ほおずきの 種をね 出すのに パンク させるとね

東京 14-4

ソレ オフクロアタリワネ
それ おふくろあたりはね

ソんなネー キノ ミジカインジャ ダメダヨ ッテネ。
「そんなねえ 気の 短いのでは だめだよ」 ってね。

126B : ソーナノヨ。 アレオ モーネ ネットコク ヤーラカク
そうなのよ。 あれを もう 熱心に 柔らかく

コー ヤッテネ。
こう やってね。

127A : アレオ モー ホントニ ヤーラカク シテネ
あれを もう ほんとうに 柔らかく してね

ソエデ ヒトツブ ヒトツブ ダシテク (B ソー)
それで 1粒 1粒 出していく (B そう)

ソーユー ダシキル オンナノコデ ナキャ イケナインダヨ。
そういう 出し切る 女の子で なければ いけないんだよ。

128B : ダカラネ アーユーコト サセタノネ ムカシワ。
だからね ああいうこと [を] させたのね 昔は。

(A サセタンダヨナー)

(A させたんだよな)

アレデ モッテ キモチカ° ワカルナンテネ。
あれで もって 気持ちが わかるなんてね。

東京 14-5

129A : アー アー。 ンダカラ イマノ オー イワユル
ああ ああ。 だから 今の おー いわゆる

トーキョートノ ジョシコーコーサー ジョシダイセイニ ヤラシタラ
東京都の 女子高校生 女子大生に やらせたら

ゼンブ デキネー。
全部 できない。

130B : アー デキナイデショーネー キット。
ああ。 できないでしょうねえ きつと。

131A : ウン ウン。 マズ デキナイネ。 (B エー)
うん うん。 まず できないね。 (B ええ)

ソエダケ テサキカ° キョージャ ナイヨ。
それだけ 手先が 器用では ないよ。

132B : ソーナノネー。
そうなのねえ。

133A : アー。 デ コレー ヨージノ サキデ コーネー (B エー)
ああ。 で これ [を] 楊子の 先で こうねえ (B ええ)

ヒトツブ ヒトツブ ダシテ ソエデ アレー ナラスンダヨネ。
1粒 1粒 出して それで あれ 鳴らすんだよね。

134B : ソーナノヨ。
そうなのよ。

東京 14-6/15-1

135A : エー。 ンデ コッチカ° ヤロート スルト
ええ。 で こっち [=僕] が やろうと すると

オフクロニ オコラレルノ。 (B {笑})
おふくろに 怒られるの。 (B {笑})

オマエ オトコノコダロー。 (B {笑})
「おまえ 男の子だろう」 (B {笑})

ゼツタイニ ソンナ マネ サセラレナイ。
「絶対に そんな まね [は] させられない。」

14↑15

ホット アレー タンバホーズキモ ソーダケド
そうすると あれ 丹波ほおずきも そうだけれど

アノー ウミホーズキ [10] ノネー ナキ°ナタ [11] ダトカネ。
あもう 海ほおずきのねえ なぎなただとかね。

イロンナナ アンダヨネ
いろいろなのが あるんだよね

136B : ソー。 ナキ°ナタダノ イロンナ コンナ チツチャイノダノネ。
そう。 なぎなただの いろいろな こんな 小さいのだね。

イロンナ カッコーガ
いろいろな かっこうが

137A : ウン。 デ ソレオネー コー ヤッテ デ オフクロカ°
うん。 で それをねえ こう やって で おふくろが

東京 15-2

イッショーケンメーネー アネニネ オシエテヤンノ。
一生懸命ねえ 姉にね 教えてやがるの。

コー ヤンダヨ コー ヤンダヨ。 (B {笑})
「こう やるんだよ こう やるんだよ。」 (B {笑})

ホート アネカ° マタ クチビル トンカ°ラカシテ
そうすると 姉が また 唇 [を] とがらせて

シンケンナ カオー シテ メジリオ コー ヤッテ ヤッテンノネ。
真剣な 顔を して 目尻を こう やって やっているのね。

(B {笑}) ソエデ ンダカラ オフクロカ° オシエルンダカラ
(B {笑}) それで だから おふくろが 教えるんだから

アレ イヤオーナシニ オボエチャーヨ。 (B ソーデスネ)
あれ 否応なしに 覚えてしまうよ。 (B そうですね)

アー。 ソエデ コンド ウー ドーキューセーヤ ナニカデモツテ
ああ。 それで 今度 うー 同級生や 何かで

エー ナンカ ソコイラノ トブクロエ
ええ なにか その辺の 戸袋へ

セナカ クツツケヤカ°ツテ (B ウーン)
背中 [を] くっつけやがって (B うーん)

ミンナ クチビル トンカ°ラカシテ (B {笑})
みんな 唇 [を] とがらせて (B {笑})

東京 15-3

チュー チュー (B {笑}) チュー チュー ヤッテンダヨネ。
チュー チュー (B {笑}) チュー チュー やっているんだよね。

138B : ホントー。
ほんとう。

139A : デ ソレデ ケッコー アレカ° タノシーンダネ。
で それで けっこう あれが 楽しいんだね。

140B : タノシーノヨー。
楽しいのよ。

141A : シー ソエデー ベツニ オトコノコニ シテ ミリヤー
んー それで 別に 男の子に して みれば

ナンデー アンナナー オンナノコノ ヤル コツテ
「なんだい あんなのは 女の子の やる ことで

オレノ シッタ コトカ ッテヨーナンダカラ (B エー ソーヨ)
俺の 知った ことか」というようなのだから (B ええ そうよ)

ゼンゼンネ エー カンジワ ナシ コッチャー
全然ね えー 感じは なし こっちは

メンコダノ ベーゴ°マ [12] ダノ
メンコだの ベイゴマだの

ヤッテリヤー イーンダカラネー。
やっていたら いいんだからねえ。

東京 15-4

142 B : マッタク マー メンコモ シュルイカ° イッパイ アルカラネー。
まったく まあ メンコモ 種類が いっぱい あるからねえ。

143 A : アレワ タクサン アルネー。
あれは たくさん あるねえ。

144 B : コーンナ オッキナ メンコダノナンカネ (A アー) マー。
こんな 大きな メンコやなんかね。 (A ああ) まあ。

145 A : ソエデネ アレーワネー ヨーコ° ッテ ユーノカ
それでね あれはねえ 用語 と いうのか

ヤリカタノネー コトバカ° ミンナ チカ°ウノ。
やり方のねえ ことばが みんな 違うの。

(B ソーデスネー) ウン。 ソエデネー モー
(B そうですねえ) うん。 それでねえ もう

カンドト アサクサジャー マルッキリ チカ°ウシ (B エー)
神田と 浅草では まるで 違うし (B ええ)

デ タトエバ カンダーノ サルカ°クチョート
で たとえば 神田の 猿楽町と

アー イッシンタスケ [13] カ° イタ ッテ ユー
あー 一心太助が いた と いう

ミカワチョージャー マルデ チカ°ーノ。
三河町では まるで 違うの。

146B : マタ チカ°ウノ。
また 違うの。

147A : アー。 ダカラ コレワネー デ ソーカッテ
ああ。 だから これはねえ で そうかといって

オンナノヒトノ オテダマウター
女の子の お手玉歌 [は]

タイカ°イ オンナジミテダッタネー。
だいたい 同じみたいだったねえ。

148B : エー ソーデスネー。
ええ そうですねえ。

149A : ウン。 (B エー エー) アレ ドーユー ワケナノ。
うん。 (B ええ ええ) あれ どういう わけなの。

オトコノコノネー ショーブコトノ ヨーゴ°ワネー
男の子のねえ 勝負事の 用語はね

ミンナ チイキニ ヨッテ チカ°ウンダネー。 (B ハー)
みんな 地域に よって 違うんだねえ。 (B はあ)

ソエカラー オンナノコノネー オテダマウタワネー
それから 女の子のねえ お手玉歌はねえ

15↑16

イチブワ チカ°ウケレドモネー ダイタイ オンナジヨ。
一部は 違うけれどもねえ だいたい 同じよ。

東京 16-2

150B : ニテルデシヨ。 ネ。
似ているでしょう。 ね。

151A : ウン。 ダケドネー イヤ ソレカ°ネー アノー
うん。 だけれどねえ いや それがねえ あのう

オンサカサカサカ ッテ ユー ウタカ° アンダヨネ。
「御坂坂坂」 と いう 歌が あるんだよね。

(B エー) デ アレカ°ネー
(B ええ) で あれがねえ

アタシカ° アネカラ ミミデ オボエテンナー
あたしが 姉から 耳で 覚えているのは

オンサカサカサカ アカサカ ドンドヨ ヨツヤデ ドンドヨ
「御坂坂坂 赤坂 どんどよ 四谷で どんどよ

(B {笑}) ヨツヤ アカサカ コージマチヨ
(B {笑}) 四谷 赤坂 麴町よ

サラサラ オチルワ オチャノミズ オチャノミズノ マンナカデ
さらさら 落ちるは お茶の水 お茶の水の 真ん中で

ジューヒチハチノ ネーサンカ° シロイ カ ハンカチ シロタビデ
17、8の 姉さんが 白い × ハンカチ 白足袋で

カーイーナ デ ヒトツ フタツ ミッツ デ ヤルノ。
かいな」 で 「一つ 二つ 三つ」 で やるの。

東京 16-3

152B : エー エー エー エー。
ええ ええ ええ ええ。

153A : ダカラ ソノー オチャノミズノ マンナカデ
だから そのう 「お茶の水の 真ん中で

ジューヒチハチノ ネーサンカ° シロイ ハンカチ シロタビデ
17、8の 姉さんが 白い ハンカチ 白足袋で」

ッテ ユーノワ モー オチャノミズジョシシハン [14] カ°
と いうのは もう お茶の水女子師範が

デキテッカラノ ウタナンダ。
できてからの 歌なんだ。

154B : アー ナルホドネ。 ソレデ
ああ なるほどね。 それで

155A : ソリヤ アトン ナッテ ワカル ワケヨ。
それは あとに なって わかる わけよ。

(B アー アー アー) ダケド ウタッテル トキニャー
(B ああ ああ ああ) だけれど 歌っている 時には

サルカ°クチョーデ ウタッテッカラ
猿楽町で 歌っているから

アー オチャノミズワ アソコダ ッテ ユー ワケ。 (B エー)
あー お茶の水は あそこだ って いう わけ。 (B ええ)

東京 16-4

デ ジッサイニ オチャノミズノ ネーサン ンー
で 実際に お茶の水の 姉さん ンー

シロイ ハンカチデ コンナ コト ヤッテタカラナー
白い ハンカチで こんな こと [を] やっていたからなあ

アレ ダイカ°クセート イッショニ。
あれ 大学生と 一緒に。

ダカラ ソーユー フーケー ウタッテ アンノカナ ト
だから そういう 風景 [を] 歌って あるのかな と

オモッタラ ナンノ コター ネーンダヨ。
思ったら なんの ことは ないんだよ。

モトウター バンシュー アカオネ
元歌は 播州 赤穂ね

(B エー エー。 アー アッチノ ホーカラ)
(B ええ ええ。 ああ あっちの 方から)

アッチノ ウタナンダ。 (B エー)
あっちの 歌なんだ。 (B ええ)

マチダ カショーサンノー アレオ ミルトネ
町田 嘉章さんの あれを 見るとね

(B アラ ソーナンデスカ) エー。
(B あら そうなんですか) ええ。

東京 16-5

ソレデー ムコーデーノ カシー ダカラネ ケツキョクネー ジャー
それで 向こう出の 歌詞 だからね 結局ねえ では

オチャノミズ イヤ アカサカ ドンドヨ ヨツヤデ ドンドヨ
お茶の水 いや 「赤坂 どんどよ 四谷で どんどよ」

ッテ ユー ドンドン ッテ ユーノワネ (B エー)
と いう どんどん と いうのはね (B ええ)

コレワ アノー アカサカノ ドンドン ッテ ユーノワネー
これは あのう 赤坂の どんどん と いうのはねえ

コノ アカサカノ タメイケカ° アトラノモンノ オー
この 赤坂の 溜池が × 虎ノ門の おー

シタマチエ オリル トキニ
下町へ 下りる 時に

アオイバシ ト ユー ハシカ° アルノ。 (B エー)
葵橋 と いう 橋が あるの。 (B ええ)

イマノ コッカイギジドーノ チカテツノ
今の 国会議事堂の 地下鉄の

デル トコナダケド (B エー) アー
出る 所なんだけれど (B ええ) あー

ニッショーイワイノ マエノ トコ。 (B アー)
日商岩井の 前の 所。 (B ああ)

東京 16-6/17-1

デ アソコデ ラクサカ° アッテ ミズカ° オチンノオ
で あそこで 落差が あって 水が 落ちるのを

ドンドン テ ユーンデスヨ。 (B アーラ)
どんとんと いうんですよ。 (B ああら)

ダカラ アノー イーダバシノ
だから あのう 飯田橋の

コクデンノ イーダマチ [15] ノ エキノ マエノ ウー
国電の 飯田町の 駅の 前の うー

イワユル カンダジョースイカ° ナカ°レテキテ
いわゆる 神田上水が 流れてきて

カンダカ°ワエ ハイル トコ エー アソコモ オ
神田川へ 入る 所 えー あそこも ×

アタシラ コドモン トキ ラクサカ° アッテ
あたしら [が] 子供の 時 落差が あって

ココオ ドンドン ッテ ユー。 (B へー)
ここを どんとんと いう。 (B へえ)

ダカラ ドンドン ッテ ユーノワ ミズノ オチル ウー
だから どんとんと いうのは 水の 落ちる うー

16↑17

タキーミタイナ トコネ。
滝みたいな 所ね。

東京 17-2

156B : アー ソーデスカ。
ああ そうですか。

157A : エー。 ダカラ ヨツヤデ ドンドンヨ ッテ
ええ。 だから 「四谷で どんどんよ」 って

ヨツヤニモ アッタ ワケ。 (B エー エー)
四谷にも あった わけ。 (B ええ ええ)

ソレカラ アカサカ ドンドヨ。 (B エー)
それから 「赤坂 どんどよ。」 (B ええ)

ンダカラ デ アト ソーユー ミズカ° オチル
だから で あと そういう 水が 落ちる

ドンドン ト ユー オトカ° スル トコロカ° アルケド
どんどん と いう 音が する 所が あるけれど

サラサラ ナカ°レル オチャノミズン ナル ワケ。
さらさら 流れる お茶の水に なる わけ。

(B ハー ナルホドネー) ンダ タイラナ ナカ°レモ アル。
(B はあ なるほどねえ) だから 平らな 流れも ある。

ンデ コレワ トーキョーオ ウタッテンダケド
で これは 東京を 歌っているんだけど

ドンドント ヨンダノワ エドノ コトバナンデスヨ。 (B フーン)
どんどんと 呼んだのは 江戸の ことばなんですよ。 (B ふーん)

東京 17-3

ン。 ソースルト バンシューニ モトウタカ° アッテ (B エー)
うん。 そうすると 播州に 元歌が あって (B ええ)

エドノ ドンドンカ° ハイル ッテ ユー トキニ
江戸の どんどんが 入る と いう 時に

ボカー アトカラ ア ナルホド コレカ° サンキンコータイニヨル
僕は あとから あ なるほど これが 参勤交代による

ブンカノ コーリユーダナ ト オモウ ワケ。
文化の 交流だな と 思う わけ。

158B : アー ナルホドネー。
ああ なるほどねえ。

159A : アー。 ダカラ コレワ ロクジューヨシューノ オトノサマカ°
ああ。 だから これは 60余州の お殿様が

タエズ イッターリ キタリ スル バクフノ セードノ
絶えず 行ったり 来たり する 幕府の 制度の

(B エー) サンキンコータイノ ナカデ
(B ええ) 参勤交代の 中で

エドデ ハク°クマレタ ブンブツカ° チホーエ モッテカレル
江戸で 育まれた 文物が 地方へ 持っていかれる

チホーノ フーシューカ° ニホン トーキョー エドエ
地方の 風習が 日本 東京 江戸へ

東京 17-4

ハイッテクル。 (B ハイッテクル)

入ってくる。 (B 入ってくる)

デ コレカ° ショコクカラ コー ハイッテクル ワケヨ。
で これが 諸国から こう 入ってくる わけよ。

(B エー エー) デ ソノ カタマッタ モノカ°

(B ええ ええ) で その 固まった ものが

アー エドブンカ ッテ イワレル モノダカラ (B エー)

あー 江戸文化 と いわれる ものだから (B ええ)

アー イチバン ザッシュデスヨネ。

あー 一番 雑種ですよ。

160B : ソーデスネー。

そうですねえ。

161A : ザッシュデ アリナカラ エド ト ユー オ

雑種で ありながら 江戸 という ×

ダイトカイノ ナカデ ハク°クマレテ

大都会の 中で 育まれて

ヒトツノ カタ イチズケン ナッテル ワケ。 (B エー エー)

一つの ×× 位置づけに なっている わけ。 (B ええ ええ)

ンダケド モトオ アラヤー ザッシュデスヨ。

だけれど 元を 洗えば [=調べれば] 雑種ですよ。

東京 17-5

ダカラ ケナミ ヨク ネーダヨ。
だから 毛並 [は] よく ないんだよ。

162B : {笑} ア ケナミ ワルイノ。 {笑}
{笑} あ 毛並 [は] 悪いの。 {笑}

163A : ンー コンナ ダカラ カリニ ソノ ナカノ
んー こんな だから 仮に その 中の

エドノ コトバ ッテ ユッタッテネ (B エー)
江戸の ことば と いってもね (B ええ)

エー コリヤー ショコクノ コトバカ° ヨリアツマッテ
えー これは 諸国の ことばが 寄り集まって

(B ヨリアツマッテル ワケネ) エー。
(B 寄り集まっている わけね) ええ。

ソイデ ショコクノ ヒトニ ツージルヨーナ
そいで 諸国の 人に 通じるような

ニュアンスノ モノカ° デタンジャ ナイカナ。
ニュアンスの ものが 出たのでは ないかな。

ンダカラ ガクモントワ チカ° ッテ ンー
だから 学問とは 違って んー

ボクワ セーカツノ ウエデダッテ ホントニ
僕は 生活の 上でだって ほんとうに

東京 17-6

トーホクベンジャー ワカンナイシ (B エー)
東北弁では わからないし (B ええ)

カコ°シマベンジャー ワカラナイ。 (B ソー)
鹿児島弁では わからない。 (B そう)

ジャー ソーユー ジュンスイノ ヒト コー
では そういう 純粹の 人 こう

ホーゲ°ンオ モッテル ヒトカ° エド ト ユー トコロエ
方言を 持っている 人が 江戸 と いう 所へ

キテ ゴッチャン ナッタ トキニワ
来て ごっちゃんに なった 時には

イワユル エスペラント [16] カ° ンマレタッテ
いわゆる エスペラントが 生まれたって

フシキ°ワ ナインダヨ。
不思議は ないんだよ。

164B : ソレワ ソーデスネー。
それは そうですねえ。

165A : アー。 ダカラ ソレカ° エドベンダロー ト (B エー)
ああ。 だから それが 江戸弁だろう と (B ええ)

ボクワ オモーングダ。
僕は 思うんだ。

17↑

東京都台東区1980注記

〔1〕 ダイジンク°

天照大神をまつる神宮。皇大神宮。または、皇大神宮（内宮）と豊受大神宮（外宮）との総称。伊勢神宮。

〔2〕 コージン

さんぼうこうじん
三宝荒神。仏・法・僧を守護するという神。不浄を嫌うことから火の神、かまどの神とされる。

〔3〕 タカハリ

高張堤燈。高堤燈。長い竿につけて、高く掲げるようにした堤燈。または、地上に立てた柱の上に小さい屋根をつけ、その下に堤燈をつるもの。神社の社頭や、儀式のときの門前に立てた。

〔4〕 オテーチャン

NHK テレビの連続ドラマ「おていちゃん」。浅草が舞台となっている。

〔5〕 ハツンマ

2月の最初の午の日。京都の伏見稲荷大社の神が降りた日がこの日であったといい、全国の稲荷神社で初午祭が行われる。

〔6〕 アライハリ

和服を解いて洗い、糊をつけ、板張りや竹製の串を使った張りで、布をびんと張らせて縮まないように、幅を整え、乾かすこと。

〔7〕 ヤシキイナリ

屋敷地の一隅やその隣接地にまつる稲荷。

〔8〕 ジク°チアンドン

地口は、ことわざなどに同音、または音の似通った別の語をあてて、違った意味を表す語呂合わせやしゃれ。地口行燈は、地口を書いた行灯。多くは戯画を書き加えて、祭礼の時などに軒先にかけたり、道に立てたりする。絵地口。江戸中期に流行した。

〔9〕 タンバホーズキ

ほおずきの栽培品種のひとつ。果実が大きい。

[10] ウミホーズキ

海産の巻貝類の卵囊。ほおずきのように、口の中で鳴らして遊ぶ。アカニシ（なぎなたほおずき）、テングニシ（ぐんばいほおずき）、バイ（あわほおずき）、ナガニシ（さかさほおずき）など。

[11] ナキ°ナタ

なぎなたほおずき。アカニシという、海産の巻貝の卵囊。ほおずきのように、口の中で鳴らして遊ぶ。

[12] ベーゴ°マ

巻貝バイの殻に溶かした鉛や蠟を注ぎ込んで作ったこま。これに模して木や鉄で作ったものをもいう。ベイゴマ。パイゴマ。パイツク。パイ。

[13] イッシンタスケ

一心太助は、小説、戯曲、講談、歌舞伎などに登場する、江戸っ子の典型的な人物。魚屋を営み、義理人情に厚く、大久保彦左衛門の家来株として活躍する。

[14] オチャノミズジョシシハン

お茶の水女子大学の前身の別名。1874(明治7)年、お茶の水に、東京女子師範学校として創立。1890(明治23)年に、女子高等師範学校、1908(明治41)年に、東京女子高等師範学校と改称。1949(昭和24)年から、お茶の水女子大学となる。関東大震災後、移転し、現在は、東京都文京区大塚にある。

[15] イーダマチ

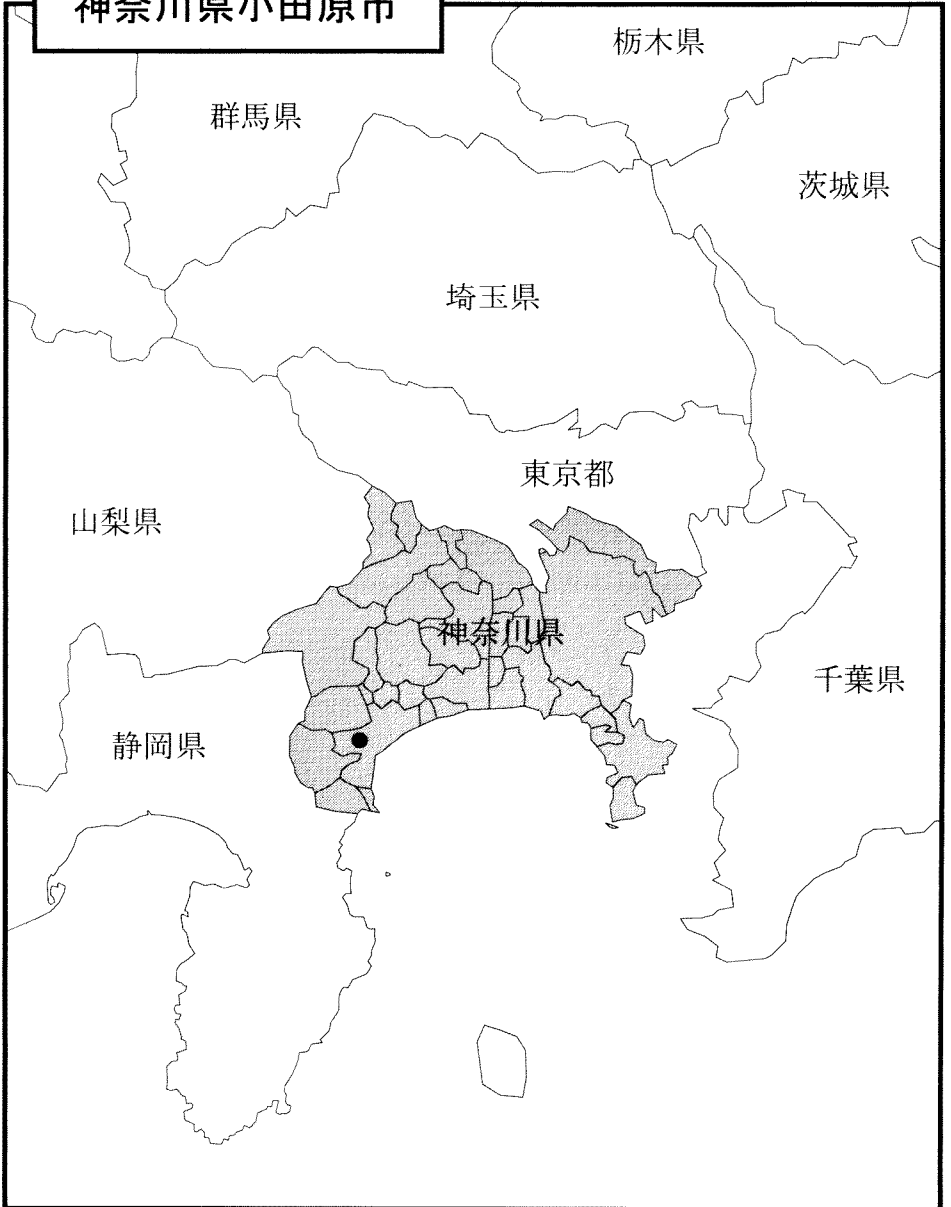
明治28年甲武鉄道（現・JR中央線）に開設された飯田町駅。その後、貨物駅となり、さらにその跡地が再開発された。

[16] エスペラント

1887年、ポーランド人ザメンホフが創案した人工の国際語。1889年に公表され、1906(明治39)年に日本エスペラント協会ができた。言語の違う諸民族間の相互理解を目的とする。エス語。エスペラントとは、エスペラント語で「希望ある人」の意。

**Ⅱ. 神奈川県小田原市
1983**

神奈川県小田原市



神奈川県小田原市1983話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

| | |
|---------|--------|
| 話者 | 小野 春松 |
| | 武田 ちの |
| | 一寸木 清造 |
| | 湯川 孝作 |
| 収録担当者 | 配島 成光 |
| 文字化担当者 | 配島 成光 |
| 共通語訳担当者 | 配島 成光 |
| 解説担当者 | 配島 成光 |

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

| | |
|-------|--------|
| 編集担当者 | 佐藤 亮一 |
| | 江川 清 |
| | 田原 広史 |
| | 井上 文子 |
| 編集協力者 | 佐藤 祐希子 |
| | 鳥谷 善史 |
| | 熊谷 康雄 |

神奈川県小田原市1983解説

収録地点名 神奈川県小田原市久野^く字中久野

収録地点の概観

位置

小田原市は神奈川県の南西部に位置する。久野は小田原市の中央から西部、小田原駅からは約4kmの距離にある。東は小田急線を境に、足柄地区井細田に接し、西は標高1,160mの箱根外輪山を控え、南は荻窪地区を経て、小田原市街地に至る。北は諏訪の原・多古丘陵をはさんで、富水・岡本地区に接する地点にある。

交通

小田原駅から伊豆箱根バス久野行きで約15分。小田急線足柄駅から徒歩で約30分。大雄山線井細田駅からバスで約10分。小田原厚木道路があり、また、地区の中心部を市道久野線、小田原箱根宮城野林道、広域農道、小田原南足柄線、その他市道が通り、交通の便はよい。

地勢

箱根連山の外輪山は明星岳を中心として、東に傾斜し、天神山、多古丘陵に続いている。これらの山岳丘陵に囲まれた地区は緩傾斜地を形成している。箱根外輪山の東北部から、久野地区の中心部を東西に久野川（山王川）が流れている。久野は、北西部の山岳地帯と東南部の平坦地帯に区分される台地である。台地の地質は洪積層の火山灰地帯が大部分で、平坦地帯は久野川流域の沖積層で水田に適して、気候風土に恵まれている。

行政区画

久野は、近世は小田原藩領であった。

1889(明治22)年から足柄下郡久野村、1908(明治41)年4月1日からは足柄村に所属。1940(昭和15)年2月11日、足柄村は足柄町となる。1940(昭和15)年12月20日、小田原町・足柄町・大窪村・早川村・酒匂村の一部が合併して小田原市が成立し、久野は小田原市久野となった。

戸数・人口

1984(昭和59)年3月1日現在、世帯数約2,980戸、人口約9,874人。年々人口は増加している。

産業

南部地域、^{さかした}坂下・^{きたくぼ}北久保・^{しもじゅく}下宿・^{みやもと}宮本・^{なかじゅく}中宿・^{なかくの}中久野の温暖地は、ミカン、野菜を主に、植木などを栽培し、北部地区、^{すわ}諏訪の原・^{ほら}星山・^{ほしやま}留場・^{とめば}欠の上・^{ぼうしよ}坊所・^{ふなばら}舟原は、ミカン、タケノコ・シイタケ・シメジ・ナメコなどを生産している。

大勢としては丘陵地帯ではミカンを主体とした樹園地が形成され、平坦地は市街地を除き、近郊農業を中心に商工業が営まれている。

方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

神奈川県のことばは関東方言の西の一角を占め、中部・西部の丹沢山地を境界として、大きく北部方言と南部方言とに分かれる。調査地点の小田原市久野は南部方言の西限の一区画である足柄方言に属し、神奈川県南部方言一般の特徴を有するとともに、西隣の静岡県東部方言との共通性も見受けられる。

音韻

(1) 意味を強めるために長音化することがある。

イッターサー (行ったよ)

イクダーヨー (行くんだよ)

(2) 連母音が融合することがある。

[ai] → [æ:] たいてい [taite:] → [tæ:te:]

[ai] → [e:] ~ぐらい [gurai] → [gure:]

(3) 次のようなアクセントがある。

ヒバ[↑]チ

カ[↑]ボチャ

ヤ[↑]ッパリ

文法

(1) 推量の「べー」がある。

ナカンベー (ないだろう)

- (2) 逆接を表す助詞「ケンド」, 「ケンドモ」がある。

マツモ ウエターケンドヨー (松も植えたけれどね)

ヨク ワカンケンドヨー (よくわかるけれどね)

イツノ コトダカ ワカンナイケンドモ

(いつのことかわからないけれど)

- (3) 間投助詞「ヨー」がある。

マツモ ウエターケンドヨー (松も植えたけれどね)

ゾーキバヤシカ° ネーカラヨー (雑木林がないからね)

- (4) 疑問を表す終助詞に「ケー」がある。

ア ソーケー (あ、そうか)

- (5) 静岡県の東部方言と共通する「ジャー」を使うことがある。

ムギオ ヤツテタジャー (麦を作っていたではないか)

- (6) 「～する点で」, 「～するうえで」の意味で、動詞の連体形に「ニ」をつける言い方がある。

イキテ イクニ ツラクナッチャッタ

(生きて行くのにつらくなってしまった)

ウチエ ハイルニ ドーショーカト オモッテナ

(自宅へ入るのにどうしようかと思っ
てね)

語彙

- (1) 「言う」を「セウ」という。

オマツリ セーバ (お祭り [と] いえば)

- (2) 「なるほど」, 「そうだ」の意を表すあいづちとして、「オーヨ」がある。

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。)

神奈川県小田原市1983凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? (全角)

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

() (全角)

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } (全角)

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× (全角)

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** (全角)

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

//// (全角)

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナデスナ、

//////// 「文字」 なんですネ。

[] (全角)

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ
みかん [を] 乗せて

= (全角)

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー
今 いう [=今話題にあがった]

| | (全角)

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[] (全角)

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「神奈川18-1」は CD トラック番号が18で、その1ページ目ということである。「神奈川18-1」「神奈川18-2」……「神奈川18-6/19-1」……「神奈川35-5」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分

がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。
↑18, **18↑19**, …… **34↑35**, **35↑** のように表示される。

第6巻のCD（69分34秒）には、神奈川県小田原市の談話、【年中行事】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

| トラックNo. | 開始ページ・行 | 終了ページ・行 | 時間:分:秒 |
|---------|------------|------------|---------|
| 18 | p.119・0.1 | p.124・0.3 | 0:01:59 |
| 19 | p.124・0.3 | p.127・0.13 | 0:01:55 |
| 20 | p.127・0.15 | p.130・0.17 | 0:02:09 |
| 21 | p.131・0.1 | p.135・0.7 | 0:01:54 |
| 22 | p.135・0.9 | p.138・0.13 | 0:01:47 |
| 23 | p.138・0.15 | p.142・0.9 | 0:01:57 |
| 24 | p.142・0.11 | p.146・0.1 | 0:02:05 |
| 25 | p.146・0.3 | p.149・0.17 | 0:01:40 |
| 26 | p.149・0.17 | p.152・0.5 | 0:01:21 |
| 27 | p.152・0.7 | p.155・0.11 | 0:01:50 |
| 28 | p.155・0.13 | p.159・0.9 | 0:02:04 |
| 29 | p.159・0.11 | p.163・0.3 | 0:02:03 |
| 30 | p.163・0.5 | p.166・0.5 | 0:01:50 |
| 31 | p.166・0.5 | p.170・0.3 | 0:02:04 |
| 32 | p.170・0.5 | p.174・0.7 | 0:02:07 |
| 33 | p.174・0.7 | p.178・0.11 | 0:02:05 |
| 34 | p.178・0.13 | p.182・0.9 | 0:01:56 |
| 35 | p.182・0.11 | p.186・0.19 | 0:01:57 |
| 計 | | | 0:34:43 |

神奈川県小田原市1983談話

収録地点 神奈川県小田原市久野^{くの}字中久野

収録日時 1983(昭和58)年8月17日

収録場所 神奈川県小田原市久野 東泉院

話題 年中行事

話者

| | | | | |
|---|---|--------------|----------|----|
| A | 男 | 1895(明治28)年生 | (収録時88歳) | 農業 |
| B | 男 | 1920(大正9)年生 | (収録時63歳) | 農業 |
| C | 女 | 1900(明治33)年生 | (収録時83歳) | 農業 |
| D | 男 | 1911(明治44)年生 | (収録時72歳) | 農業 |

調査員

5名 (収録談話中に発話なし)

収録時間 (CD) 34分43秒

【年中行事】

話し手

- | | | | | |
|---|---|--------|----------|----|
| A | 男 | 明治28年生 | (収録時88歳) | 農業 |
| B | 男 | 大正9年生 | (収録時63歳) | 農業 |
| C | 女 | 明治33年生 | (収録時83歳) | 農業 |
| D | 男 | 明治44年生 | (収録時72歳) | 農業 |

1 B : マー ジャ アレデショ Aサンヨ (A ウン)

まあ では あれでしょう Aさん (A うん)

↑18

マツワネ (A ウン) ムカシカラ オランチモ ソーダッタケド
松はね (A うん) 昔から 私の家も そうだったけれど

ヤマニ ウエンニヨ コマツカク ウエタモンダヨ。 ソエデ
山に 植えるのにな 細かく 植えたもんだよ。 それで

2 A : ダカラネ

だからね

3 B : マイトシ オロヌイテ [1] (A ウン) エー

毎年 間伐して (A うん) えー

カドマツニ ツカイナカラ (A ソー)

門松に 使いながら (A そう)

ソレオ ヤツテ ゴロクネンタツト

それを やって [=植えて] 5、6年たつと

神奈川 18-2

4 A : シ ソーダ
うん そうだ

5 B : ダンダント
だんだんと

6 A : オー
うん

7 B : ノコル キカ° セーボクニ ナルヨーニ
残る 木が 成木に なるように

8 A : ソノネ ダカラ アノ リンヤチョーノ シラベデ ルー (B シー)
そのね だから あの 林野庁の 調べで ×× (B んー)

ユートダネ コレオ アノ ナ スージデ アラワストネ
いうとだね これを あの × 数字で 表すとね

9 B : オー
うん

10 A : エー カドマツ シンマツオ キルノガネ
ええ 門松 [に] 新松を 切るのがね

11 B : ウン
はい

12 A : キツテ タテルニワ ダイタイ ニヒャクゴジューハチマンボンク°ライ
切って 立てるには だいたい 258万本くらい

神奈川 18-3

タ アノ
× あの

13B : イルンダ ト
要るんだ と

14A : イルンダ ト (B ウン ウン) ソレオ サンシジューネン
要るんだ と (B うん うん) それを 3、40年

ソダタテルトダネ
育×てるとだね

15B : オー
うん

16A : オヨソ ジューゴツボノ イエカ° キューセンコク°レー タテル
およそ 15坪の 家が [を] 9,000戸くらい 建てる

17B : ウン ウン ウン
うん うん うん

18A : マ リョーニ ナル ト。 コンナコトオ オ カンカ°エルトダネ
ま 量に なる と。 こんなことを × 考えるとだね

19B : シ
うん

20A : マコトニ バカケ°タ ローヒジダイノ シューゾクデ アルト
実に ばかげた 浪費時代の 習俗で あると

神奈川 18-4

21B : オー オー
うん うん

22A : コーユーヨーニ ダンケ°ンシテルンダナ。 (B ウン ウン ウン)
こういうように 断言しているんだな。 (B うん うん うん)

ダカラネ エー コノクライノ マー
だからね えー このくらいの まあ

ロー ローヒ ッテ ユー コトバカ° ワタシワ キニ イラネーダ
×× 浪費 と いう ことばが 私は 気に入らないんだ

ホントカラ (B ウン ウン) ユエバネ。
ほんとうから (B うん うん) 言えばね。

23B : イヤ ダケドネ (A ン) イマ イッタヨーニ
いや だけどね (A ん) 今 言ったように

マツオ ウエン バーイニワ (A ン ダカラ)
松を 植える 場合には (A ん だから)

テーゲー ミネカ° オーイダヨ (A ダカラ ショ)
たいがい 峰が 多いんだよ (A だから ××)

ボサ [2] ンノトコカ°ヨ
草むらのところがね

24A : アノ ショクリントネ (B ウン) コノ リンヤチョーデ ユーナワ
あの 植林とね (B うん) この 林野庁で いうのは

神奈川 18-5

ショクリンカラ イッテルンダナ。 (B ウン ウン)
植林から 言っているんだな。 (B うん うん)

ダケド ショクリンノ ジッサイオ シラナイ コトダナ。
だけど 植林の 実際を 知らない ことだな。

25 B : ソーユー コトダナ。 (A ネ。 ン)
そういう ことだな。 (A ね。 ん)

26 A : ミッショクシタ ヤツオダネ (B ソーソーソー) アイダアイダオ
密植した ものをだね (B そーそーそー) 間間を

(B ソー) シゴネンタツテ キリヤ キリダセバ
(B そう) 4、5年たって ××× 切り出せば

ソレカ° リッパナ カドマツニ ナルダカラ
それが 立派な 門松に なるんだから

マー ソンナ ヨ コトカラ ユート
まあ そんな × ことから いうと

ソ ソノ ショクリンノ ジッサイオ シラナイ
× その 植林の 実際を 知らない

27 B : アー
ああ

28 A : イーカタダト (B ンー) マ コーユー コトダケド
言い方だと (B んー) ま こういう ことだけど

神奈川 18-6/19-1

29B : イヤー (A ソンナ マー ソリヤー ヒトツノ ギロン)
いやあ (A そんな まあ それは ひとつの 議論)

ジッサイ オレンチアタリデモ (A ン) ン マツモ
実際 私の家あたりでも (A ン) ン 松も

18↑19

ウエターケンドヨ (A ン) ソレ マツ ッテーノワ
植えたけれどね (A ン) それ 松 というのは

テーケー ボサノ ミネカ° オーイワケヨ (A ンー ンー)
たいがい 草むらの 峰が 多いわけね (A ンー ンー)

デ ミネダカラ シタカ°リノ ンー テマー ハブクタメニ
で 峰だから 下刈りの ンー 手間を 省くために

ケッコー ミッショクスル (A ンー) ワケダネ。
けっこう 密植する (A ンー) わけだね。

30A : マー マツデモ スキ°デモ (B ンー) ウェルトキニワ タショー
まあ 松でも 杉でも (B ンー) 植えるときには 多少

ミッショクスルノカ° (B ンー) アタリマエダナ。ンー ソシテ
密植するのが (B ンー) あたりまえだな。ンー そして

シコ°ネンタッテ (B ンー) ダンダンニ カンバツシテイク。
4、5年たって (B ンー) だんだんに 間伐していく。

31B : トクニ マツワナ (A ンー) ソレー ノー ケイコーカ°
特に 松はね (A ンー) それ の 傾向が

神奈川県 19-2

オエーノヨ。 ***

多いのよ。 ***

32A : ソレトネ (B ンー) アノー カドマツオ モクテキデ
それとね (B んー) あの 門松が 目的で

エ ミッショクシテイル トコロモ アルワナ。
え 密植している ところも あるな。

33B : ウーン ウーン。
うーん うーん。

34A : コレワ マーネ (B ウン) アノ ハタケニヨ (B ソー ソー)
これは まあね (B うん) あの 畑にね (B そー そー)

カンボクヤ シバオ (B ンー) ウエルノト ドーイキ°デダネ
灌木や 芝を (B んー) 植えるのと 同意義でだね

(B ンー) エー ショクリントワ カンケーネーダ。
(B んー) えー 植林とは 関係ないんだ。

ダカラ リンヤチョーノ シラベニヨルトコロノ
だから 林野庁の 調べによるところの

コノ カドマツハイシロンワ ワタシワ ケッシテ ソノ サンセーカ°
この 門松廃止論は 私は 決して その 賛成が

デキナイ ト ユー (B ウン ウン ウン) コトオ
できない と いう (B うん うん うん) ことを

神奈川 19-3

イッテル マー イッタ ワケナンダ。
言ってる まあ 言った わけなんだ。

35B : ソイツワ ヨク ワカッタケンドネ
それは よく わかったけれどね

ダカラ アノー モー イママデモ ソーダベール ト オモウンダケンド
だから あの もう 今までも そうだろう と 思うんだけど

ダイタイ マツワ ミネカ° オーイシ ミッシヨクシテ
だいたい 松は 峰が 多いし 密植して

ソレオ ネンネン オロヌキナカラ カドマツニシテ
それを 年々 間伐しながら 門松にして

ノコルキオ コンドワ アノ セーボクニ シテイクト。
残る木を 今度は あの 成木に していくと。

36A : ソレデネ (B オー) アノ フツノ ウチデワネ
それでね (B うん) あの 普通の 家ではね

アノ シンマツオ タテナイデ タイテー エダク°レアーデ
あの 新松を 立てないで たいてい 枝ぐらいで

(B アー アー ウン) スマシテルダナ。
(B あー あー うん) すましているんだね。

ダカラ ベツニ ソノ ショクリンノホーノ
だから 別に その 植林のほうの

神奈川 19-4/20-1

マー ソカ°イニ ナラナイ ワケダケドナー。
まあ 阻害に ならない わけだけどね。

37B : ウン マー ソコラカ° アノー オヤクニントヨ (A ウン)
うん まあ そこらが あのう 役人とね (A うん)

ンー アノ ワレワレ
んー あの われわれ

38A : ジッサイトワネ。
実際 [にする者] とはね。

39B : ウン チカ°ーコトデヨ。
うん 違うことでね。

40A : ソレトネ (B ウン) イチネンニ イッペン トシノ ハジメニダネ
それとね (B うん) 1年に 1度 年の 初めにね

(B ウン) エー ミドリシタタル マツオ ミテ
(B うん) えー 緑したたる 松を 見て

19↑20

ソシテ イロンナ ケーカクオ タテル ッテ ユー コトワヨ
そして いろいろな 計画を 立てると いう ことはね

ケッシテ ヨ アノ ムイミジャナイ ト オモーダヨネ。
決して × あの 無意味ではない と 思うんだよね。

(B ウン) ン マ コンナコト
(B うん) うん ま こんなこと

神奈川 20-2

41 B : マー Aサンカ° カドマツカ° ナクナッチャッタ テ
まあ Aさんが 門松が なくなっちゃった と

ウレーテイラレル ッテ ユー コトワ ヨク ワカンケンドヨ
憂えていらっしゃる と いう ことは よく わかるけれどもね

ジダイノ ナカ°レデ ソイツラーモ ヘー ショーガ°ネーヤナ。
時代の 流れで それらも もう しかたがないね。

42 A : ンー ソレワ マー ショーガ°ネーヤネ ンダー ケッシテネ アー
んー それは まあ しかたがないね だから 決してね あー

ドコマデモ カドマツオ アノ オ サンビロン
どこまでも 門松を あの お ×××××

サンビシテル ワケジャ ネアーダケド (B アー アー)
賛美している わけでは ないけれど (B あー あー)

タダ トキノ ナカ°レオ ハナシテル ワケダナ ウン。
ただ 時の 流れを 話している わけだね うん。

43 B : ソレニヨ ヘー ダンダント マツモ スクナク ナッチャッタシ。
それにね もう だんだんと 松も 少なく なっちゃったし。

44 A : ソーダネ (B ウーン) ンー ジッサイワ (B ココントコー)
そうだね (B うーん) んー 実際は (B こことこー)

マー ヤマモネ ダンダンニ スクナクナッテ
まあ 山もね だんだんに 少なくなって

神奈川 20-3

45B : センコ^ノ ダイバツサイデ スクナクナッタウエニ
戦後の 大伐採で 少なくなったうえに

ノコッタ ヤツァー マツクイデ ヤラレチマウシヨ (A ウン)
残った ものは 松食い虫に やられてしまうしね (A うん)

ダカラ ソコラ アタリデヨ ソノ イマ イッテラレル
だから そこら あたりでね その 今 言っていられっやる

ソノ カドマツカ^ノ ナクナッタ マー ナケ^ノキロンワヨ {笑}
その 門松が なくなった まあ 嘆き論はね {笑}

マー マー ミンナカ^ノ ソーユーフーニ カンケ^ノーエテインカ
まあ まあ みんなが そういうふうに 考えているか

ドーカ。 (A マー) アー
どうか。 (A まあ) あー

46A : オーキー トキノ ナカ^ノレワ アノ クイトメル コトワ
大きい 時の 流れは あの 食い止める ことは

デキネーカラナー。 ンー
できないからね。 んー

47B : デキネーヨ オー マー ソコデ エダマツデモ ショーカ^ノネーカラ
できないよ うん まあ そこで 枝松でも しかたがないから

セツテ (B ンーンー) ヤッテンダケンドヨ オレン
[と] いて (B んーんー) やっているんだけどね 私の

神奈川 20-4

トコアタリ イマジヤ アレダヨ ヨセマツダヨ ウン ヨセマツナラ
ところあたり 今では あれだよ 寄せ松だよ うん 寄せ松なら

ホラ コマッケー エダダケ モツテクリヤー イーカラネ。
ほら 細かい 枝だけ 持ってくれば いいからね。

48A : ンー ソーダネ。
んー そうだね。

49B : ソレモ ウント チツチャク シチャッテヨ。
それも たいへん 小さく してしまっね。

50A : ソー ソー
そう そう

51B : ダンダント ヘー イナカダ ココラダッテ
だんだんと もう 田舎の こころだっテ

ヤッテネーノカ° オーエーダカラ カドマツワ。
やってないのが 多いんだから 門松は。

マー ショーカ°ナカンペーヨ ソレワヨ ナー。
まあ しかたがないだろうよ それはね。 なあ。

(A ンー) アー

(A んー) あー

20↑

—— 中 略 ——

神奈川 21-1

52C : アンタナンカ ドー? (D ナニガ)
あなたなど どう (D なにが)

↑21

アノー ガンジツニワ ガッコー イッタ?
あのー 元日には 学校 [へ] 行った?

53D : イッターサヨ。
行きましたよ。

54C : ネエー (D オー) コノゴロワ ネンシカイナンカ ナイケドモ
ねえー (D うん) この頃は 年始会など ないけれども

ワタシタチノ コドモノ コロワ (D ジョートーダヨ)
私たちの 子供の 頃は (D 上等だよ)

イッテ ベツニ タイシタ コトワ ナイケンド
行って 別に たいした ことは ないけれど

ウタオ ウタッテネ。
歌を 歌ってね。

55B : ン。
うん。

56D : *** Aサン ジャ ネンカンオ ツージテノ アンタ アノ ***
*** Aさん では 年間を 通じての あなた あの ***

57C : ソレカ° ナーンネンコ°ロカラ ガンジツニ ユカナイヨーニナツタカ
それが 何年頃から 元日に 行かなくなったか

神奈川 21-2

ワタシモ ソレ チット
私も それ ちょっと

58B : ソレ センゴ°デショー。
それ [は] 戦後でしょう。

59C : センゴ°カネー。
戦後かねえ。

60B : オー オレナンカノ ジダイニワ ***
うん 私なんかの 時代には ***

61C : ハカマ ハイテ ソレデ ハレキ°オ キテ イク°ノカ°
袴 [を] はいて それで 晴着を 着て 行くのが

ウレシクッテネ コドモノ トキ
うれしくてね 子供の 時

62B : テーゲー オーユキデヨ (C ンー) オー。
だいたい 大雪でね (C んー) うん。

63C : アタシナンカ ソノ トキダケ マー ハカマ ハクノカ°
私なんか その 時だけ まあ 袴 [を] はくのが

ウレシクテ。
うれしくて。

64B : ヤー オランチノホーワ アレダヨ ドーロッパタ
いやあ 私の家のほうは あれだよ 道路端 [で]

神奈川 21-3

ヤブバッカリダカラヨ。

藪ばかりだからね。

65C : ンー。

うん。

66B : ミンナ ユキデー ヒツカブサツチャツテ

みんな 雪で かぶさってしまって

トンネル ミテニ ナツチャツテヨ。

トンネル みたいに なってしまってね。

67C : ソンデネ ソノ トキヨ (B オー) アノ タダ

それでね その 時ね (B うん) あの ただ

ガッコウエ イツテ ウタオ アノ ウターダケデモ

学校へ 行って 歌を あの 歌うだけでも

センセー オメデトー ト イツテ イク[°]ノカ[°]

「先生 おめでと^う」 と 言って 行くのが

マタ コドモトシテモ センセートシテモ ヨカッタダネ。

また 子供としても 先生としても よかったんだね。

68B : ン。

うん。

69C : ソノ ウタワ アタシ チョット ユンベ オボエタノ

その 歌は 私 ちよつと 昨晚 思い出したの

神奈川 21-4

(B アー ソーッケ) タヤネー ウタダケド
(B ああ そうか) たわいない 歌だけれども

コドモココロネー (B ウン)
子供心のね (B うん)

イチバンダケ オボエテキタノ。
1 番だけ 思い出してきたの。

70B : ヤッテ クレンセーヨ ソレオ ヒトツヨ。
やって [=歌って] くださいよ それを 一つね。

71C : アノ 「トーシノ ハジメノ メデタサオ マーツターケー ターテテ
あの 「年の 初めの めでたさを 松竹 立てて

カドコトニ イーオー キョーコソ タノシーケレー」 {笑}
門ごとに 祝う 今日こそ 楽しけれ」 {笑}

ニバンワ ワスレテ シマッタ。
2 番は 忘れて しまった。

72B : ソイツワ オラモ ウタッターヨ。
それは 私も 歌ったよ。

73C : ネー。
ねえ。

74B : オー。
うん。

75C : タダ ソノ ウタオ ウタッテ
ただ その 歌を 歌って

センセーニ アイサツニ イクダケンド
先生に あいさつに 行くんだけれども

マタ ソレカ° タノシミナノネー。
また それが 楽しみなのね。

ハレキ°オ キテイク°ノカ°。
晴着を 着て行くのが。

21↑22

76B : ハレキ°モダケンドヨ。
晴着もだけれどもね。

77A : ソレデネ マー カドマツノ イマ ハナシカ° デタダケドヨー
それでね まあ 門松の 今 話が 出たんだけれどもね

カドマツカ° タッテル アイダワネ。
門松が 立っている 間はね。

78B : ン。
うん。

79A : アノ マー ネンカ°ノ レー オネンシノ レーワ
あの まあ 年賀の 礼 お年始の 礼は

イッタリ キタリ スルケレドネ ドンナニ アノ
行ったり 来たり するけれどもね どんなに あの

神奈川 22-2

マー アー カッテ マー ムズカシー シャッキントリデモネ
まあ あー かって まあ 難しい 借金取りでもね

マツノウチワ (C ネー) コラレネー コラレナイ ッテ ユー
松の内は (C ねえ) 来られない 来られない と いう

コトニ (C ソーデスネ) ナッテタダナー ウン
ことに (C そうですね) なっていたんだねえ うん

80C : ソンデネ ガンジツニワ ウチアタリデワ ゼッタイニ オカネオ
それでね 元日には うちあたりでは 絶対に お金を

(A ンー) アツカッチャー イケ°ナイ ト セツテネ。 ソシテ
(A んー) 扱っては いけない と 言ってね。 そして

81A : ソー。 マツノウチワ ダサネーダナ。
そう。 松の内は 出さないんだね。

82C : ダサネーデ アサ ハヤク オキテ
出さないで 朝 早く 起きて

ウチノ オバーサンカ° ハッコメ ハッコメ ッテ
うちの おばあさんが 「掃き込め 掃き込め」 って

ナニオ ハッコメ ッテ アナタ
何を 掃き込め と あなた

フクカ°ネ ソトエ デチャー イケナイ ナンテ イッテサー
福がね 外へ 出ては いけない なんて 言ってねえ

神奈川 22-3

ヤッパ イロイロ イマデ カンカ°エルト
やはり いろいろ 今で 考えると

ウソノヨーナ ホ マー ホントカナー ト オモーナ マー
嘘のような × まー ほんとうかなあ と 思うね あー

オカネオ アノ ガンジツカラ ツカッチャー イケ°ネー
お金を あの 元日から 使っては いけない

ト ユー コトオ コドモニ キカセラレタンダネ
と いう ことを 子供に 聞かせられたんだね

イマデ カンカ°エルト
今で 考えると

83B : ソーカモ シンネーナ。
そうかも 知れないね。

84C : ハイ ソレオ イマ イマネ (B ウン) ガンジツダローカ°
はい それを 今 今ね (B うん) 元日だろうが

85B : ヤー ジッサイ アノー Aサンカ° イッテラレタヨーニヨ
やあ 実際 あの Aさんが おっしゃっていたようにね

オレンチナンカ オヤジカ° ホラ ショーペー ヤッテタカラ
私の家など おやじが ほら 商売 やっていたから

クレニワ カケトリカ° クラーネヨー。 ザイモクヤダノヨー
暮れには 集金が 来るわね。 材木屋だのね

86A : オー ソーヨナ。 ウー
うん そうよね。 うー

87B : アノ カナモノヤダノ ザイモクヤラカ°ヨ
あの 金物屋だの 材木屋などがね

ダカラ クリヤー ヤダッタサ。 {笑} ンー
だから 来れば いやだったね。 {笑} んー

*** ハヤク ショーカ°ツカ° クリヤー イーナ
*** 早く 正月が 来れば いいな

ソ モーヨーナ コドモコ°コロニ オモッテタヨネ。
そう 思うような [ことを] 子供心に 思っていたよね。

88C : ネー ムカシワ オショーカ°ツジャ ナキヤー
ねえ 昔は お正月で なければ

シロイ メシ タベランナイ モノ ネー。
白い ご飯 食べられないもの ねえ。

22↑23

89A : アノネ ミ ミッカノ アイダ マツカ° タッテイル アイダワネ
あのね × 3日の 間 松が 立っている 間はね

(B ウン) イチネンノ ウチノネ (B ウン) イチバンノ

(B うん) 1年の うちのね (B うん) 一番の

マー ソノ ハジマリデモ アリ ソシテ ソノ ドンナコトデモネ
まあ その 始まりでも あり そして その どんなことでもね

神奈川 23-2

ソノカンニワ ソノ アイダニワダネ ワルイコトワ キカセナイ
その間には その 間にはね 悪いことは 聞かせない

ナルベク イーコトダケオ モチヨル ト ユーノワ ガ アノ
なるべく いいことだけを 持ち寄る と いうの× が あの

サンカ°ニチノ アイダノ マー シキタリダナ。 ウン。
三が日の 間の まあ しきたりだね。 うん。

90B : ン。

うん。

91C : ソンデ オショーカー°ツノ オゴチソーモ (B ウン)

それで お正月の ごちそうも (B うん)

イマワ オセチリョーリトカ ナニカカ° アツテネ (B ウン)

今は お節料理とか 何かが あってね (B うん)

アノ オンナノ カタモ タイヘンニ アノ マー イロイロ
あの 女の 方も たいへんに あの まあ いろいろ

リョーリノ ホーメンデワ カズケ [3] テイルケレドモ
料理の 方面では 楽になっているけれども

ムカシワ ミンナ テズクリデ ネ (A アー)

昔は みんな 手作りで ね (A あー)

オソバオ ウツタリ ソシテ ネンジン ゴボーオ ニタリ

おそばを 打ったり そして ニンジン ゴボウを 煮たり

神奈川 23-3

ソシテ ダイコンナマスオ コシラエタリネ (A ン一)
そして ダイコンなますを 作ったりね (A ン一)

ホントノ テズクリノ ゴチソーデシタネ。
ほんとうの 手作りの ごちそうでしたね。

92B : ソーヨナ。
そうよね。

93C : イマワ ホントニ ソレカラ ミレバ ナンダッテネ。
今は ほんとうに それから みると なんだってね。

94B : ヤー ソバナンカモナ ナカ°イモ サンザ スラサレテヨ。
やあ そばなんかもね 長芋 [を] さんざん すらされてね。

95C : ソーデスヨ。
そうですよ。

96B : チカ°ヤミシロ [4] ニ クルンデヨ。
茅むしろに くるんでね。

97C : ソーダネ。
そうだね。

98B : アシデ フマサレンダーヨ。
足で 踏まされるんだよ。

99C : ソーダナ {笑}
そうだね {笑}

神奈川 23-4

100B : アレカ° (C ソレデ ムカシ ウン) クレノ シコ°トダッタナ。
あれが (C それで 昔 うん) 暮れの 仕事だったね。

101C : ソーダナ ソデ オーミソカニワネ ホラ ムカシワ イマワ コエオ
そうだね それで 大晦日にはね ほら 昔は 今は 肥を

マー アノ ジンプンニョーデスネ アノ キカラ ウルンダケド
まあ あの 人糞尿ですね あの 基から 売るんだけれど

ムカシワ カウンダモノネ。
昔は 買うんだものね。

102B : シン シン。
うん うん。

103C : ソンデ オーミソカニ オソバ ウツテ
それで 大晦日に おそば [を] 打って

コヤシサンエ モッテッタリネ
こやし屋さんに 持って行ったりね

イロイロト オーミソカニワ イソカ°シカッタナ {笑}
いろいろと 大晦日には 忙しかったな {笑}

104B : マタ ゼニモ デタ (C ゼニモ デタネー)
また 銭も 出た (C 銭も 出たねえ)

ゼニモ デンダヨナ イチネンノ ケジメダカラヨ。
銭も 出るんだよな 1年の けじめだからね。

105C : ソーダナ。
そうだな。

106B : マー ナン セッタッテヨ ショーカ°ツノ シタクワ
まあ なんと いったってね 正月の したくは

オンナシカ° テーヘンサ。
女性が たいへんだ。

107C : ホント イマデ カンカ°エント
ほんとう [に] 今で 考えると

ナンダッテ テズクリダモン (B アー)
なんでも 手作りだもの (B ああ)

23↑24

ゴチソーナンカ ナイヨ ホントニ カシラズキナンテ
ごちそうなんか ないよ ほんとうに 尾頭つき [の魚] なんか

マーネー コ アノー ヒトカ° キテ オネンシデモ コラレリヤ
まあねえ × あのう 人が 来て お年始でも 来られれば

オサカナデモ ニルク°ライデサ (B アー アー) {間}
お魚でも 煮るくらいでね (B あー あー) {間}

ツズケテイーン (B イーヨ ツズケチャッテ)
続けていいの (B いいよ 続けてしまッテ)

ジャ アノ ソレカラ ンジャ アノ ナナクサニ ナルネ。
では あの それから では あの 七草に なるね。

神奈川 24-2

108B : シ。

うん。

109C : アノ ナナクサツテネー ヤッパシ ムカシワ
あの 七草ってね やはり 昔は

アノ イツカノ ヒニ アノ ナナクサカ°イオ
あの 5日の 日に あの 七草粥を

ナ ナナクサノ トキニ トルンダケレドモ
× 七草の 時に 取るんだけれども

ソノ クサワ ヤッパリネ イツカノ ヒニ トルン ネ
その 草は やはりね 5日の 日に 取るの ね

ムイカニワ ウチノ オバーサンナンカ ヨクネ トッチャ イケナイ
6日には うちの おばあさんなんか よくね 採っては いけない

セツテネ ソシテ ア ヨク ワタシ ゴカンニチ [5] デ
[と] いったね そして あ よく 私 五かん日で

オキヤクサンカ° アルデショ タイテー (B ウン)
お客さんが あるでしょう たいてい (B うん)

スルト ワスレテ トリソコナート トナリノ オバサンガ
すると 忘れて 取り損なうと 隣の おばさんが

ヤー オマッチワヨ セリカ° ネーカ ナズナカ° ネーカ
「やあ お宅はね セリが ないか ナズナが ないか

神奈川 24-3

チョット ヨケー モツテキタカラ オマツチエ オイテイクベー
少し 余分 [に] 持ってきたから お宅へ 置いていこう」

ヤナンカ イツテネ (B ンー ンー)
とか 言ッてね (B うん うん)

ヨク モラツタリ (B ソーダネ) シタモンデスヨ。
よく もらったり (B そうだね) したものですよ。

(B ウン ウン) ソンデ ナナクサノ アサワネ
(B うん うん) それで 七草の 朝はね

アサ オキテ キバチオ シタニシテ
朝 起きて 木鉢を 下にして

ソノ ウエニ マナイタオ コー ウエ ノセテ
その 上に まな板を こう 上 [に] 載せて

ソシテ ミキ^oデ エー マ ホーチョー モツテ ヒダリデ
そして 右 [手] で えー ま 包丁 [を] 持って 左 [手] で

アノ オタマジャー シャモジカ シャモジオ モツテ
あの お玉 [杓子] では [なく] しゃもじか しゃもじを 持って

ナナクサ ナズナ トートノ トリト ワタラヌ サキデ アワセテ
「七草 ナズナ 唐土の 鳥と 渡らぬ 先で あわせて

バタバタ アワセテ バタバタ トネ サンカイ ヤツタノ
ばたばた あわせて ばたばた」 とね 3回 やつたの

神奈川 24-4

ソnde ソレオ (B ウン) アノ オカユ オカユニ
それで それを (B うん) あの お粥 お粥に

アノ イレテ タベルト マー イロイロト
あの 入れて 食べると まあ いろいろと

コトシノ サイナンカ° ノカ°レルトカ (B アー)
今年の 災難が 逃れるとか (B あー)

マー イロイロト ソーユー ムカシカラノ イー イーツタエデ
まあ いろいろと そういう 昔からの ×× 言い伝えで

ワタシワ ドーユー ワケデ トートノ トリト ニホンノ トリト
私は どういう わけで 「唐土の 鳥と 日本の 鳥と

ワタラヌ サキデ アワセテ バタバタ ト ユー コトワ
渡らぬ 先で あわせて ばたばた」と いう ことは

ワタシモ ソノ セツメーワ デキナインデスケレドモ
私も その 説明は できないのですけれども

タダ アノ ムカシカタラノ オバーサンジカ° ヤッテコラレタ
ただ あの 昔か×らの おばあさん達が やってこられた

コトダケ ソコオ ヤッテ キタンデス
ことだけ そこを やって きたのです

ホントニ ドーユー ワケダ ト ユー コトワ
ほんとに どういう 意味だ と いう ことは

ワタシ ワカンナイデスケンド。

私 [には] わからないですが。

24↑25

110B : ヤー ソコン トコ アタリワヨ Aサンニヨ (C ウン Aさん)
やあ そのの ところ あたりはね Aさんにね (C うん Aさん)

ヒトツ ヤッテ モラウベージャンカヨ。

一つ やって もらおうではないかね。

111C : ドーダネ (B アノー) トートノ トリト トートワ
どうだね (B あのー) 唐土の 鳥と 唐土は

(B ナナクサノヨ) トーゼンカネ。

(B 七草のね) 当然かね。

112A : イヤ アノ ダラ ニホンノ トリト (C ンー)
いや あの だから 日本の 鳥と (C んー)

トードノ トリ ッテユーノワネ (C ウン)

唐土の 鳥 というのはね (C うん)

トー ト ユーノワネ カラダネ (C ア カラ) カラダネ

唐 と というのはね 唐だね (C あ 唐) 唐だね

ソレ カラダカラ カラ ッテ ユーノワ

それ 唐だから 唐 と というのは

イ イマノ オ ア チューゴクノ コトダ。

× 今の × × 中国の ことだ。

神奈川 25-2

113C : アー ソーカ。
ああ そうか。

114A : ンー ダカラ ソノ トードノ トリト カ° ワタラナイ ウチニ
んー だから その 唐土の 鳥× が 渡らない うちに

115C : ワタラネ ウチニ (A ウン) アワセテ バタバタト
渡らない うちに (A うん) 合わせて ばたばたと

(A ウン ソ マー) ユーダケノ コトデ
(A うん そう まあ) いうだけの ことで

116A : ソ ソノ イミワ ヨク ワカラナイケンドネ。 ウン。
× その 意味は よく わからないけれどもね。 うん。

117C : ワカンナイダケドモ タダ ムカシカラネ。
わからないけれども ただ 昔からね。

118A : ムカシカラネ ソーユーフーニ ユツタナ。
昔からね そういうふうに 言っていたね。

119C : アノ ウチニ ツタワッテ マー ワタシナンカモ エーカケ°ンノ
あの 家に 伝わって まあ 私なども いいかげんの

ウチワ ソレ ヤッテキマシタケンドモ
うちは それ [を] やってきましたけれども

イマワネ モー ワカイ ヒトニ {笑} マカシテアルカラ。
今はね もう 若い 人に {笑} 任せてあるから。

神奈川 25-3

120B : イマワ ヤリヤーシメー。 {笑}
今は やりはしないだろう。 {笑}

121C : ネー ソノ ジブンワネ (B アー) アサオキカ° ドコデモ
ねえ その 頃はね (B あー) 朝起きが どこでも

へー アソコノ ウチジャ バタバタ タタイテランゾー
もう あそこの 家では ばたばた たたいていらっしやるぞ

(B オー オー) ナンテ ワタシナンカ ネボーナンカ シタ
(B うん うん) なんて 私など 寝坊など した [時]

ウチデ ウチノ シュジンカ°
うちで 家の 主人が

ホレ ミロ トナリジャ オキテライラー [6]
「ほら 見る 隣では 起きていらっしやるよ。」

バタバタ ヤッテライラー。 (B ウーン)
ばたばた やってられるよ。」 (B うーん)

ソーケー セッテ イセーデ オキテ エ
「そうか」 [と] 言って 急いで 起きて ×

コー タタイテ コドモモ イッショニ ナッテ
こう たたいて 子供も 一緒に なって

マタ タタイテ クレタリシタ コトモ アリマスクドモ
また たたいて くれたりした ことも ありますけれども

神奈川 25-4/26-1

ソノ リューカ° チョット ワタシニワ ワカンナイノ ネ。
その 理由が ちょっと 私には 分からないの ね。

122B : オレナンカモヨ (C ネ) トリー ヤラサレタケンド
私などもね (C ね) 採りに やらされたけれども

ナナクサノ シルイオヨ ハルノ ナナクサノ シルイワ
七草の 種類をね 春の 七草の 種類は

Aサン イツカ イッテラレタナー。
Aさん いつか おっしゃっていたね。

123A : ン。
うん。

124B : アレ チョット イッテミテクレンヨ。
あれ [を] ちょっと 言うてみてくださいよ。

125C : アタシワ アレオ ナンデモ ナナイロニシテ ナンデモ
私は あれを なんでも 7色にして なんでも

ウチニ アル モノオ
家に ある ものを

126A : ナナイロワネ (C エ ソシテ) マー アノ アレワ
7色はね (C え そして) まあ あの あれは

25↑26

スズナ スズシロ ッテ ユーダナ
スズナ スズシロ と いうんだな

神奈川 26-2

ソレカラ セリニ ナズナ (C ン) ソレカラ ゴギョーニ
それから セリに ナズナ (C ン) それから ゴギョウに

エー ゴギョーニ ハコベ ソレカラ ホトケノザ ッテ
えー ゴギョウに ハコベ それから ホトケノザ と

コー ユーダヨ (B ウン)
こう いうんだよ (B うん)

デ スズナ ッテ ユーノワネ アノ コマツナ ナンダヨ。
で スズナ と いうのはね あの 小松菜 なんだよ。

127C : アタシナンカ ソーユーコト シラネーカラ コマツナデ。
私なんか そういうこと [は] 知らないから 小松菜で。

128A : エー ソッデ スズシロ ッテ ユーノガ デ ダイコナンダヨ。
えー それで スズシロ と いうのが × ダイコンなんだよ。

(B ダイコン) エー
(B だいこん) えー

129C : ウチニ アルモノ ダイコンノ ハトカネ
家に あるもの [は] ダイコンの 葉とかね

(A ウン ソー ソー ウン) ソシテ オモテカラ
(A うん そう そう うん) そして 外から

トッテクル モノワ アノ ナズナトカ アー セリトカネ
採ってくる ものは あの ナズナとか ああ セリとかね

神奈川 26-3

(A ウン) ソーユーノワ ヨク トリソコナンデネ。

(A うん) そういうのは よく 採り損なうのですね。

130A : ソレカラ アノ ハコベ ッテ イッテネ (C エー)
それから あの ハコベ と 行ってね (C えー)

(B ンー ンー) アノ ホラ コトリナンカニ クレル

(B んー んー) あの ほら 小鳥などに やる

(B アー) (C ソーダネ) アノネ ア アレノ アノ

(B あー) (C そうだね) あのね あ あれの あの

ダイブ アレオナ タベルト

だいぶ あれをね 食べると

131C : アレワネ アノ オッパイカ° デル トカナンカネ (A ウン)
あれはね あの 乳が 出る とかなどね (A うん)

イッテラーナー。 (A ウン)

いっているね。 (A うん)

132B : ジャ ソコントコ アタリカラ ジャ イロンナ モノオ フクメテ
では そこのとこ あたりから では いろいろな ものを 含めて

(A ンー) ショーカ°ツノ ゴチソー クッタ アトノ

(A んー) 正月の ご馳走 [を] 食った 後の

ハラコ°ナシニ (A {笑}) カイオ ツクッテ クッタモンカネ。

腹ごなしに (A {笑}) 粥を 作って 食べたものかね。

神奈川 26-4/27-1

133A : ソー ソー カイオネ。 (B オー)
そう そう 粥をね。 (B うん)

134C : ソンデ ムカシ
それで 昔

135A : マーネ アレワ アノ ヤッパリ ヒトツノ セイカツノ チエダナ。
まあね あれは あの やっぱり 一つの 生活の 知恵だな。

26↑

—— 中 略 ——

136B : ムカシワ アノー セートバレー [7] ニ ヨク
昔は あの どんどやきに よく

↑27

ナカジク アタリジャ ヤテーカ° デタンダケドヨ。
中宿 あたりでは 屋台が 出ただけけどね。

137A : ウン ウン ウチノ ホーデモ アノ セートバレーオネ
うん うん 私の ほうでも あの どんど焼きをね

(B アー) アスコノ ライコージ [8] ノ ヒロバデ

(B あー) あそこの 来光寺の 広場で

ジューヨッカ ヤルヨ。 (B アー)

14日 [に] やるよ。 (B あー)

138C : マー ムカシワネ (A ンー) セートバレーカ° セーダイデ
まあ 昔はね (A んー) どんどやきが 盛大で

神奈川 27-2

ソノ トキニ ナンデモ ダイジナ モンデモ ナンデモ
その 時に 何でも 大事な ものでも 何でも

ソコデ モセバ (B ナー) アノ マーネ マー ナントカ
そこで 燃やせば (B なあ) あの まあね まあ 何とか

139A : セ セートバレーノネ (C カミ カミ カミサマノネー)
× どんど焼きのね (C ×× ×× 神様のねえ)

ダンコ^oオ ヤイテ クート ソノ トシニ カゼオ ヒカネー
だんごを 焼いて 食べると その 年に 風邪を ひかない

(C カゼ ヒカネー トカネー)
(C 風邪 [を] ひかない とかねえ)

トカ ユーヨーナ コトオ イッテネ
とか いろいろな ことを 言ってね

140C : ナンデモ ダカラ ソノ トキニ ヤクノオ トットクノ
何でも だから その 時に 焼くのを とっておくの

イロイロ モッタナイ モノデモネ。
いろいろ もったいない ものでもね。

141B : ソーヨナ ダカラ
そうよね だから

142C : カキゾメオ モシタリネ。
書き初めを 燃やしたりね。

神奈川 27-3

143B : オー ココンチ アタリデモ アノー ココンチノ センセンダイノ
うん この家 あたりでも あのう この家の 先々代の

シューカ^ク [9] サンノヨ (A ンー) ウメノ ジク
秀岳さんのね (A んー) 梅の [掛] 軸

ナンカモ トコノマニ カザッテ アッタノヨ。
なんかも 床の間に 飾って あったのね。

ソレオ オレー ヘータイニ イッテイル アイダニ
それを 私 [が] 兵隊に 行っている 間に

オーバーサン アレダ カゼデ ヒッタバケチャッタカラッテ
おばあさん [が] あれだ 風で 破けてしまったからと

セーノカミサマニ モッテイッテヨ (A ウン)
道祖神に 持って行ってね (A うん)

セートバレーデ モッシュヤッタ セーダベ。 (A ホー)
どんど焼きで 燃やしてしまった [と] いうだろう。 (A ほう)

イヤ オラー ケーッテキテ オコッタケンドナ
いや 私は 帰ってきて 怒ったけれどね

へー アトノ マツリダーナ。 (A オー マ)
もう 後の まつりだね。 (A おー ま)

ナーンデモ イタンダモノワヨ モッテッチマウダモンナ。
何でも 傷んだものはね 持って行ってしまいうんだものな。

神奈川 27-4/28-1

144C : デモ イーダヨ ソレ キヨメテクレラレンカラ。
でも いいんだよ それ 清めてくれるから。

145A : マー アレワ ショーカ°ツノ イロイロナ ユワイノ モノオダネ
まあ あれは 正月の いろいろな お祝いの ものをだね

(B ウン) ケカ°レタ トコロエ ステタリ オイタリ シテワ

(B うん) 汚れた ところへ 捨てたり 置いたり しては

モッタイナイカラ ソシテ アノ ゼンブ ヒニシテ ハイニシテダネ
もったいないから そして あの 全部 火にして 灰にしてね

(B ウン ウン) ソシテ キヨメル ト ユーノカ° ダイタイ

(B うん うん) そして 清める と いうのが だいたい

サイトバライノ シュイダナー。 ンー
どんど焼きの 趣意だね。 んー

27↑28

146B : イマーノワネ イチジ チョット サミシク ナツチャッタケド
今のはね 一時 ちょっと 寂しく なってしまったけれど

ウチノ ホーデモ イマノカ° デタ アノ コドモラカ°ヨ
私の ほうでも 今のが 出た あの 子供たちがね

タノシミニ (A ウン) マコ°オ ツレテケンカラヨ。

楽しみに (A うん) 孫を 連れてくるからね。

147C : ア オダンコ°オ ツクンノ?

あ おだんごを 作るの?

神奈川 28-2

148B : オー ツクツタリ ヤイタリ スンノオネ。
うん 作ったり 焼いたり するのよね。

149C : デモ ウチジャ タベナクツテモ コンダ マコ°カ° キテ
でも [私の] 家では 食べなくても 今度は 孫が 来て

クノニ イクト オダンコ°カ°アル オダンコ°カ°アル ト
「久野に 行くと おだんごがある おだんごがある」 と

セツテ ショーカ°ネーナ ヒラツカノカ° クルカラ
いって しかたがないね。 「平塚のが 来るから

ヒラツカノ タメニ ダンコ° イマヤ ツクルヨーダ
平塚の ために だんご [を] 今や 作るようだ」

(B・C {笑}) ナンテ ミンナシテ ワラウヨーナ ワケデ
(B・C {笑}) など みんなで 笑うような わけで

マタ コドモカ° コーシテ タベテクレルノモ イー
また 子供が こうして 食べてくれるのも いい

ウレシー コトダナ。
うれしい ことだね。

150B : アー ソーダナー。 (C アー)
ああ そうだなあ。 (C あー)

イマ アノー オバサンチ アタリノ セートバレーン トキノ
今 あのー おばさんの家 あたりの どんど焼きの 時の

神奈川 28-3

ヤテーワヨ (C ウン) ドー ナッテンノ ヒツパラクカイ。
屋台はね (C うん) どう なってるの 引っ張るのかい。

151C : ヒツパラナイヨー。
引っ張らないよ。

152B : ア ソーケー ジャ カザッテオクダケデ
あ そうか では 飾っておくだけで

153C : アノ セートバレーン トキダッテ ヤタイワ デルヨ。
あの どんど焼きの 時だって 屋台は 出るよ。

154B : ダカラ ヤタイオ ヒツパンノカヨ。
だから 屋台を 引っ張るのかね。

155C : ヤテーワ ヒツパルヨ (B アー ソーカイ)
屋台は 引っ張るよ (B あー そうかい)

ソノ トキニヨッテ (B ウン) マー マイトシダッテ ヒツパルヨ。
その 時によって (B うん) まあ 毎年だって 引っ張るよ。

156B : オー。
うん。

157C : ソイデ トメバノ ホーエ イッテ イッショニ ナッテ アノ
それで 留場の ほうへ 行って 一緒に なって あの

158B : ハヤシエ イッテ
林へ 行って

神奈川 28-4

159C : オー デ シモジクノ ホーカラモ キテ
うん で 下宿の ほうからも 来て

160B : アー。
ああ。

161C : ムカシワ ア ヤテーザケデ アノー ネー マンザイダノ
昔は あ 屋台酒で あのー ねえ 漫才だの

イロンナモノオ ヤッタケドモ
いろいろなものを やったけれども

162B : ウン。
うん。

163C : イマ ソーユー コトワ タダ ナクテ
今 [は] そういう ことは ただ なくて

コドモワ タダ イッテ オカシダノ モラッテクンノカ°
子供は ただ 行って お菓子などを もらってくるのが

タノシミダケンド。
楽しみだけれど。

164B : ウーン。
うーん。

165C : マエニワ イロイロ ネンバンサン ネンパニヨッテ ソコニ
前には いろいろ 年番さん 年番によって そこに

神奈川 28-5/29-1

イロイロナ マー マンゼーダノ イロイロ マー
いろいろな まあ 漫才だの いろいろ まあ

(A {咳} マーネ) リョーリカ° アツタンデスヨ。
(A {咳} まあね) 料理が あったのですよ。

166A : クノダッテヨ ワタシタチガ ウマレタ ジブンニワ
久野だってね 私達が 生まれた 頃には

マダ ヨンヒャッコク°レーノネー フントノ
まだ 400戸くらいのね ほんとうの

ジュンノーサンソングケレドヨ イマ モー ホトンド ナンダ
純農山村だけれどもね 今 もう ほとんど なんだ

28↑29

ウチノホー コトニ ミヤモト アタリワ トシカタ トシカ アノ
私のほう ことに 宮本 あたりは 都市×× 都市化 あの

トカイト オンナジニ ナッチャッテラーナ (B アー ネ)
都会と 同じに なってしまっているね (B ああ ね)

ダカラ ムカシノ シキタリナンテ ユー モノカ°
だから 昔の しきたりなんて いう ものが

ダンダンニ アノ (C キエテッチマウノ)
だんだんに あの (C 消えていってしまうの)

ウスレテシマッテダネ ナクナッチマウンダ
薄れてしまっただね なくなってしまうんだ

神奈川 29-2

ケレドモ ワタシワネ アノ ケッシテ ムカシノコトカ° イー ッテ
けれども 私はね あの 決して 昔のことが いい って

ユージャ ナイケレドモ ムカシノ ヤッタ コトノ ナカニワ
言うのでは ないけども 昔の やった ことの 中には

ナニカ ヒ リ リッパナ ヤッパリ ナカ°イ アイダノ
何か × × 立派な やはり 長い 間の

セーカツノ オー チエカラ ワリダシタ ナニカカ° アルンダネ
生活の おー 知恵から 割り出した 何かが あるんだね

イー コトカ°ネ。
いい ことがね。

167C : ソーダナ。
そうだね。

168A : ダカラネ アノ ムカシノ コトダダカラ ッテ ユッテ ナンデモ
だからね あの 昔の こと×だから と いった 何でも

モー フルイ ト イッテ ステテシマウコトワ
もう 古い と いった 捨ててしまうことは

オシート オモーダヨ ウン。
惜しいと 思うんだよ うん。

169B : シン マー サイキンワヨ アノ タトエバ ナカジク アタリデモ
うん まあ 最近はね あの たとえば 中宿 あたりでも

神奈川 29-3

ニサンネンマエニ。

2、3年前に。

170A : シン。

うん。

171B : ヨコタノ キチカラネ アツギカ

横田の 基地からね 厚木か

172A : シン。

うん。

173B : アノ ムコーノ キャンプカラ (A ウン) ミンナ キテサ

あの むこうの キャンプから (A うん) みんな 来てね

174A : シン。

うん。

175B : イッショニ ヤタイオ ヒッパッタリネ アノー

一緒に 屋台を 引っ張ったりね あのー

こっちノ モノオ タベサシテヨ ヤッタ コトカ° アッタダヨ。

こちらの ものを 食べさせてね やった ことが あったんだよ。

176A : ダカラネ。

だからね。

177B : アレ ニサンネンマエダナ。 ダカラ

あれ 2、3年前だな。 だから

神奈川 29-4

178A : ジダイオネ (B ン一) チャント アノ ミツメテ
時代をね (B ン一) ちゃんと あの 見つめて

ソレニ アノ ジュンノー シテイク ッテ コトモ
それに あの 順応 していく という ことも

ヒツヨーダケレドモ (B ウン)
必要だけれども (B うん)

ムカシノネ フルイ アノ イー コトオ
昔のね 古い あの いい ことを

ドコマデモ ノコス ト ユー コトワネ (B ア一)
どこまでも 残す と いう ことはね (B あ一)

ヤッパリ タイセツダ ト オモーダナ。 ウン。
やっぱり 大切だ と 思うんだね。 うん。

179B : マー ワシナンカモサ (A ウン) エー デキル カキ°リワ
まあ 私などもね (A うん) ええ できる 限りは

ソーユー コトワネ (A ウン) ホゾンシテオキテーヨ。
そういう ことはね (A うん) 保存しておきたいよ。

(A ウン) イマノ タチバカラ イエバネ。

(A うん) 今の 立場から いえばね。

180A : マー イマノ (B ン一) オンコチシン ナンテ ユー コトバカ°
まあ 今の (B ン一) 温故知新 なんて いう ことばが

神奈川 29-5/30-1

マコトニ イー。 アノ ワタシワネ アノ イー コトバダ ト
実に いい。 あの 私はね あの いい ことばだ と

オモータナ。 ンー。
思うんだな。 んー。

29↑30

181B : ウン ダンダント ジダイカ° ミンナ ワカイ モンニ ナツテ
うん だんだんと 時代が みんな 若い ものに なって

アタラシク ナツテイク セツテモ (A ウン)
新しく なっていく [と] いても (A うん)

ソーユー メンダケワネ (A ウン) エー
そういう 面だけはね (A うん) ええ

カクブラクデヨ スコシズツデモ ノコツテイレバネ
各部落でね 少しずつでも 残っていればね

182A : ソーダネ。
そうだね。

183B : ウン コンド ウチノ ホーデモ マツリノ ミコシオ
うん 今度 私の ほうでも 祭りの 御輿を

ツクンダ ナンテ コドモミコシオヨ ヤッテンケンドナ
造るんだ なんて 子供御輿をね やっているけれどもね

184A : ダカラ イマデ ヒトシキリワ ホトンド ミラレ ミラレナカッタ
だから ××× しばらくの間は ほとんど ××× 見られなかった

神奈川 30-2

アノ オマツリナンカナ。

あの お祭りなどね。

185B : エー。

ああ。

186A : ダイブ ミナオサレテキテナ。 ンー

だいぶん 見なおされてきてね。 んー

187B : ソーダネー マー ヘーワニ ナッタ ショーコダベヨ。

そうだね まあ 平和に なった 証拠だろうね。

188A : エー。

ええ。

189B : ヨノナカ ヘーワニ ナレバ マツリカ° サカンダ セーカラヨ。

世の中 平和に なれば 祭りが 盛んだ [と]いうからね。

{笑}

{笑}

190C : フンデナ ムカシト イマト アンマリ タベモンカ°

それでね 昔と 今と あまり 食べ物が

ヘンカカ° ナクッテネー。

変化が なくてね。

191B : エー。 (A エー)

ええ。 (A えー)

神奈川 30-3

192C : ムカシワ マンカ°レー [10] ダ セーバ

昔は 農事休みだ [と] いえば

コドモカ° アー シレー メシオ タベテーナー ナンテ
子供が ああ 白い ご飯を 食べたいなあ なんて

オッケー モライタサナママニ イッショーケンメーデ
お小遣いを もらいたいために 一生懸命に

ハタライタコトモ アンケド コノコ°ロワ
働いたことも あるけれど この頃は

キョーワ ナニダナー オスシガ コシレーテアラ セッター
今日は なにだな お寿司が 作ってある [と] 言ったら

ウチノ ワカイモンガ キョーワ オトーサンノ アノ タンジョービダ
家の 若い者が 今日はお父さんの あの 誕生日だ

アー マー ソーカヨー ムカシワ オスシトカ アー ゴモクトカ
ああ まあ そうかね 昔は お寿司とか ああ 五目めしとか

ソーユーノワ ヒトヨ ヒトデモ コランネーキャー ナカナカネ
そういうのは ××× 人でも 来られなければ なかなかね

タバランナイケド (B アー) ムカシワ フント
食べられないけれど (B あー) 昔は ほんとう

イマト ソリャー オイシー モノカ°
今と [なれば] それは おいしい ものが

神奈川 30-4/31-1

タベ シジュー タベテンケド (B ウン)

×× いつも 食べているけれど (B うん)

ナントナク マンカ°ーライトカ オショーカ°ツラシクトカ
何となく 農事休みとか お正月らしくとか

ソーユー コー ナニコ°トモ ソーユー アマリ ヘンカカ° ナクテ
そういう こう 何事も そういう あまり 変化が なくて

30↑31

エー イマ スコシ アタシワ ムカシノカ° イーナー
ええ いま 少し 私は 昔の [ほう] が いいなあ

マンカ°レーワ マンカ°レーラシク (B ウーン ウーン)
農事休みは 農事休みらしく (B うーん うーん)

オショーカ°ツワ オショーカ°ツラシー モノカ° タベラレタネー。
お正月は お正月らしい ものが 食べられたね。

193B : シ ウーン。
うん うーん。

194C : ト オモー コトモ アルケンド (B ソー)
と 思う ことも あるけれど (B そう)

ソレワ アノ ムカシワ ム ムキ°メシダワナー。
それは あの 昔は × 麦飯だよねえ。

195B : シ。
うん。

神奈川 31-2

196C : ムキ°メシオ タベテ ソシテ マイニチ ロードーワ シテイタケンド
麦飯を 食べて そして 毎日 労働は していたけれど

イマノヨーニ シレー メシワ ヤタラ タベランナカッタダカラナー
今のように 白い 飯は やたら 食べられなかったからね

(B アー) ホントニ ソノ テンワ

(B ああ) ほんとうに その 点は

アノ プンメーノ ジセーデ イーヨーナ コトモ アルシ
あの 文明の 時勢で いいような ことも あるし

ソノ ヘンカノ ナイ ト ユー コトモ ココロボセーヨーナ コトモ
その 変化の ない という ことも 心細いような ことも

ワタシモ チョット カンカ°エル コトモ アルネ。
私も ちょっと 考える ことも あるね。

197B : マー ソノー ショクセーカツニモ ヘンカカ° ナクナッチャタ
まあ その 食生活にも 変化が なくなってしまった

ッテ コトワヨ イマ ヤサイダッテ ネンジューヨ。
って ことはね 今 野菜だって 年中ね。

198C : ネンジュー アルシナ。 (B ネ) ソー ダカラ。 ンー
年中 あるしね。 (B ね) そう だから。 んー

199B : ソノ ジキ ジキノ モノナンテモンワ アリヤー シネーダカラヨ。
その 時期 時期の ものなんてものは ありは しないんだからね。

神奈川 31-3

200C : ダカラ コドモダッテ コレワ イツ デキンノ ダッタッテ
だから 子供だって これは いつ できるの と言ったって

シジュー アンダペー ナンテ (B アー) ユワレチマウケンド。
いつも あるだろう なんて (B ああ) 言われてしまうけれど。

201B : ソンナヨーニネ (C ウン) オレナンカー コドモノ トキニア
そんなようにね (C うん) 私など 子供の 時には

ホントニ ショーカ°ツダ ボンダ セックク°レーシカヨ スシダ
ほんとうに 正月だ 盆だ 節句くらいしかね 寿司だ

202C : アー ソーヨ。
ああ そうよ。

203B : ネ エー マゼメシナンテ クッタ コト アリヤー シネーヤナ。
ね えー 混ぜご飯など 食べた こと ありは しないよ。

204C : アー アー ソーデスヨ。
あー あー そうですよ。

205B : ソレカ° イマ ユワレルヨーニ キョーワ ダレカレカ° クンカラ
それが 今 言われるように 今日 誰彼が 来るから

ジャー ヘー スシオ トル。
では もう 寿司を とる。

206C : ソー ソー。
そう そう。

神奈川 31-4

207B : ソンナヨーナ ジダイニ ナッチャッタカラ。
そんなような 時代に なってしまったから。

208C : ダカラ ムカシリユーノ コトカ°
だから 昔流の ことが

イマノ ジセーカ° イーヨーナ モノノ
今の 時勢が いいような ものの

ヤッパシ ソノ ヘンカカ° アッテコソ アー
やっぱり その 変化が あってこそ ああ

マンカ° レーニワ コドモノ コロ アノ ウチデ ハタラクト
農事休みには 子供の 頃 あの 家で 働くと

マンカ° レーニワ コズケーオ クレラレラー セッテ
農事休みには 小遣いを もらえるだろう [と] いて

イッショーケンメーデ ハタライタ コトモ アルネ。
一生懸命に 働いた ことも あるね。

209B : ンー ウン。
んー うん。

210C : ソレオ モライタサママニ ソレ イマ
それを もらいたいために それ [が] 今 [は]

マンカ° レーダローカ° ナンダローカ° コドモモ チヤントネ
農事休みだろうが 何だろうが 子供も ちゃんとね

神奈川 31-5/32-1

アテカ°ワレタ コズケーカ° モラエルシ シロイ ゴハンモ
あてがわれた 小遣いが もらえるし 白い ご飯も

タベ (B ー) アベコベダーネ。

食べ (B うん) あべこべだね。

31↑32

211B : イマワヨ (C エー) マコ°ラニ キータツテナ
今はね (C えー) 孫たちに 聞いたってね

ショーカ°ツワ ナニカ° タノシー スルト オトシダマダ。
正月は 何が 楽しい すると お年玉だ。

212C : ソー ソー イマナ ソレダ (B・C {笑})
そう そう 今のは それだ (B・C {笑})

213B : ソレダケダヨ。
それだけだよ。

214C : タベル コトナンテ イワネー ムカシワナ ナンデモ
食べる ことなど 言わない 昔はね 何でも

215B : イワネーナ。
言わないね。

216C : タベルコト ソレワ オトシー オトシダマナンカモ
食べること それは ×××× お年玉なども

ヤタラ モラエナイシ (B モラエネーヨ)

やたら もらえないし (B もらえないよ)

神奈川 32-2

ヤラナカッタ ト オモーナ。
やらなかった と 思うな。

217B : イマワ ベタラジャン。

今は すべて [の家でお年玉を出すの] じゃないか。

(C ベタラ) アー

(C すべて) あー

218C : ダカラ オショーカ°ツニ ナルト コドモワ コー ケッコー
だから お正月に なんと 子供は こう けっこう

オーバーチャン コンナニ オコズカイカ° タマツタ
「おばあちゃん こんなに お小遣いが たまった」

ナンザー イッテサ (B ウーン ウン)
なんて 言ってね (B うーん うん)

ミセルヨーダカラネ ヤッパリ ジダイノ ヘンカ
見せるようだからね やはり 時代の 変化

ト ユー モノワ イロイロ アルモンダナ。
と いう ものは いろいろ あるもんだな。

219B : マ ショーカ°ツ バッカリヨ (C エエ)

ま 正月 ばっかりね (C えー)

シャベツテテモ ショーカ°ナーカンペーカラヨ {笑}
話していても しかたがないだろうからね {笑}

神奈川 32-3

ニカ°ツノナ Aサン (A エエー) ニカ°ツノヨー
2月のね Aさん (A ええー) 2月のね

(A おー) ハツンマ [11] アタリー
(A うん) 初午あたり

ヒトツ オー ハツンマニワ イナリコー [12] カ° アッターナー
一つ うん 初午には 稲荷講が あったねえ

220A : ソー ハツンマニワ カナラズ イマデワネー (B オー) エー
そう 初午には 必ず 今ではね (B うん) ええ

マー ダンタイオ スク°ニ ツクッテ ドッカ リョコートカネ
まあ 団体を すぐに 作って どこか 旅行とかね

(B アー アー) オンセンリョコートカ ヤルケレドモ
(B ああ ああ) 温泉旅行とか やるけれども

ムカシノ ヒトワ トテモ ソンナ ソノ ヨユーワ ナカッタダナ。
昔の 人は とても そんな その 余裕は なかったな。

221C : アー アー。
あー あー。

222A : ダカラ マー アー ナニカ コージュー ッテ ユー モノオネ
だから まあ あー 何か 講中 と いう ものをね

(B アー) マー オカネダトカ シナモノオ マイツキ アツメテ
(B ああ) まあ お金だとか 品物を 毎月 集めて

神奈川 32-4

ソーシテ ソレオ アノ イチネンニ ナンドカ
そうして それを あの 1年に 何度か

ヒトトコエ アツマッテ カイシヨクオスル、 ソシテ ハナシアウ
1か所へ 集まって 会食をする、 そして 話し合う

ト ユーノカ° アノ コー コー ト ユーダナ。
と いうのが あの 講 講 と いうんだね。

223B : ソーダネー。

そうだねえ。

224A : ダカラ ソレカ° アノ イナリコートカ ジジンコー [13] トカ
だから それが あの 稲荷講とか 地神講とか

ダイシコー [14] トカ
大師講とか

225B : ソー オシ オ コーシン [15] ダノ。

そー ×× お 庚申だの。

226A : シ ソーユーヨーナ (B ンー) コージュー ト ユーノオ
ん そうというような (B んー) 講中 と いうのを

マー デキタワ デキテル ワケダナ (B ウン)
まあ ×××× できている わけだね (B うん)

ソレカ° ヤッパリ エ チョード オー コレワ ニカ°ツカ°
それが やはり え ちょうど おー これは 2月が

ホレ チョード イナリサンノネ (B ハイ ハイ ハイ ハイ)
ほら ちょうど 稲荷さんのね (B はい はい はい はい)

ハツンマカ° アルンデ ソノ イナリコー ト ユーノオ
初午が あるので その 稲荷講 と いうのを

タイテー ドコデモ ヤッタ モンダナ。 ウーン。
たいてい どこでも やった もんだな。 うーん。

227B : イマノネ コージュノー ハナシダケンドヨ (A ウン)
今のね 講中の 話だけれどね (A うん)

32↑33

ダイタイ ニカ° ツーカラ ハジマッテヨ モー
だいたい 2月から 始まってね もう

コドモノ コロ ヤマノコー [16] セウノモ アッタダケド
子供の 頃 山の講 [と] いうものも あったけれど

228C : アー ヤマノコー アッタナ
あー 山の講 あったな

229A : ヤマノコー テナノカ° アッタナー
山の講 というようなのが あったねえ

230B : ソレワ イチカ° ツノ ジューイクンチカナ
それは 1月の 10幾日かね

ソノ ヒワ ホレ ヤマエ ヘーツチャー イケネートカ イッテヨ
その 日は ほら 山へ 入っては いけないとか いったね

神奈川 33-2

(A ウン ソー ソー) ヤマノコーカ° イチカ°ツニ アツテヨ
(A うん そう そう) 山の講が 1月に あってね

ニカ°ツノ ハツンマニワ イナリコーデシヨ
2月の 初午には 稲荷講でしょう

(C イナリコー) ***
(C 稲荷講) ***

231A : コー テ ユートネ (B ウン) マダ アノ
講 と いうとね (B うん) まだ あの

ダイシコー ッテ ユーノカ° アッタシネ (B ウーン)
大師講 と いうのが あったしね (B うーん)

ソレ ソレカラ ジジンコー ッテ ユーノモ アッタナ
×× それから 地神講 と いうのも あったね

スベテ ソノ ンー ソーユーヨーナ
すべて その んー そうというような

アノ コージュー ッテ ユーノオ ツクッテ ソシテ
あの 講中 と いうのを 作って そして

アノー オー タトエバ ジューニンデモ ニジューニンデモカ°
あの おー たとえば 10人でも 20人でもが

コージュ コーノ ジュー アノー コージューノ ヒトニ ナツテネ
講中 講の ××× あの 講中の 人に なってね

神奈川 33-3

(B ウン) イチネンニ ナンカイカ ヒトットコニ アツマッテ
(B うん) 1年に 何回か 1か所に 集まって

マー ハナシアツタリ ノンダリ タベタリ
まあ 話し合ったり 飲んだり 食べたり

トキニワ ウタツタリ オドツタリ
時には 歌ったり 踊ったり

232B : ソーネ。

そうね。

233A : シテ マー イアンオ ヤッタ ワケダナ ウーン。
して まあ 慰安を やった わけだな うーん。

234B : カンケ[°]ーテミントヨ マー ノーハンキ ロクカ[°]ツ
考えてみるとね まあ 農繁期 6月

ジューイチカ[°]ツ ヌイタ イカ[°]イニワヨ (A ウン)
11月 [を] 抜いた 以外にはね (A うん)

マイツキ アツタミタイ ナンノ コージャネー
毎月 あったみたい 何の 講ではない

カノ コージャネー ツキ イッペングレー
彼の 講ではない [と] 月 1回ぐらい

235A : オー ケッコー (B ウン) イチネンニワ ナンカイカ アツタナ
うん けっこう (B うん) 1年間には 何回か あったな

神奈川 33-4

(B ウン) ウン (B ソレニ) マー ニカ°ツノ
(B うん) うん (B それに) まあ 2月の

イナリコー ッテノカ° イチバン ダイヒョーテキダーナ。
稲荷講と いうのが 一番 代表的だな。

236 B : ソーダネ アト ソレ イカ°イニヨ (A ウン) アノー マ
そうだね あと それ 以外にね (A うん) あの ま

ジジンコーカ° アリ オコーシンカ°
地神講が あり お庚申が

(A オ コーシ コーシ コーシン) オコーシンワ
(A お ××× ××× 庚申) お庚申は

イッカケ°ツ オキク°レーニ アッタノカナ。
1か月 おきぐらいに あったのかね。

237 A : ソーダッタナ。
そうだったな。

238 B : ウン。
うん。

239 A : アレワ マイツキジャネーナ。
あれは 毎月ではないな。

240 B : マイツキジャネー。
毎月ではない。

241A : アノ ヒトツキニ イチネンニ ニドグレーダッタナ。
あの ××××× 1年に 2度くらいだったな。

242B : ソーカナ (A ウン) ジャ ナンダッタカナ (A ウン)
そうかね (A うん) では なんだったかな (A うん)

イッカゲツオキグレーニ ***ダナ イマ ソンナ コーモヨ。
1か月おきくらいに ***だな 今 そんな 講もね。

243C : ゼンゼン ヤラナイナ。
全然 やらないな。

244B : ウチノ ホーデモ ホトンド (A エー)
私の ほうでも ほとんど (A ええ)

ハイシニ ナッチャッタミテーダネ。
廃止に なってしまったみたいだね。

33↑34

245A : ソシテ アノ ソーシキナンカノ トキノ ナニモ
そして あの 葬式などの 時の なんかも

コージュー ッテ ユーノカ° アッテネ (B エー エー)
講中 と いうのが あってね (B ええ ええ)

ソシテ ソノ オツキアイオ シタダナ。
そして その お付き合いを したな。

246C : ソーシキニモ ネー (A エー) ウチ アタリモ
葬式にも ねえ (A えー) [私の] 家あたりも

神奈川 34-2

ワタシガ キテ ズイブン オソーシキオ ダシタケンドモ
私が 来て ずいぶん お葬式を 出したけれども

(A アー ソー ソー) マー ホントニ タイヘンデシタ。
(A あー そう そう) まあ ほんとうに たいへんでした。

(A エー) クミジューオ ヨンデ ンデ
(A ええ) 組中を 呼んで それで

ソノ アシタワネ コドモオ ミンナ ツレテ
その 翌日はね 子供を みんな 連れて

ソレデ タトエ チーサイ オマンジューデモネ
それで たとえ 小さい おまんじゅうでもね

コドモニ クバツタリ クバツタリネ (B ウーン ウン)
子供に 配ったり 配ったりね (B うーん うん)

ミッカカン ト ユー モノワネ アノ アサッカラ ミンナ
3日間 と いう ものはね あの 朝から みんな

クミノ ヒトワ オンナシト オトコシト ミンナ タベサシテ ネ
組の 人は 女性と 男性と みんな 食べさせて ね

イマワ イロイロト カイリョート カイリョーシテ (B ウーン)
今は いろいろと 改良と 改良して (B うーん)

カンタンニ ナツタケレドモ ワタシカ° キタ トキワ マタネ
簡単に なったけれども 私が 来た 時は またね

神奈川 34-3

ウチノ ヒネオジーサンモ オバーサンモ ナクナッテ
家の 曾祖父も 祖母も 亡くなって

オソーシキバツカリ デタノ (B ウーン) ホントニ
お葬式ばかり 出たの (B うーん) ほんとうに

ヤダツタナー ト オモッタナ。 {笑}
いやだったなあ と 思ったな。 {笑}

247B : イヤー ムカシネ アノー コドモノ ジブンニワヨ
いやあ 昔ね あの 子供の 頃にはね

ホラ イマ オバサン ユワレタ アノ
ほら 今 おばさん [が] 言われた あの

コドモマンジューダナ (C ウン) チツチェーノダノ
子供まんじゅうだな (C うん) 小さいんだの

(C ソー) デッケー ソーシキマンジューナンカ アレ
(C そう) 大きい 葬式まんじゅうなど あれ

(C ソー オソーシキマンジュー) ヒキモノニ デラーナヨ
(C そう お葬式まんじゅう) 引き出物に 出るわね

(C ソー マタ) アレカ° ナンカ タノシミ
(C そう また) あれが 何か 楽しみ

ミテーナモンデヨ {笑}
みたいなものでね {笑}

神奈川 34-4

248C : マンジュ ソンデネ (B オー) アノー ンデ コレジャ
まんじゅう それでね (B うん) あのー んで これでは

ナカナカ オソーシキオ ダスニツイテモ イロイロ
なかなか お葬式を 出すについても いろいろ

ヒリョー ヒヨーカ° カカルウエニ
××× 費用が かかるうえに

マタ コー クミニモ コーユー コトオ シテルト
また こう 組にも こういう ことを していると

オタカ°イニ コレジャ アノ ケーザイノ ホーメンデモ
お互いに これでは あの 経済の 方面でも

カンカ°エルノカ° ヨカロー ナンカ イロイロト (B ウーン)
考えるのが よいだろう など いろいろと (B うーん)

ウエノ ヒトカ° ソーダンシテ ソーシテ ハタラク ヒトワ
上の 人が 相談して そうして 働く 人は

ハタラク オンナシダケニ マー ネ ヤルヨーニ シテ
働く 女性だけに まあ ね やるように して

(B ウン) ダケンド ソーシタラネ コドモマンジュー
(B うん) だけれど そうしたらね 子供まんじゅう

ハイシシタノ ソーシタラ ソノ トキワ ホーボーデ
廃止したの そうしたら その 時は ほうぼうで

コドモカ° ナイタソーダ。
子供が 泣いたそうだ。

249B : ハハー ハァー。
ははー はー。

250C : オッカチャンカ° オソーシキニ イッテコラレタ マンジューオ
お母さんが お葬式に いらっしゃった まんじゅうを

オヒル タベネーデ マツテタ。
お昼 食べないで 待っていた。

251B : オー オー。
うん うん。

34↑35

252C : ***** ヘー オソーシキカ° アツテモ マンジューワ ヒカネー
***** もう お葬式が あっても まんじゅうは 出さない

オレ オマンマ クワネーデ マツテタ マンジューカ°
私は 御飯 [を] 食べないで 待っていた まんじゅうが

タベランネー セツテ。
食べられない [と] いて。

253B : ホー。
そう。

254C : オラー マコ°ニ ナカレチャッタ ナンテ (B ウン)
私は 孫に 泣かれてしまった なんて (B うん)

神奈川 35-2

ソンナ ヨク ハナサレタ コトカ° アルケド
そんな よく 話された ことが あるけれど。

255B : イヤ タシカニヨ。
いや たしかにね。

256C : ソレカ° トツゼン ソーユウ コト ナツテ
それが 突然 そういう ことになつて

マエ マエニワ コドモワ オマンジューナンカ タベルコト
×× 前には 子供は おまんじゅうなんか 食べること [は]

ホトンド (B ナイ ナイ) ネー カモナ
ほとんど (B ない ない) ない かもな

257B : ウーン ナマカ°シ ナンテ (C ウン)
うーん 生菓子 なんて (C うん)

メッタニ クチニ ヘンネーカラヨ (C ウン ウン ソー)
めったに 口に 入らないからね (C うん うん そう)

ソノー ソーシキマンジューカ° タノシミデナ
その 葬式まんじゅうが 楽しみでね

258C : オソーシキマンジューカ。 (B オー)
お葬式まんじゅうか。 (B うん)

テンチョーセツ [17] ニネ ワタシナンカ
天長節にね 私など

神奈川 35-3

オマンジュー モラエタンダヨ。
おまんじゅう [が] もらえたんだよ。

259B : ソーダネ コーハクノ (C ウン) オマンジューカ°ネ
そうだね 紅白の (C うん) おまんじゅうがね

260C : ソレカ°ネ ヒ ヒトツ タベテ ウチニ モッテコーカ。 へ
それがね × 一つ 食べて 家に 持って行こうか。 ×

タベテ ジブンモ タベタイノ。(B ウン)
食べて 自分も 食べたいの。(B うん)

ダケンド オトートカ° マッテルカラ (B ウン)
けれども 弟が 待っているから (B うん)

デ ソレマデノ ウチノ ガマンシテ モッテクルダヨ。
で それまでの 間の [を] がまんして 持ってくるんだよ。

261B : アー。
ああ。

262C : モ ンデ ミンナシテサ モラッテキタカラ タベベーヨ ッテ
× それで みんなでね もらってきたから 食べようよ と

ミンナカ° ソノ ヨロコブ カオカ° マタ ウレシクテナ
みんなが その 喜ぶ 顔が また うれしくてね

(B ウン) ンデ ガマンシテ ミタケド イマデ
(B うん) それで がまんして みたけれど 今で

神奈川 35-4

カンケ[°]ールト イマワ マンジュードコ イク[°]ラ アッタッテ。
考えると 今は まんじゅうどころか いくら あったって。

263B : ウン。
うん。

264C : シメーニワ アンコモ ナニモネー イケ[°]ナク ナッチャー
最後には 餡も なにもない いけなく なってしまう

コドモノ トキワ ワタシラ ソーユー オモイ シテ
子供の 時は 私達 [は] そういう 思い [を] して

ソダッタカラナ。
育ったからね。

265B : イマノ コダ
今の 子だ

266A : イヤ アノネ (C ウン) ワタシ タ アノ オラタチガ
いや あのね (C うん) 私 × あの わたしたちが

アノ コドモノ ジブンノネ クノ ッテ ユー トコワネ
あの 子供の 頃のね 久野 と いう ところはね

ソノ ヒンプノ サダナ (B ウン) クメンノ イー ヒトト
その 貧富の 差だね (B うん) 工面の いい 人と

ビンボーニントノ サカ[°] ウント チカ[°]ウンダヨ (B ウン)
貧乏人との 差が たいへん 違うんだよ (B うん)

神奈川 35-5

ソレカ°ネ キョクタンニ チカ°ッテタダナ。
それがね 極端に 違っていたんだね。

イマノ ヒトワ イマ クノワ マー アー
今の 人は 今 久野は まー あー

サンゼンナンコ アルケレドモ
3,000何戸 あるけれども

ソノ ヒンプノ サ ト ユー モノカ° アンマリ
その 貧富の 差 と いう ものが あんまり

ダンダンニ ナクナッテキテルノ。
だんだんに なくなってきているの。

ワタシタチノ コドモノ ジブンノ ソノ マ
私達の 子供の 頃の その ま

イワユル オダイジン テ ユワレル ヒトトネ ビンボーニントノ
いわゆる 資産家 と いわれる 人とね 貧乏人との

サ ッテ ユー モノワ ウーント チカ°ッテイタナ。 ウン。
差 と いう ものは たいへん 違っていたね。 うん。

ソーユー テンカ°ネ イマワ アリカ°タイ ト オモワネ。
そういう 点がね 今は ありがたい と 思うわね。

ウーン。

うーん。

35↑

神奈川県小田原市1983注記

- [1] オロヌイテ
オロヌクは、間伐する。
- [2] ボサ
草むら、篠笹などが密生した灌木のむれ。
- [3] カズケル
責任を他に負わせる。
- [4] チガヤミシロ
チガヤで編んだ敷物。チガヤは、イネ科の多年草。高さ30～60cm。荒地などに群生し、春、白い毛のある小さい花を穂のように多数付ける。
- [5] ゴカンニチ
正月の3日間を「三が日」というように、正月の5日間を「ゴカンニチ」・「ゴカンチ」という。また、1月5日のことをさす。ここでは後者の意味である。
- [6] オキテライラー
本来は、「オキテイラレラー」である。接続助詞「テ」の後の補助動詞「イ」が省略され、また、尊敬の助動詞「ラレル」の連用形「ラレ」がイ音便になっている。それに接尾語「ラ」が接続している。
- [7] セートバレー、サイトバライ
せーとやき。さいとやき。道祖土焼。正月の14日または15日に松飾りやしめ縄などを焼く火祭。左義長。どんどんやき。
- [8] ライコージ
来光寺は1593(文禄2)年の創建といい、風土記稿に「○薬師堂塑像を置△疱瘡神社△別当来光寺三宅山と号す。当山修験、伊勢国山田世儀、寺袈裟下、本尊不動」とある。ずっと古くから庶民の信仰の対象として栄えたようである。現在は真言宗東寺派に属し、川端・宮下の2部落で管理している。
- [9] シューカ°ク
第20世東泉院住職、秀岳和尚。

- [10] マンカ[°]レー, マンカ[°]ーライ
まんがあらい。まんが一れ。まぐわあらい。馬鋤洗。田植えや種まき終了の祝い。
- [11] ハツンマ
2月の最初の午の日。京都の伏見稲荷大社の神が降りた日がこの日であったといい、全国の稲荷神社で初午祭が行われる。
- [12] イナリコー
稲荷講。稲荷神社の主神、を信仰する人たちの集まり。
- [13] ジシンコー
地神講。にとして地神を祭る講。多くは神体化した「地神」、「地神塔」の文字を刻んだ石塔をもつ。
- [14] ダイシコー
大師講。陰暦11月23日夜から24日にかけての民俗行事。この夜は大師（弘法大師、聖徳太子など地方により不特定）が姿を変えて訪れるとされ、小豆粥を供える。
- [15] コーシン
庚申。干支の57番目。暦に対応させ、庚申にあたる年、または日のこと。かのえさる。
- [16] ヤマノコー
山の講。2月と10月（または11月）の2度行われる山の神の祭り。講を組織した信者たちが団体で行う。
- [17] テンチャーセツ
天長節。天皇の誕生日を祝う日。4大節の一つ。1868(明治1)年に制定。第2次大戦後は天皇誕生日と改称。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)～54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

(3) 調査内容

- ①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)
- ②老年層の男性1人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

③老年層の女性2人の対話，または，老年層の女性3人の会話（1時間）

④老年層と若年層との対話，または，両者を含む3人の会話（1時間）

⑤老年層の男性2人の，目上の者と目下の者の対話（2時間）

⑥場面設定の対話（1時間，各場面につき1～3分程度）

場面に応じて，老年層の男性2人の対話，または，老年層の男女各1人による対話

⑦当該地域に伝わる民話（1時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，

⑧老年層の女性2人の，目上の者と目下の者の会話（1時間）

または，

⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，2人の対話（1時間）

を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡楸法華村
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

青森県

- 02a 下北郡川内町
- 02b 北津軽郡市浦村
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町

02e 弘前市

岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町
- 04b 栗原郡築館町
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村
- 05d 河辺郡雄和町
- 05e 湯沢市

山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町
- 06d 東田川郡朝日村
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町
- 07c 大沼郡昭和村

茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村（一鹿嶋市）
- 08e 古河市

栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町

群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀨町
- 11f 入間郡大井町

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町
- 12b 印旛郡印西町 (一印西市)
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村

石川県

- 17a 羽咋郡押水町

福井県

- 18a 坂井郡芦原町
- 18b 勝山市
- 18c 南条郡南条町
- 18d 敦賀市
- 18e 遠敷郡名田庄村

山梨県

- 19a 塩山市
- 19b 大月市
- 19c 韮崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曾郡開田村

岐阜県

21a 高山市

21b 大野郡白川村

21c 中津川市

21d 岐阜市

21e 揖斐郡徳山村

静岡県

22a 静岡市

22b 榛原郡本川根町

22c 磐田郡水窪町

22d 賀茂郡松崎町

22e 浜名郡新居町

愛知県

23a 北設楽郡設楽町

23b 西春日井郡師勝町

23c 岡崎市

23d 豊橋市

23e 常滑市

三重県

24a 安芸郡美里村

24b 阿山郡阿山町

24c 志摩郡阿児町

24d 北牟婁郡海山町

24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

25a 長浜市

25b 高島郡安曇川町

25c 神崎郡能登川町

25d 大津市

25e 甲賀郡甲賀町

京都府

26a 中郡峰山町

26b 舞鶴市

26c 船井郡丹波町

26d 京都市

26e 相楽郡山城町

大阪府

27a 高槻市

27b 大阪市

27c 八尾市

27d 河内長野市

27e 泉佐野市

兵庫県

28a 豊岡市

28b 朝来郡生野町

28c 神戸市

28d 相生市

28e 洲本市

奈良県

29a 大和郡山市

29b 宇陀郡榛原町

29c 五條市

29d 吉野郡下北山村

29e 吉野郡十津川村

和歌山県

30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町

30b 和歌山市

30c 御坊市

30d 田辺市

30e 新宮市

鳥取県

- 31a 鳥取市
- 31b 米子市
- 31c 日野郡日野町

島根県

- 32a 仁多郡仁多町

岡山県

- 33a 勝田郡勝央町
- 33b 新見市
- 33c 岡山市
- 33d 小田郡矢掛町
- 33e 笠岡市

広島県

- 34a 三次市
- 34b 府中市
- 34c 広島市
- 34d 因島市
- 34e 安芸郡倉橋町

山口県

- 35a 萩市
- 35b 大島郡大島町
- 35c 徳山市
- 35d 美祢市
- 35e 豊浦郡豊北町

徳島県

- 36a 鳴門市
- 36b 阿南市
- 36c 美馬郡脇町
- 36d 海部郡海南町
- 36e 三好郡東祖谷山村

香川県

- 37a 小豆郡土庄町
- 37b 木田郡三木町
- 37c 丸亀市
- 37d 仲多度郡多度津町
- 37e 観音寺市

愛媛県

- 38a 越智郡大三島町
- 38b 西条市
- 38c 松山市
- 38d 大洲市
- 38e 宇和島市

高知県

- 39a 室戸市
- 39b 高知市
- 39c 高岡郡梶原町
- 39d 幡多郡三原村

福岡県

- 40a 北九州市
- 40b 遠賀郡芦屋町
- 40c 築上郡新吉富村
- 40d 飯塚市
- 40e 嘉穂郡稲築町
- 40f 福岡市
- 40g 八女市

佐賀県

- 41a 東松浦郡鎮西町
- 41b 鳥栖市
- 41c 佐賀市
- 41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町

大分県

44a 東国東郡国東町

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡頰娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

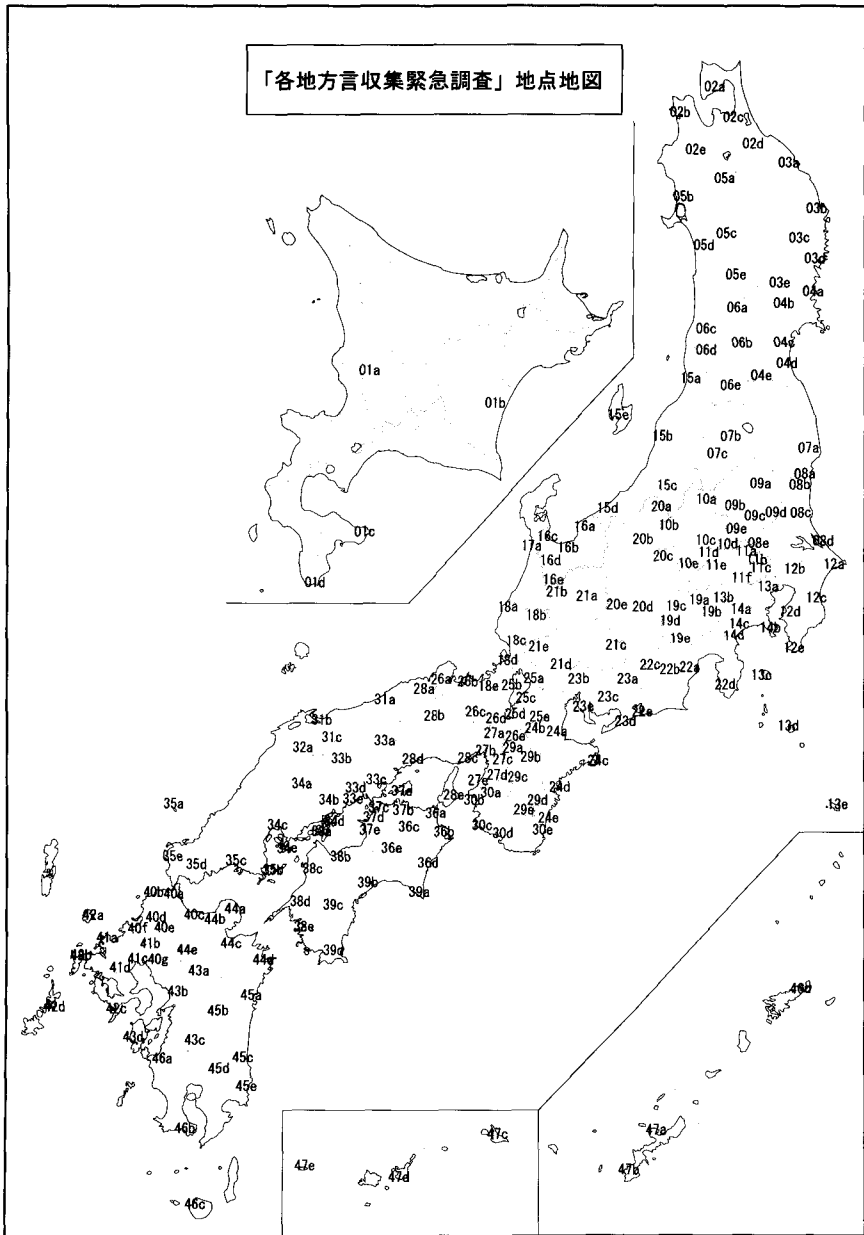
47b 那覇市

47c 平良市

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2001. 10. 01作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1. 年次計画

| 年度 計画 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 備考 |
|-------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|----|
| 第1次 | 8 | 8 | 8 | | | | | | | |
| 第2次 | | 8 | 8 | 8 | | | | | | |
| 第3次 | | | 6 | 6 | 6 | | | | | |
| 第4次 | | | | 8 | 8 | 8 | | | | |
| 第5次 | | | | | 10 | 10 | 10 | | | |
| 第6次 | | | | | | 3 | 3 | 3 | | |
| 第7次 | | | | | | | 4 | 4 | 4 | |
| 実施県数 | 8 | 16 | 22 | 22 | 24 | 21 | 17 | 7 | 4 | |
| (千円) 予算額 | 6,000 | 12,210 | 18,150 | 18,150 | 18,000 | 15,750 | 12,750 | 5,250 | 3,000 | |

2. 調査県一覧

| 第1次 (S.52~54) | 第2次 (S.53~55) | 第3次 (S.54~56) | 第4次 (S.55~57) | 第5次 (S.56~58) | 第6次 (S.57~59) | 第7次 (S.58~60) |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 宮城 | 北海道 | 青森 | 岩手 | 福島 | 茨城 | 群馬 |
| 秋田 | 山梨 | 栃木 | 山形 | 埼玉 | 福井 | 神奈川 |
| 千葉 | 長野 | 東京 | 新潟 | 富山 | 鳥取 | 京都 |
| 石川 | 山口 | 岐阜 | 奈良 | 愛知 | | 兵庫 |
| 大阪 | 香川 | 静岡 | 島根 | 三重 | | |
| 広島 | 佐賀 | 岡山 | 福岡 | 滋賀 | | |
| 高知 | 大分 | | 長崎 | 和歌山 | | |
| 鹿児島 | 沖縄 | | 熊本 | 徳島 | | |
| | | | | 愛媛 | | |
| | | | | 宮崎 | | |
| 8県 | 8県 | 6県 | 8県 | 10県 | 3県 | 4県 |

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年 5月 1日

文化庁長官裁定

(昭和62年 6月 1日廃止)

1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

| 名称 | 対象経費の区分 | 項 | 目 | 目の細分 | 説明 |
|--------------|---------|----------|-----------------|---------------------------|------------------------------------|
| 各地方言収集緊急調査事業 | 主たる事業費 | 各地方言収集調査 | 報償費 | 〇〇謝金 〇〇文字化謝金 〇〇協力謝金 | 調査員、調査補助員等謝金 資料 |
| | | | 旅費 | 普通旅費 費用弁償 特別旅費 | |
| | | | 需用費 | 消耗品費 印刷製本費 会議費 | 野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会 |
| | | | 役務費 | 通信運搬費 | 郵便、電信電話料等 |
| | | | 使用料及び賃借料 委託料 | 会場借上料 器具借上料 〇〇委託費 | 事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る） |

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年7月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

2. 録音内容・話者

ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

- (1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話
- (2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話
- (3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音を得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかかなりの差があることが多いので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観，話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通，地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また，話者の経歴，録音内容などについては，「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは，2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

| | |
|-----------------|---------------|
| | NO. <u>正</u> |
| ○ ○ 県 | —○ |
| | (副) |
| 各地方言収集緊急調査録音記録票 | 補助要項 の記号 |
| 1 採録地点 | _____ |
| 2 採録年月日 | _____ |
| 3 話題・時間 | A面 _____ ()分 |
| | B面 _____ ()分 |
| 4 話者 | _____ |
| | _____ |
| 5 採録機種 | _____ |

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説(初年次のみ)、(3) 録音文字化原稿の順で表紙(B4板目紙)を付けて綴ってください。

| | |
|---------------------|------|
| ○ | ○ |
| ○○県(昭和 年度) | |
| 各地方言収集緊急調査 文字化原稿 | |
| (正) 又 は 副 | |
| 調査地点 | ○○○○ |

(3) 文字化原稿の用紙

- | | | |
|------------|---|----------|
| ① 録音内容記録票 | } | (別紙のとおり) |
| ② 方言資料割付用紙 | | |
| ③ 方言調査解説用紙 | | |

調査実施上の留意事項について

1 調査（方言収録）の年次計画

| 年次 | 調査の内容（記号は実施要領による） | 採録時間 | 解説・文字化時間 |
|-----|---------------------------------------|------|----------|
| 1年次 | ① 老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アー（1）） | 10 | 2 |
| | ② 老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アー（2）） | | 1 |
| 2年次 | ① 目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ） | 10 | 2 |
| | ② 老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アー（3）） | | 1 |
| 3年次 | ① 老年層と若年層との会話（イ） | 10 | 1 |
| | ② 場面設定の会話（エ） | | 1 |
| | ③ 民話（オ） （民話が収録できないときは，（注）参照。） | | 1 |
| 計 | | 30 | 9 |

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）2部

(2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1部

副……正のコピー 2部

3 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

| | |
|---|--|
| ○ ○ 県 各地方言収集緊急調査録音記録票 | NO. 正 ー〇 (副) |
| 1 採録地点 _____ 2 採録年月日 _____ 3 話題・時間 A面 _____ () 分 B面 _____ () 分 4 話者 _____ _____ _____ 5 採録機種 _____ | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 補助要項 の記号 </div> |

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

| | |
|---|---|
| ○ | ○ |
| <p>○○県（昭和 年度）</p> <p>各地方言収集緊急調査 文字化原稿</p> <p>（正） 又 は 副</p> <p>調査地点 ○○○○</p> | |

(3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
 - ② 方言資料割付用紙
 - ③ 方言調査解説用紙
- } 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について (国語研・言語変化研究部でまとめたもの)

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の「□□」には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンター付きの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位に分ち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「,」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音のカタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的な音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kaŋami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [ma[~]do] (窓)

カンゴ [ka[~]go] (籠) ー高知方言などー

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。

例 クワジ [kwa[~]zi] (火事) ー九州方言などー

(オ) [se] [dse] はシェ、ジェのように表わす。

例 シェナカ [se[~]naka] (背中) ー九州方言などー

(カ) [ti] [di] はティ、デイ, [tu] [du] はトゥ、ドゥのように表わす。

例 トウキ [tu[~]ki] (月) ー高知方言などー

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ、フィ、フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸe[~]bi] (蛇) ー奥羽方言などー

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イェダ [je[~]da] (枝) ー九州方言などー

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ、カエ、サエのように表す。

例 アカエー [akæ:] (赤い) ー岡山方言などー

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア、ケア、セアのように表わす。

例 アゲア [aɛ] (赤い) ー奥羽方言などー

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ^(注)→^注 [kɕimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聞き取りが困難な箇所には _____ 線を付けておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを _____ 線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー^(注)→^注 「カステクロエ」または
「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聞き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聞き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を _____ 線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー^(注)→^注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聞き取り不能の箇所には、 _____ 線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように () を利用し、発言

が重複する部分に 線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ^トモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレアー) アト スク^イ モツテクッカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に 線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシエ マズ。 チョイット
ナカ^ス キター。

B イヤ イソカ^ス スインダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴジュー

×× ×××××

ゴジューエングラエージャッタカー。

オ 笑い声などは文字化本文中に（ ）に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

- ⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを（ ）に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声的特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

② 音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）

③ 文法上の特色（要点のみ。簡条書き）

4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室(当時)、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子(情報資料部門第一領域)である。所外研究委員として、佐藤亮一氏(東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所)、江川清氏(広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所)、田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部)、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、作成データベース名「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名「全国方言談話資料データベース」作成委員会として、また、平成14(2002)年度には、作成データベース名「全国方言談話データベース」、作成委員会名「全国方言談話データベース」作成委員

会として、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けて、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めてきた。作成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には、「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお、このデータベースの作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

| 年度 | 課題番号 | 補助金交付額 |
|--------|--------|------------|
| 平成9年度 | 57 | 1,800,000円 |
| 平成10年度 | 64 | 1,800,000円 |
| 平成11年度 | 501027 | 1,800,000円 |
| 平成12年度 | 128032 | 2,800,000円 |
| 平成13年度 | 138031 | 4,600,000円 |
| 平成14年度 | 148034 | 5,200,000円 |

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的良好に残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の

伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、収録内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の文字化テキストと、それに対応するデジタル録音音声とを抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては、原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・

年齢・職業などの情報をまとめる。

- ⑭校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに、それを pdf ファイルにする。
- ⑮文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて、文字化の text ファイル、共通語訳の text ファイルを作成する。
- ⑯音声データは、デジタル化した後、サンプリングレート、音声ファイル形式などの調整を行い、音声 wave ファイルを作成する。そして、それを文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。
- ⑰CD-ROM は、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようにする。
- ⑱CD には、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑲録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地へ赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑳「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ㉑作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、または、音声はカセットテープ・MD、文字は FD を媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。
- ㉒検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は、冊子、CD-ROM、CD から成り、方言談話の音声 (wave ファイル)、文字化 (カタカナ表記, text ファイル)、共通語訳 (漢字かなまじり表記, text ファイル)、文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの (冊子, pdf) などを収録している。従来にはあまりなかった、音声、文字化、共通語訳の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては、国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄 (情

報資料部門), 委員として, 熊谷智子 (研究開発部門第二領域), 三井はるみ (研究開発部門第二領域), 井上優 (日本語教育部門第一領域), 井上文子 (情報資料部門第一領域) が担当した。

なお, 刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名: 『国立国語研究所資料集 13-1~20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻: 冊子1冊 A5判 約200ページ, CD-ROM1枚, CD1枚

| 巻数 | 巻名 | ISBN | 刊行順 |
|------|----------|---------------|-----|
| 第1巻 | 北海道・青森 | 4-336-04361-2 | 15 |
| 第2巻 | 岩手・秋田 | 4-336-04362-0 | 16 |
| 第3巻 | 宮城・山形・福島 | 4-336-04363-9 | 17 |
| 第4巻 | 茨城・栃木 | 4-336-04364-7 | 4 |
| 第5巻 | 埼玉・千葉 | 4-336-04365-5 | 5 |
| 第6巻 | 東京・神奈川 | 4-336-04366-3 | 6 |
| 第7巻 | 群馬・新潟 | 4-336-04367-1 | 7 |
| 第8巻 | 長野・山梨・静岡 | 4-336-04368-X | 12 |
| 第9巻 | 岐阜・愛知・三重 | 4-336-04369-8 | 13 |
| 第10巻 | 富山・石川・福井 | 4-336-04370-1 | 14 |
| 第11巻 | 京都・滋賀 | 4-336-04371-X | 1 |
| 第12巻 | 奈良・和歌山 | 4-336-04372-8 | 2 |
| 第13巻 | 大阪・兵庫 | 4-336-04373-6 | 3 |
| 第14巻 | 鳥取・島根・岡山 | 4-336-04374-4 | 8 |
| 第15巻 | 広島・山口 | 4-336-04375-2 | 9 |
| 第16巻 | 香川・徳島 | 4-336-04376-0 | 10 |
| 第17巻 | 愛媛・高知 | 4-336-04377-9 | 11 |
| 第18巻 | 福岡・佐賀・大分 | 4-336-04378-7 | 18 |
| 第19巻 | 長崎・熊本・宮崎 | 4-336-04379-5 | 19 |
| 第20巻 | 鹿児島・沖縄 | 4-336-04380-9 | 20 |

国立国語研究所資料集13-6

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成

第6巻 東京・神奈川

2002年12月30日 発行

編集：国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

TEL：03-3900-3111（代表）

FAX：03-3906-3530（代表）

URL：<http://www.kokken.go.jp>

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>

（平14-08）